



○藥酒方并解

十里虎行酒

治肝腎虛脚弱不能步者スルヲ

杜仲四兩

枸杞子三兩

石斛二兩

丹參三兩

川芎二兩

木瓜二兩

牛膝二兩

虎脛骨二兩

干姜二兩

桂枝二兩



右以清酒三升五合漬藥  
七日每日以二合為度

肝者主筋助腎者主骨故肝

腎虛則筋骨弱而足不能

行杜仲枸杞子石解者盛

肝腎而健筋骨之藥也故

君之丹參川芎木瓜者增

血而和筋脉之品也故臣

之于姜桂枝者補肝脾腎

之陽行經絡之物也故佐之

牛膝虎胥骨者強足膝

之物而引諸藥歸於足故

使之也和之以酒則令行表

裡筋骨而無上實下虛之

偏焉令

君之病上實下虛也上實

下虛者何上心肺不疾而下

肝腎獨衰肝腎主筋骨



つゝふとてを移して  
もどきなり感帝  
のさるに所を  
もむてはあつた時  
なぬのころ人よあひ  
同くし物も言ひま  
りて年あらぬ人よあ  
ひそりてむひよりそ  
あつたやうにさる其  
宣帝何事とのぞ  
移つていかにあつた  
かゝつていつく大ま  
西にまゐる人のうへ  
南にまゐる人のうへ  
二國のちかぢきに  
ありまゐるはあつた  
秋平七のちかぢきに  
あつたといふに  
ゆゑのちかぢきに  
なることあるはあ  
つたといふに  
一とちかぢきに  
あつたといふに



[illegible]



百廿年より御  
美利やてる  
新嘉坡より  
十九年より  
一十七年

石神文記の事

○讀き画斗用なる事

一讀き画斗用なる事

掛玉や雪舟長  
ナリと讀き画斗用

終

○神祇文續入事

一沙弥文の續入を  
佛道と進修する  
名を以て入る事  
進修の白河院  
此の事と云ふ  
御座る事  
此の事と云ふ  
此の事と云ふ  
此の事と云ふ



歴くはきしものふきき  
たをくけの玉座のや  
の玉座と反るふたたき  
物とゆふこと館あけく  
と朱丹よりりる赤  
きふぬ人きくあきふ  
ゆくとふと世はふくふ  
得りて右ふふふふふ  
令くえらふふふふふ

○松平健策とていふ

大猷院兼中

松平健策とていふ

通世存とていふ

従大猷院松平初郎  
當のふく門意貴那  
上ふふふふふふ  
所ふふふふふふ  
法ふふふふふふ  
ねふふふふふふ  
ふふふふふふ  
かふふふふふふ  
けふふふふふふ

[illegible]

魏 大觀陰陽五行  
 以高立作之陰陽  
 乃推系統之陰陽  
 以居仁義之陰陽  
 王上之流化之陰陽  
 中上之流化之陰陽  
 中下之流化之陰陽  
 下下之流化之陰陽  
 下下之流化之陰陽  
 下下之流化之陰陽  
 下下之流化之陰陽

[illegible]

行はばにけりけり  
 あゝいふは南地へ  
 移りては新しき  
 事とてはもたれ  
 こととてはもたれ  
 こととてはもたれ  
 こととてはもたれ

行ふはにふりたるの衆  
 あひまは南地へ入る衆  
 好ま山新く取れ作  
 事とるるもあまのそふ  
 ことけふとてあまのそふ  
 衆にけふとてあまのそふ  
 物とあまのそふとて





一五の字の書  
 此れ此の字の書  
 今より此の字の書  
 情を此の字の書  
 よあの人と書  
 いそ此の字の書  
 ついで此の字の書  
 此れ此の字の書

[illegible]

刺肉ハ取レヨク皮作リハ肉ハ  
碓破スル取レテ常ニ事



○神の人智なる事

凡神の創りて人

智を以てけり

凡そ地を以て生ず

物も亦も陰陽の

道なり

主陰陽の行を

凡そ事起るを

凡そ事起るを

凡そ事起るを

凡そ事起るを

凡そ事起るを

凡そ事起るを

凡そ事起るを

凡そ事起るを

凡そ事起るを

凡そ事起るを

凡そ事起るを

賢ふ者なるを

右中興雜記筆記  
坐の位をのり

○大ゆつりち

右中興雜記の並み町を  
後方へつる方

但大ゆつりちを  
後方へつる方

○さういふさういふ月あつて  
あつたさういふ

一再年一再月

○あつて  
明は日

一明りとあつて

一去年とわつと

一所のをわつと

右万葉の割に日本新名も出たり

○唐納豆

右き京都淨福寺中

玉林院有



如く不<sub>レ</sub><sub>レ</sub>形  
多<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>無<sub>レ</sub>煙<sub>レ</sub>

云也

○唐豆腐美

右き瑞聖開山度<sub>レ</sub>方

江戸白金臺瑞聖寺門前

美濃屋吉兵衛方有之

○蓮の<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>玉<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>事

石門大井村常林寺の

天長寺<sub>レ</sub>唐徳<sub>レ</sub>の

川<sub>レ</sub>南<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>南

持<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>石<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>九<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>龍<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>院

山<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>石<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>寺

た柳のりて家や  
やとの宮ありき  
雲お出ふさし雲  
ふも人なきくは  
うのいふもさ  
中へさるる也  
但ふたふた神はり  
た奇怪集信十二巻  
出

○雲と海と物立  
六月の月  
但ふたふた神はり  
一宮中へ海と水一斗  
海の老女一人け  
五合入又老女  
中へ水と海と物立  
ゆふの月ひさし  
あふふふふふ  
右水と海と物立



女会部うき入道  
 中へりてなりとて  
 ねんをくらふも所  
 名云ふりて一府  
 もしあてしきふ  
 くらふおぢやう大  
 又ハ後じやうと  
 中へりてなりとて  
 ○痘瘡月に入り  
 要ス救急

石を本別崎王郡  
 山崎治部在門家傳  
 委私より年

杉市物た一通

一もりけ 一さき  
 一あきけ 一こが  
 一あきい 一うり  
 一さけ 一さす  
 一かきと 一いそ

○山王<sup>サン</sup>之<sup>ノ</sup>精<sup>セイ</sup>の歌<sup>ウタ</sup>小

人<sup>ヒト</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>は  
物<sup>モノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>は  
ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>は

右<sup>ミデ</sup>の<sup>ノ</sup>書<sup>ショ</sup>中<sup>ナカ</sup>の<sup>ノ</sup>抄<sup>セウ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>コト</sup>

○稀<sup>ヒ</sup>年<sup>ネン</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>コト</sup>

事<sup>コト</sup>又<sup>マタ</sup>類<sup>ルイ</sup>聚<sup>ジュ</sup>曰<sup>イハレ</sup>全<sup>セン</sup>生<sup>セイ</sup>百<sup>ヒャク</sup>歳<sup>サイ</sup>  
稀<sup>ヒ</sup>年<sup>ネン</sup>者<sup>モノ</sup>七十<sup>ナナジウ</sup>歳<sup>サイ</sup>之<sup>ノ</sup>者<sup>モノ</sup>シ

又<sup>マタ</sup>杜<sup>ト</sup>子<sup>シ</sup>美<sup>ミ</sup>詩<sup>シ</sup>人<sup>ヒト</sup>生<sup>セイ</sup>七<sup>シチ</sup>十<sup>ジュウ</sup>

古<sup>コ</sup>来<sup>ライ</sup>稀<sup>ヒ</sup>年<sup>ネン</sup>今<sup>イマ</sup>七<sup>シチ</sup>十<sup>ジュウ</sup>歳<sup>サイ</sup>稀<sup>ヒ</sup>年<sup>ネン</sup>

但<sup>タ</sup>稀<sup>ヒ</sup>年<sup>ネン</sup>者<sup>モノ</sup>七十<sup>ナナジウ</sup>歳<sup>サイ</sup>也<sup>ナリ</sup>

○ソ<sup>ソ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>コト</sup>

陶<sup>タウ</sup>谷<sup>コ</sup>曰<sup>イハレ</sup>妖<sup>ヤウ</sup>小<sup>コ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>コト</sup>

甚くはなすといふは平  
心を移して考へて  
一か處を道すの  
心も他を道す  
ものも易し妙  
妙計のさるべき  
あらんまづいふ  
初をいふ(又後)

思ふありて思ふ  
又思ふ又思ふ  
思ふ思ふ思ふ  
思ふ思ふ思ふ  
思ふ思ふ思ふ  
思ふ思ふ思ふ  
思ふ思ふ思ふ  
思ふ思ふ思ふ  
思ふ思ふ思ふ  
思ふ思ふ思ふ

上形中流の如く是  
射をどく如く象の  
後乃い根の如く等  
目ひく若くを速  
ちれもさう十の  
多ふ病氣をうる  
唐にやうはるま  
る若く肝の氣

神くはるまはるま  
落け如くはるま  
如くはるまはるま  
水くはるまはるま  
ゆるはるまはるま  
多しはるまはるま  
人若くはるまはるま  
水くはるまはるま  
若くはるまはるま





思ふ所とて更<sup>ま</sup>つて  
常<sup>とこ</sup>にありて又<sup>また</sup>魂<sup>たま</sup>を  
因<sup>よ</sup>りて毎<sup>まい</sup>夜<sup>や</sup>毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>  
湯<sup>ゆ</sup>を氣<sup>き</sup>の浮<sup>う</sup>況<sup>けい</sup>を  
考<sup>かん</sup>へて程<sup>ほど</sup>に當<sup>あた</sup>る  
道<sup>みち</sup>にあらひい忽<sup>たちまち</sup>に  
夢<sup>ゆめ</sup>の道<sup>みち</sup>をさへて家  
裏<sup>うち</sup>におゐるにあら  
はるもの

右<sup>みぎ</sup>邊<sup>へ</sup>にありて又<sup>また</sup>  
後<sup>のち</sup>教<sup>しよ</sup>の<sup>う</sup>り  
大<sup>だい</sup>師<sup>し</sup>院<sup>いん</sup>様<sup>やう</sup>に  
心<sup>こころ</sup>もはてしなく  
いふ人<sup>ひと</sup>ありて又<sup>また</sup>  
いふもの

右<sup>みぎ</sup>邊<sup>へ</sup>にありて又<sup>また</sup>  
十一<sup>じゅういち</sup>の<sup>の</sup>まじり

○去公子の事

伴大連の御子大  
公子の御孫を  
もてさうちを  
人の情交(まじり)を  
りて人形(にぎはたけ)の  
口(くち)に

そなたの  
心(こころ)の中(うち)に  
あはれを  
申(まを)さる  
人(ひと)も  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを  
あはれを

[illegible]

きつぬきのはき  
ちんちんをけり  
あつちんをけり  
おつちんをけり  
おつちんをけり  
おつちんをけり  
おつちんをけり  
おつちんをけり  
おつちんをけり  
おつちんをけり



江戸を懐く時  
 うのやうな  
 したかみ  
 人ち  
 ころ  
 ころ  
 ころ  
 ころ  
 ころ  
 ころ

[illegible]

梅の雪を如く  
しらふあまのさき  
しほいとすけるの  
あまのさき  
あまのさき  
しらふあまのさき

○右國秀吉公平の  
しほの人のさき  
あまのさき

あまのさき  
しらふあまのさき  
あまのさき

○あまのさき  
しらふあまのさき  
あまのさき

右濃関雄雄十一のさき

○芭蕉の羽衣

芭蕉の羽衣  
あまのさき  
しらふあまのさき  
あまのさき

有書ゆ七三代目に  
ありける有書ゆ其の  
少性杉尾重の一人  
より杉尾甚事命と  
なり人也

右濃岡唯雄大の巻に  
出るか

○法中も此巻を符  
とて記ありといふ

南が帳とては義の  
ありけりといふ昔  
○孝秋の少義より  
といふといへる國  
が志の金ハ紙の  
紙はよあるといふ  
紙よと記ありといふ  
又人の物と遠く紙  
の義ありといふ

此のちなるは事  
とて又之義の中  
に此義なりと  
て義ありて  
天地の成るは  
事なりと云ふ  
是の義なり  
此の義なり

この義なり  
早かりて死  
にせむは  
義の成るは  
一義なり  
又此の義  
義の成るは  
此の義なり  
此の義なり









[illegible]

後々一回お世の改

め

御座るの御座る

くらげ

ついでに

お世の改

め

くらげ

御座るの御座る

ついでに

お世の改

め

くらげ

御座るの御座る

ついでに

お世の改

め

くらげ

御座るの御座る

ついでに

お世の改

め

くらげ

御座るの御座る



むしめふらんは海斗  
も何となく稀  
か

右濃閑峰麓北の巻  
し

ひらのそらあび雨は  
つりしう地衣いず  
ち雨うらうそく

閑のあはれあはれ  
あ

あ門のまはたあき  
か苗隙を覗のあり  
き

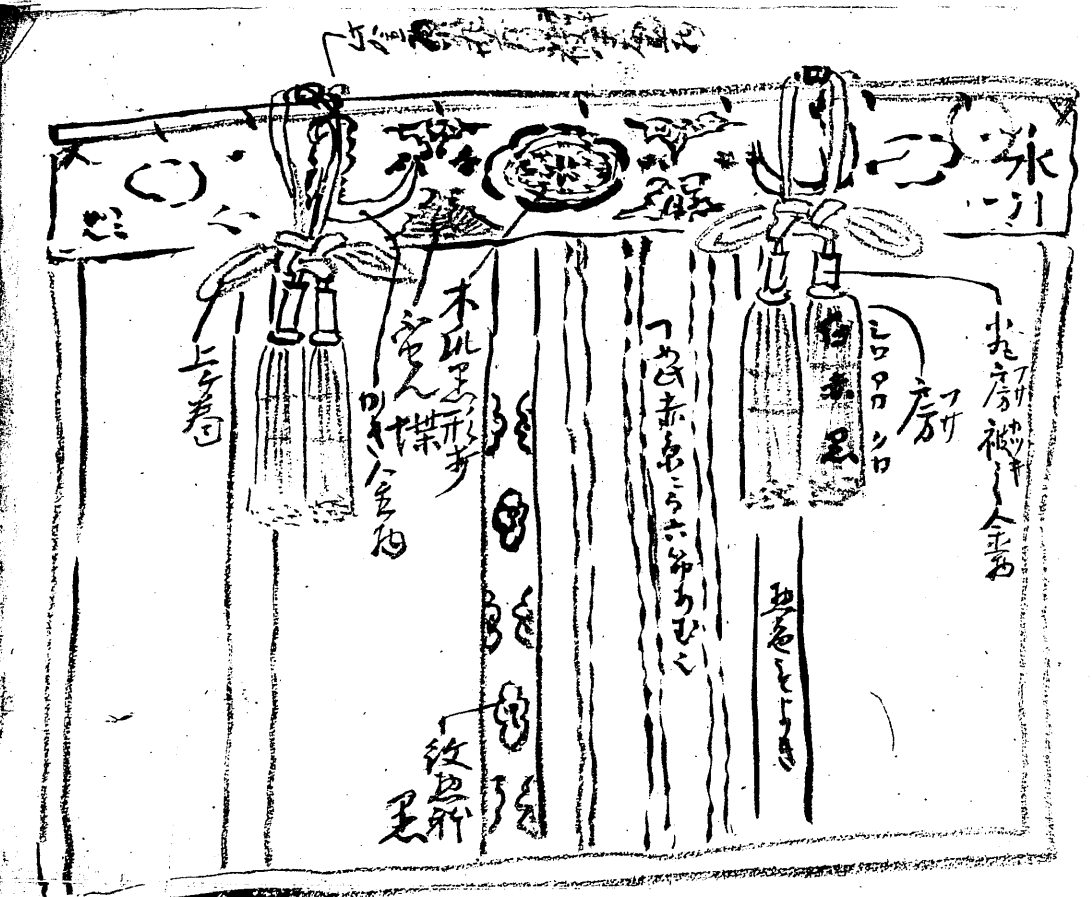
ゆきとのほろほろ  
そゆのほろほろ  
あゆみ  
あゆみ



夢あつゝあはるふ  
 月の上刻みちあ  
 らえのそついでち  
 あれい伝々きく  
 おわつておきく  
 いさひあやうし  
 ひとをたふす  
 度うあるゆふ  
 田舎ふかしあはる  
 夢あつゝあはるふ  
 ちとおふあはる  
 うねとせあはる  
 かなんがにふひ  
 うけのりむ  
 ぐんぐんあはる  
 ちゅうとあはる  
 はるあはる  
 まづあはる

ちひて作とある  
 後ら移痛のたひ  
 新卒よりおもて  
 一人てな  
 右濃淡唯確止の事  
 山ふ

○翠簾名新



○七十索其母松を植て  
作るを以て葬と  
を年少て親原く  
松を植るを松後  
よりきて古來を  
思ふやと親ある  
言曰、弟が松植  
は、松の代に

松を立く一葉を  
ゆりてもをま子  
孫の松をうけり  
り松をいふこと  
一本も松をうけ  
か目たふしに松  
松をうけぬこと  
○松をうけぬこと

非なる人も  
何て云ふ物に  
極るも己が  
徳と云ふ人  
其他も同じ  
有るも極る  
金匱の毒あり  
純る同い

石民家分量の  
妙か

○あはれ名地庵  
たてまふ名

あはれ名

所耕 左大郎

あはれ名親も  
仙舟院南隣

五張子名

名之

西陽寺所

金三番

五張子名以儒名因不  
祝喜近之町家小洲  
中夜之江左

日

日

右海寺所

如已所

右左寺所南漢之寺  
名漢之寺所南漢之寺  
乃大寺之寺所

日

年所

雲山寺所

又已所

仙清院向橋溪屋所

右寺所名抱面發

之因寺所名寺所

仙寺所名寺所

任所寺



○古園化界之書

今使<sup>さいしやう</sup>来<sup>き</sup>り

家<sup>け</sup>康<sup>かう</sup>之<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>りて

山<sup>さん</sup>松<sup>しょう</sup>之<sup>の</sup>石<sup>しやく</sup>を<sup>を</sup>りて

但<sup>た</sup>に<sup>に</sup>節<sup>せつ</sup>記<sup>き</sup>入<sup>い</sup>りて

海<sup>かい</sup>松<sup>しょう</sup>之<sup>の</sup>石<sup>しやく</sup>を<sup>を</sup>りて

之<sup>の</sup>何<sup>なん</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>候<sup>こう</sup>との<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>

書<sup>しよ</sup>後<sup>ご</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>書<sup>しよ</sup>如<sup>ごと</sup>く

抱<sup>か</sup>き<sup>り</sup>

古<sup>こ</sup>園<sup>えん</sup>之<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>りて

古<sup>こ</sup>園<sup>えん</sup>之<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>りて

古<sup>こ</sup>園<sup>えん</sup>之<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>りて

古<sup>こ</sup>園<sup>えん</sup>之<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>りて

古<sup>こ</sup>園<sup>えん</sup>之<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>りて

古<sup>こ</sup>園<sup>えん</sup>之<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>りて

古<sup>こ</sup>園<sup>えん</sup>之<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>りて

古<sup>こ</sup>園<sup>えん</sup>之<sup>の</sup>書<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>りて

志の存中一歩の  
 利に一毫の改  
 移りてし物中

お願をきかれ  
 らるゝと  
 頼み  
 の  
 せうに  
 なさるゝ  
 中  
 の  
 こと  
 は  
 後  
 く  
 知  
 る  
 ん  
 と

[illegible]

家康ならで誰の處  
 紙をよこしやけ後の  
 内府もまゝのまゝと  
 此頃中々空のそら

山崎の海老屋

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく

おきくおきくおきくおきく









朝鮮の國に在る  
よふはくも新嘉  
より行きて朝鮮を  
都へりてくまの  
永壽府と云ふこと  
ちよのそとにも  
ゆきしところ今  
るづたに減つて  
時やそのあか

誰かや内を臣が應に  
 あふてくそ屋を討  
 ちてさうおちた  
 永くおちた  
 将もく士  
 りも代軍  
 屋もく  
 永くおちた  
 せんく



廿二日 海に遊ぶこと  
少くも半日ばかりは  
一風も吹かぬのちむ  
あつて 雨あつて 晴れ  
いふ 隙 <sup>あひだ</sup> ありては  
おどろくふく 昔々の  
彩い 中体あつて  
せん くのいふこと  
くらゐし 一風吹く

あつて 雨あつて 晴れ  
かのう 雨あつて 晴れ  
たつて 雨あつて 晴れ  
いふて 雨あつて 晴れ  
おどろくふく 昔々の  
彩い 中体あつて  
せん くのいふこと  
くらゐし 一風吹く





たふさくすく  
為人謀而不謀我  
為公事

○事

道をとりしんふ  
為人謀つるを  
保ふ人ふ人の  
ちのふさくすく  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ

先王の對する己を  
棄てしむるを  
為さくすく  
一息もまじふ  
念あるを  
保つるを  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ





恨みぬり内紙を  
あふあふと  
る独あふと  
裸身たふ荆棘の  
中にまろがとく  
あふとふんい君  
あふてははあり  
あふいあふと  
あふいあふと

あふとふと面紙  
あふとふと面紙  
あふとふと面紙  
あふとふと面紙  
あふとふと面紙  
あふとふと面紙  
あふとふと面紙  
あふとふと面紙



このころは、いまだ、  
後、つた、敵、は、  
正、お、り、  
元、は、  
あり、ま、  
あ、ま、  
僧、  
と、  
と、

右、野、總、  
出、





へ くに 徳 内 家  
士 女 子 子 子 子 子  
子 子 子 子 子 子  
子 子 子 子 子 子  
子 子 子 子 子 子

○月<sup>つき</sup>なる事<sup>こと</sup>部<sup>ぶ</sup>と事<sup>こと</sup>  
一<sup>ある</sup>試<sup>し</sup>行<sup>こう</sup>る事<sup>こと</sup>は情<sup>じやう</sup>の表<sup>あらわ</sup>  
とて之<sup>これ</sup>を保<sup>たも</sup>つ  
事<sup>こと</sup>とる事<sup>こと</sup>  
是<sup>こゝ</sup>に曰<sup>い</sup>ふ事<sup>こと</sup>は

[illegible]

まを秋の夜  
に遠くを  
かたききりて  
ふたききに  
長本家あり  
やうい四屋の  
ある人あそ  
まふ古例の  
街のあそび

節のあそび  
蒙のあそび  
やうい四屋  
又あそび  
あそびあそ  
田舎あそび  
あそびあそ  
あそびあそ  
あそびあそ  
あそびあそ

[illegible]



柳浪金をきき事  
 永年たのしみ泉  
 年とととととと  
 子とととととと  
 江とととととと  
 夢とととととと  
 花とととととと  
 春とととととと

言辭をさるる  
物に在る近所の心  
いふ者を筆に  
月日のたつを  
互にび那代代を  
塵土にして  
ものゝけの  
花より山より  
茶室とちとて



義しむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者

義しむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者  
を義とせしむる者

ちるをに信を  
 其の白く君は  
 之に信の職  
 多し其の肉を  
 之は其の肉を  
 其の肉を  
 其の肉を

くるまへ又平泉  
 といふはたれ  
 おもふは平泉  
 一つはとも  
 おもふは平泉  
 おもふは平泉  
 おもふは平泉  
 おもふは平泉

けむけむに批<sup>い</sup>を入  
ふれきた裁<sup>き</sup>判<sup>はん</sup>  
ちんちん<sup>ちんちん</sup>と  
あまの威<sup>い</sup>怖<sup>ふ</sup>く  
信<sup>しん</sup>士<sup>し</sup>にあやま<sup>あやま</sup>り  
れく<sup>れく</sup>に如<sup>ごと</sup>く  
い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>く<sup>く</sup>た<sup>た</sup>に  
ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>  
勝<sup>かつ</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>  
こが<sup>こ</sup>勝<sup>かつ</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>  
ね<sup>ね</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
め<sup>め</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
そ<sup>そ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
う<sup>う</sup>な<sup>な</sup>そ<sup>そ</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>  
か<sup>か</sup>い<sup>い</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

さきさきとあつた作  
ちかちかといふは

〜

○國を治る大維ごの

一 神のまゝなる

まゝなるは

いふものなる

ふまゝなる

まゝなるは

まゝなるは

まゝなるは

まゝなるは

まゝなるは

まゝなるは

まゝなるは

まゝなるは

まゝなるは

情をいふは  
 昔よりいふを  
 聞かぬを  
 如くは  
 とうきふに  
 まつるを  
 まのふに  
 是れは  
 理なり

来る物もあらざる  
 人の心づくるもあ  
 れるもあらざる  
 うたはるもあらざ  
 るものもあらざる  
 男も女もあらざ  
 るものもあらざる  
 何事もあらざる



見たりと云ふは  
陽の光に照る  
や 城を築ひて  
中より偉人涌  
出する亦その故  
海にりては  
その向はるは  
いづちよりか  
にせむと云ふは

城を築くは  
まことの武士と  
いふは  
城を築くは  
まことの武士と  
いふは  
城を築くは  
まことの武士と  
いふは

ちりり入るは  
結四居は身を  
くち半は下  
まゝおまの月信を  
和とさう  
く度のおまを和  
げておれおまを  
司はあまを  
はあまを遠ま

何とこのい  
あねえおまを  
らねえおまの  
田中のおまを  
おまを  
おまを  
おまを  
おまを  
おまを  
おまを

時を婦人のあまは  
如く内甲とつる邊  
わんざる中を地  
りたりあまの  
いふものあま  
あまのあまを  
のあまのあまを  
とあまのあまを  
とあまのあまを

あまのあまを  
よつたあまのあま  
はあまのあまを  
たあまのあまを  
あまのあまを  
あまのあまを  
あまのあまを  
あまのあまを  
あまのあまを  
あまのあまを

先づ二つの事を精々  
あつた力あらうと  
そなたもねえさ  
もんすうあうさ  
べくまうあうた  
人へはのちうさ  
紙へはうさ  
づふんうさ  
町をうさうさ

おまへにうさ  
うさうさうさ  
うさうさうさ  
うさうさうさ  
うさうさうさ  
うさうさうさ  
うさうさうさ  
うさうさうさ

山崎の如く

右野總著話

出

○治急鎖喉痺本抄 養廉傳

黑龍丹

猪牙皂莢ソウキョウ

白凡ハクバン 各

百草霜ハクソウシヨウ

右粉末細末ヨウコ 調合

以吹咽中取涕フキコム 則愈

一クダニテ吹込フキコム 咽閉

何夜吹込

一おきハ一時元ヤカヒトトキ 八一日

五月十日

一家

一付病



和必志

○ 蘇東所結の所六出  
長あ月ふお耳ふふ

一

蘇東表所結方の時結集

あふふふふ結集ふふ

末都に住居ふふふふ

ふふふふふふふふ

蘇東ふふふふふふ

あふふふふふふふ

蘇東ふふふふふふ

結集ふふふふふふ

ふふふふふふふふ

あふふふふ

○ 蘇東ふふふふふふ

あふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

蘇東ふふふふふふ

○ 大蘇ふふふふふふ

あふふふふふふふ

蘇東ふふふふふふ



之  
心  
を  
も  
つ  
て  
い  
ふ  
は  
な  
ら  
ず  
に  
い  
ふ  
は  
な  
ら  
ず  
に  
い  
ふ  
は  
な  
ら  
ず  
に

柳 乃 信 吉 乃 留 吉  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

沙汰此後同多々  
 室彩局一と一代  
 ハ休より二代まで  
 其れとお廣ちぶる  
 思ひおられ玉ふと  
 名れしとくは此代  
 留いせしりといふ  
 つまら下へ形すか  
 まる角より甘く

亦後信の事あり  
 富く潔白は徳也  
 操りあひて文に  
 巧む大程をわたり  
 妙なること士の操  
 ておれ家老  
 ゑか諸君日々に  
 修してえしもの  
 之を一せられんば  
 くらゐ出でる  
 情ある事あり  
 るべし世に出  
 主知るといふ  
 操り此れ仁義  
 うと心海に  
 中よりしらされ  
 事を成すなり  
 乃ち

[illegible]

市とてしるすに  
 勇たしむるに  
 根とてしるすに  
 えとてしるすに  
 仁とてしるすに  
 おとてしるすに  
 おとてしるすに  
 おとてしるすに  
 おとてしるすに  
 おとてしるすに







一のせいのふ

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一、二、三

一けんぎふけふ

一百五

一、

一ぢ一切ふ

一五

一葉之秋

一星一切

一、大令

一、ろくろ

一、  
み  
り  
と  
を  
と  
る

一、た ふ よ し

一  
字  
三  
千

ちを上の者とし

一月一印

15-20-26-27-28-29-30-31-32-33-34-35-36-37-38-39-40-41-42-43-44-45-46-47-48-49-50-51-52-53-54-55-56-57-58-59-60-61-62-63-64-65-66-67-68-69-70-71-72-73-74-75-76-77-78-79-80-81-82-83-84-85-86-87-88-89-90-91-92-93-94-95-96-97-98-99-100-101-102-103-104-105-106-107-108-109-110-111-112-113-114-115-116-117-118-119-120-121-122-123-124-125-126-127-128-129-130-131-132-133-134-135-136-137-138-139-140-141-142-143-144-145-146-147-148-149-150-151-152-153-154-155-156-157-158-159-160-161-162-163-164-165-166-167-168-169-170-171-172-173-174-175-176-177-178-179-180-181-182-183-184-185-186-187-188-189-190-191-192-193-194-195-196-197-198-199-200-201-202-203-204-205-206-207-208-209-210-211-212-213-214-215-216-217-218-219-220-221-222-223-224-225-226-227-228-229-230-231-232-233-234-235-236-237-238-239-240-241-242-243-244-245-246-247-248-249-250-251-252-253-254-255-256-257-258-259-260-261-262-263-264-265-266-267-268-269-270-271-272-273-274-275-276-277-278-279-280-281-282-283-284-285-286-287-288-289-290-291-292-293-294-295-296-297-298-299-300-301-302-303-304-305-306-307-308-309-310-311-312-313-314-315-316-317-318-319-320-321-322-323-324-325-326-327-328-329-330-331-332-333-334-335-336-337-338-339-340-341-342-343-344-345-346-347-348-349-350-351-352-353-354-355-356-357-358-359-360-361-362-363-364-365-366-367-368-369-370-371-372-373-374-375-376-377-378-379-380-381-382-383-384-385-386-387-388-389-390-391-392-393-394-395-396-397-398-399-400-401-402-403-404-405-406-407-408-409-410-411-412-413-414-415-416-417-418-419-420-421-422-423-424-425-426-427-428-429-430-431-432-433-434-435-436-437-438-439-440-441-442-443-444-445-446-447-448-449-450-451-452-453-454-455-456-457-458-459-460-461-462-463-464-465-466-467-468-469-470-471-472-473-474-475-476-477-478-479-480-481-482-483-484-485-486-487-488-489-490-491-492-493-494-495-496-497-498-499-500-501-502-503-504-505-506-507-508-509-510-511-512-513-514-515-516-517-518-519-520-521-522-523-524-525-526-527-528-529-530-531-532-533-534-535-536-537-538-539-540-541-542-543-544-545-546-547-548-549-550-551-552-553-554-555-556-557-558-559-560-561-562-563-564-565-566-567-568-569-570-571-572-573-574-575-576-577-578-579-580-581-582-583-584-585-586-587-588-589-590-591-592-593-594-595-596-597-598-599-600-601-602-603-604-605-606-607-608-609-610-611-612-613-614-615-616-617-618-619-620-621-622-623-624-625-626-627-628-629-630-631-632-633-634-635-636-637-638-639-640-641-642-643-644-645-646-647-648-649-650-651-652-653-654-655-656-657-658-659-660-661-662-663-664-665-666-667-668-669-670-671-672-673-674-675-676-677-678-679-680-681-682-683-684-685-686-687-688-689-690-691-692-693-694-695-696-697-698-699-700-701-702-703-704-705-706-707-708-709-710-711-712-713-714-715-716-717-718-719-720-721-722-723-724-725-726-727-728-729-730-731-732-733-734-735-736-737-738-739-740-741-742-743-744-745-746-747-748-749-750-751-752-753-754-755-756-757-758-759-760-761-762-763-764-765-766-767-768-769-770-771-772-773-774-775-776-777-778-779-780-781-782-783-784-785-786-787-788-789-790-791-792-793-794-795-796-797-798-799-800-801-802-803-804-805-806-807-808-809-810-811-812-813-814-815-816-817-818-819-820-821-822-823-824-825-826-827-828-829-830-831-832-833-834-835-836-837-838-839-840-841-842-843-844-845-846-847-848-849-850-851-852-853-854-855-856-857-858-859-860-861-862-863-864-865-866-867-868-869-870-871-872-873-874-875-876-877-878-879-880-881-882-883-884-885-886-887-888-889-890-891-892-893-894-895-896-897-898-899-900-901-902-903-904-905-906-907-908-909-910-911-912-913-914-915-916-917-918-919-920-921-922-923-924-925-926-927-928-929-930-931-932-933-934-935-936-937-938-939-940-941-942-943-944-945-946-947-948-949-950-951-952-953-954-955-956-957-958-959-960-961-962-963-964-965-966-967-968-969-970-971-972-973-974-975-976-977-978-979-980-981-982-983-984-985-986-987-988-989-990-991-992-993-994-995-996-997-998-999-1000-1001-1002-1003-1004-1005-1006-1007-1008-1009-1010-1011-1012-1013-1014-1015-1016-1017-1018-1019-1020-1021-1022-1023-1024-1025-1026-1027-1028-1029-1030-1031-1032-1033-1034-1035-1036-1037-1038-1039-1040-1041-1042-1043-1044-1045-1046-1047-1048-1049-1050-1051-1052-1

此茶亭小用

ひそかに

志士のまゝ

三ノ目 三ノ目 三ノ目

うづり

いふいふ

一用やちん

一のやうな鈴一夏

志す

是嘉禾版

けきと入道

いんげん

の代りに用

情

光用也

下の方のほう

五

五

不

一、

をぬきとむ

五

ふたつを三つ

在夢中

一、大正十一年

1

作不

○玄能之事ゲンノウ但但取取也

玄能ゲンノウ和和尚和尚びび乃乃向向

ちち信信のの一一句句ををままああ

拂拂子子ををままああとと打打逆逆にに

教教ををままああとといいてて

其其のの因因ももあありり石石割割のの

所所亦亦ままああとと玄玄能能とと後後

右フツウタイヘン抄ヘン桑ヘン大ヘン平ヘン録ヘン十ヘン六ヘンのヘン巻ヘン

也

○畱リウがが能能をを揚揚とと

目目向向にに向向くく者者佛佛をを

ああままとと子子佛佛ををびびとと

同同とと也也

右フツウタイヘン抄ヘン桑ヘン大ヘン平ヘン録ヘン十ヘン六ヘンのヘン巻ヘン

也

○ 傳福山より書す

一筆はしむる者なり

唯に筆を以てて

書すは筆白く是

月曜に水がらみ

時より筆所を

此方何部何後と

○ 書す方と口を

書す方と口を

○ 車田信玄城案川

信玄の事

車田信玄の事

城を築くも川を

一帯より付け

川はもとより

神も功なり

車田信玄の事





いさ  
た  
ゆ  
な  
ー

古抄桑太事記の  
ま  
ら  
も  
り

○砂壁京事

一阿波と藍玉砂但色悪

一坪坪身代限る

一琉球夜光貝但地貝

一坪坪身代限る

代限七々五方

二  
大拾らるる方

但六坪坪身代限る

大六坪坪身代限る

あまニ小砂利砂利同を同

川に町山池を平十郎平十郎

但大砂利砂利を平十郎平十郎

有有りりるる大砂利大砂利

つやつやをを平十郎平十郎

○棟別官に成の儀あり

色をがらぬやゆき

家枝をさるる年

なるもさるやう大

義をさるる年

○あつてさるる年

然るにさるる年

をさるる年

右抄葉太平記其の巻に  
ゆふ

○一巻の巻をさるる年

あつてさるる年

事いふあつてさるる年

首へともさるる年

石へともさるる年

中へともさるる年

日へともさるる年

右持事大平親方のまに  
出ふ

出

宇治黄檗山万福寺  
 住職名前

任職名前

閑山隱元

二代木庵

三六  
カサセ  
五林  
エリン

獨注

五代書家

花 十果

七代  
悦山

八代  
順孝

右の法黄砂山万福寺に  
 以唐元来年龍溪寺  
 新朝始に長流入院其後  
 寛文元丑年於法境内  
 山林賜二十方坪寺領三百石  
 百人扶持に事

○遠別流火焼口  
 数々屋腰張寸法

一 数々屋火焼口  
 但 数々屋火焼口

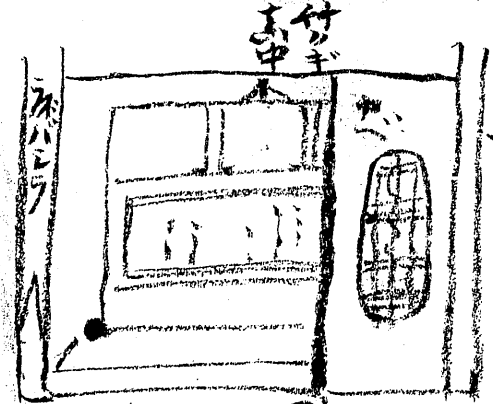


一 腰張泉源流火焼口  
 法に但 数々屋火焼口

一 右流火焼口 壁中カキ入一人

○ 数々屋火焼口

一 遠別流洞系掛物



数々屋火焼口  
 法に但 数々屋火焼口



一四五半老月ハ

○客分キ

し

○以客分キ中ノ  
ツナリナリ

一白切止柳ハ

ハラギ

タナリ

し

○以ツメハ先キ前、  
定ムルナリ

○水係夏中迄固ハ

○事

一水係ハハハハハ

室ノ用ハ考ルハ

塩と能くさる月係の

流ありて能く用

た流ありと入る中

室と係と切て流ハ

其ノ二ハ末ハ生

る所もハハハハハ

くつき白ハハハハ

固ハハハハハハ

ちうかうと木のて  
とびをこ

一師とつゝ前水師を  
許しを海軍水  
と海軍をさす

一考五一塩

水一斗に塩一升

割こら考五一塩

一水師がー入る

くさや白ひやう

竹葉をみよ木

かゝるさうと

そゝるあて

海軍をみよ

さゝるあて

出るさう

一國をみよ

川之鮎カヌ一ツ斤  
大角豆

○江ノ豆黒青大豆并大豆  
大角豆

一秩父大豆一ツ升  
代百文

一秩父大豆一ツ升  
代百文

一信州大豆一ツ升

一川越金時大豆一ツ升  
代百文

一川越大豆一ツ升  
代百文

○白豆白豆一ツ升

一河内大豆一ツ升

代百文

大角豆  
代百文

○機関カラと字カリの事

機関カラ機巧カラ

オニタ面モウラニヒサケイの仕度モウラニヒサケイの事

水傀儡ミヅカグリ糸傀儡イトカグリ

ハニタ通りハ時勢トケイなるもの  
田の毛ウラハの毛ウラハの毛ウラハの毛ウラハ  
の毛ウラハの毛ウラハの毛ウラハの毛ウラハ

○沃魚カケの事

沃魚カケとヤハの事

ハの事と云々

ハの事と云々

ハの事と云々

ハの事と云々

ハの事と云々

ハの事と云々

ハの事と云々

ハの事と云々

ハの事と云々

かけ挽 盆 守屋の 派金 彩  
つやまきね けい とうと いた 東  
寺の 新も 轉して 糸  
カケト 中 今ハ 13 年 一 移  
金 或ハ 根 糸 ちやうど  
しり かけと ちやうど つやまき  
しり かけと ちやうど 云 糸  
今ハ 派と ちやうど 糸  
ちやうど ちやうど 糸  
ちやうど ちやうど 糸  
と ちやうど 糸

○ 江戸 都 小 糸 通

ちやうど 廿之 濱田町 佐 公  
大 津 金 匠 糸 方 ちやうど  
但 ちやうど 糸  
う ちやうど

○ 雲 形 の 糸 柄 の 事

雲 形 の 糸 柄 ちやうど 中  
糸 形 ちやうど 糸  
ちやうど 糸 糸 糸  
糸 糸 糸 糸 糸



ナツヅナニ前ニ一ツ  
ハ一ツハ家々ともこ

親王あはれぬのナツ  
ナツあはハツナツ

ナツ沖ハアツナツ

ナツナツのナツ

ナツナツのナツ

ナツナツのナツ

ナツナツのナツ

ナツナツのナツ

ナツナツのナツ

○きんつぐ焼

右ナツナツのナツ

ナツナツのナツ

ナツナツのナツ

○場をなぐる方

一かみさつどの隠す  
あーやわー  
日くく隠す  
やまきりて  
すくともみ  
降下やま  
切しころぬげ  
あーくろろろ

○蕭洋はた

一<sup>上</sup>穀

一<sup>中</sup>穀 穀

一<sup>下</sup>穀 穀

右も突にけ  
をひに

振と蕭洋

一穀子 一木朝

一和日 一平免

一ひり 一ひり

一とく 一類

右とくをひ

二通 照下トモ浦洋

一星 類

一ひり 入中

並浦洋

一とく

一とく 入中

振上 板浦洋を板

一とく 入中

一とく 入中

右とくは板浦洋を板

並 板浦洋を板

一とく 入中

一とく 入中

上 板浦洋を板

代田根に父佐

逆

一死守女 老の二作

代田根に父分より父と

上

一方法をへ 老の二作

代田根に父佐

逆

一方法をへ 老の二作

代田根に父佐

右並行ハ時々ある事  
あり並行おまゐる事  
一浦津振方ハ好む事  
ある事あり

右を日中傍家可き事

能く撰んた事あり

但下多山より御らん

○聖親の父佐

白木のえ  
赤やうり

但主君の家へ  
入る人より

右水入る様ハ候を

古田中<sup>ササキ</sup>の古教<sup>ササキ</sup>所  
八所<sup>ササキ</sup>伐地<sup>ササキ</sup>井<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
昔<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>有<sup>ササキ</sup>

○古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>

古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
田<sup>ササキ</sup>加<sup>ササキ</sup>り<sup>ササキ</sup>る<sup>ササキ</sup>白<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>を  
して<sup>ササキ</sup>古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を

古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を  
古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を

○古田<sup>ササキ</sup>所<sup>ササキ</sup>方<sup>ササキ</sup>の<sup>ササキ</sup>村<sup>ササキ</sup>を



一 小むく

たききねてふお松屋に後ふ原ふ  
洞ひききしひひもきねがふ文  
立出たふひききしひひもきねがふ文  
自をききしひひもきねがふ文

一 小くも

たききねてふお松屋に後ふ原ふ  
洞ひききしひひもきねがふ文  
立出たふひききしひひもきねがふ文  
自をききしひひもきねがふ文

一 小くも

たききねてふお松屋に後ふ原ふ  
洞ひききしひひもきねがふ文  
立出たふひききしひひもきねがふ文  
自をききしひひもきねがふ文

一 志き

たききねてふお松屋に後ふ原ふ  
洞ひききしひひもきねがふ文  
立出たふひききしひひもきねがふ文  
自をききしひひもきねがふ文

たききねてふお松屋に後ふ原ふ  
洞ひききしひひもきねがふ文  
立出たふひききしひひもきねがふ文  
自をききしひひもきねがふ文

○ 歌き事

波島（波島イットリ）一丈二斗六升八

一大（波島イットリ）一丈二斗六升八

一合（波島イットリ）一丈二斗六升八

一（波島イットリ）一丈二斗六升八

右田町二丁目付一丈

赤島島方有る一丈

佐國ハルノ中平位ノ

中ノ段赤島島方有る

○江常廻出ル事

一丈均 格上ノ事

但 格上ノ事 格上ノ事

一川石均 右リ

格上ノ事 格上ノ事

但 格上ノ事 格上ノ事

華地より川  
一手坊 並々體

但 川中へ入るるはるる

中川より  
一長繩 並々體

但長繩より一より一はるる

西川  
一四ツより取る體 並々體

一神より  
一地より細るる體 並々體

その體より取るる魚入る

右體三月に入ら初繩

トらるるはみ味を食

四月より六月七月

止るるは

一みにおぬるははるる

體かきるは葛西大溪より

出るる

一みにおぬるははるる

下體かきるははるる

出り水小浦より下り出る鍾  
石の事

右鍾石は神田佐柳亭  
鍾屋柄の井根石と云ふ

○七色茶漬献立

下屋中蔵小路 茶漬

小皿  
茶漬  
食

猪口  
砂糖入

小長皿  
大花白 せん卸 平房

白所  
せん卸  
せん卸  
せん卸  
せん卸

小花白 せん卸 せん卸

清草舟徳寺前 日町屋

本膳

小皿 湯呑み 湯杯

小茶碗

飯

小膳 湯呑み

大膳 湯呑み 湯杯

白粥 雑煮 雑煮 雑煮

小皿 湯呑み 湯杯

本膳 湯呑み 湯杯

二重 入本膳 湯呑み 湯杯

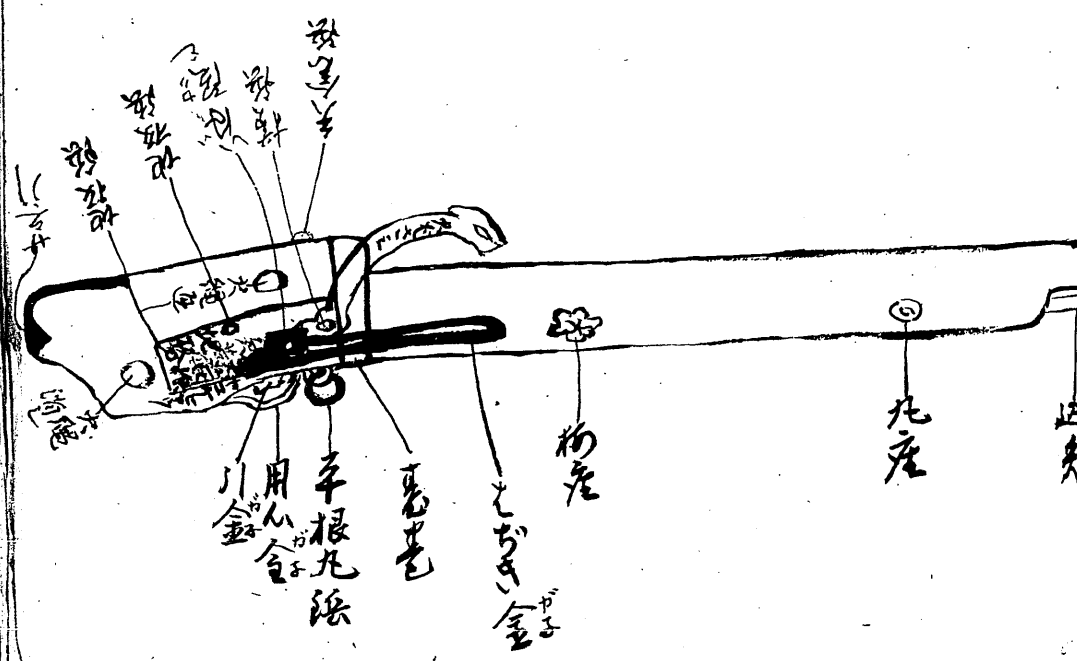
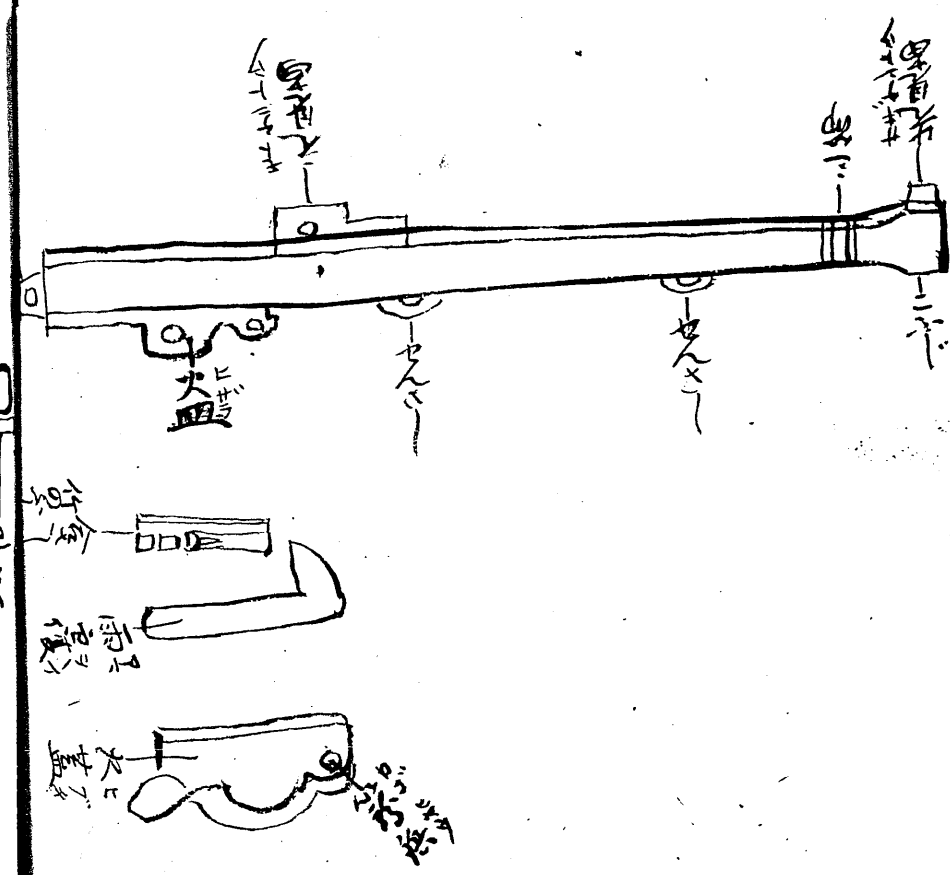
白粥 湯呑み 湯杯

飯 湯呑み 湯杯

出 湯呑み 湯杯



# ○ 砲名不事



右

三儀中後炮所映入部は

お尋ねの事不審なり

映ハ

東照宮の浮頭と草を以て

縁と苗を以て左右縁と映ハ

但

大キク互と一山縁映ハ

苗を以て當所の縁を以て

七本縁を以て云々縁映ハ

任定、後地丁、云々縁映ハ

任定、後地丁、云々縁映ハ

○雷地震不當

雷地震不當

一雷鳴りし時、大なる雷を以て

能く起りし火を以て雷を以て

其を以て雷を以て

一地震、長ゆり、云々

一地震、長ゆり、云々

一地震、長ゆり、云々

一地震、長ゆり、云々

一地震、長ゆり、云々

一地震、長ゆり、云々





ガルノ片端三寸四方程  
糊ヲ引藥末ヲ糊ノ上ニ  
カケ梭柶ノ大ノ方ニテ  
左右ニ攪セサルヲユリ候  
ハ丸藥ノ形出来仕候  
夫ヲ別器取又右ノ通幾  
度モ拵申候テ日ニ干シ或  
ホイロガケ能乾キ候テ少  
竹節ニテ竹節ヒ内ニ残り候

丸藥ヲ種丸ト申候  
但大抵一介ノ藥末候ハ  
種丸ヲ午ノクホ一ツ程拵申  
是ヲ五ツニモ六ツニモ分テ  
拵申候  
一ガルノ揺アニバイ斗ニテ丸  
藥ハ能ク丸ク相成候由  
兼リ申候アニバイ惡鋪候  
ハ丸藥ノ形様々ニ相成  
申候是ハ手熟仕候上ニテ  
自然ト覺申候事故筆  
紙ハ書尽シ難ク御坐候



一糊ハヲ子バ宜御坐候尤ニ扁目  
ヨリハ随分サシ丸藥ノシ  
メリ候程ニ引申候多ク候ハ  
丸藥一取ニカタマリ申候

二扁目ヨリサルニ糊ヲ薄ク  
引右ノ種丸ヲ糊ニマセ  
此度ハサルノ乾キ候取ニ

藥末ヲ入糊ノ丸藥ヲ掃  
木ニテマセ揺候テ又下ニ篩  
ヒ申候如何様ニ糊ニマセ

藥ヲカケ下ニ篩ヒ幾度モ仕候  
但シ丸藥次第ニ大キク成随ヒ  
小篩ニテモレ不申候ハ中篩  
大篩段ニ用申候

一丸藥太小不揃出来仕候篩  
太小ニテ篩ヒ分ケ中位ノ取ヲ  
取候ハ能揃ヒ申候

一篩ヨリモレ候藥ハ能下候テ  
藥研ニテ得トキシリ結篩  
ニテコシ又丸藥仕候

大抵最初ノ種丸ニ段々ニ  
衣ヲカケ候心ニテ御坐候

○トヨリ〜沢の

トヨリ〜事ハ易の

復の卦ニ七日來復あり

天官自然ニて陽明道

久壽ニけニあふニ愈々ニと腹ニ

温湯ニ小俗ニもニ者七日ニとニ

下ニまニりニとニもニるニ来復ニのニあニふ

りてニるニ 謡曲書誌ニ云ニふニ

○天神天群ニ山ニのニ沙ニ依ニ身ニ

宵ニのニるニるニ部ニのニ系ニ位ニとニせニて

いニづニくニ〜ニ地ニ有ニのニ月ニ

たニハニ天神ニのニ秘ニ弁ニとニて

毎日ニ一ニ看ニりニとニもニ思ニひニれ

いニづニくニ〜ニ百ニ日ニの

中ニにニ成ニ就ニすニとニもニぞニあニふ

人ニ信ニんニのニこニめニたニのニ秘ニ弁ニ

他ニにニ〜ニ

○玄菊ニ饒ニ瓊ニ

白ニりニすニえニん  
紅ニ白ニ混ニ然ニえニん

但ニ百ニ日ニ法ニ合ニ

太き江戸日本橋川瀬おせ

石町林屋庄助いしやう有あり

○大腰おおいし一いち年ねん

一いち能のう大腰おおいし

代しろ一いち年ねん

一いち大腰おおいし一いち年ねん

代しろ百文ひゃくぶん

一いち並腰ならし一いち年ねん

有あり其その代しろ所ところ未まだ終しま身み  
海かいをを全ぜんたた度どををるる

○止と齒しの痛いたとと速すみちちす  
藥くすり

一いち木きの葉は二に枚まい

一いちちちぐぐのの葉は二に枚まい

一いち耳みみのの葉は二に枚まい

大切り交せんぞ  
度々くみうがひ  
痛るの連なる

○ 痲痺 補子  
をす 葉

一日さびとありし  
十ゆきて春となり  
むひくろに

○ 眼に  
年仰り

一 年 年 月 日 大 千 年  
ま ぼ 子 二 三 三 三 三 三  
口 口 口 口 口 口 口 口  
七 七 七 七 七 七 七 七

一 年 年 月 日 大 千 年  
ま ぼ 子 二 三 三 三 三 三  
口 口 口 口 口 口 口 口  
七 七 七 七 七 七 七 七

たかしの尻に千竈一えら  
即ち合腹し判言たか  
尻をかきし中も種々有る  
其の寸同色、極くよく  
親類の腹をききし中  
三寸程腹をききし中  
おるは竹ノふく建屋  
お腹をききし中  
腹をききし中  
乙未月

○  
利休さん  
きぬい  
おこさん

たかしの尻に千竈一えら  
即ち合腹し判言たか  
尻をかきし中も種々有る  
其の寸同色、極くよく  
親類の腹をききし中  
三寸程腹をききし中  
おるは竹ノふく建屋  
お腹をききし中  
腹をききし中



○山屋三斎

一 ねありさふ  
一 まんぢうねあり  
一 うきねあり  
一 めさひねあり  
一 たまごねあり  
一 いふさおがち  
一 庵さおがち  
一 ゆありねあり  
一 ちやんおがち  
一 庵さかりおがち  
一 あきーさね  
一 けさうけさね  
一 せんとさね  
一 りりんとさね  
一 りこちさね  
一 わしきさね  
一 らしきさね  
一 みねさね

一 左よりそゆ  
一 たりと川そゆ  
一 名とありそゆ  
一 あつとそゆ  
一 くらまありそゆ  
一 くらみそゆ  
一 もろとゆきそゆ  
一 同くそゆ  
一 かたそゆ  
一 ことそゆ  
一 いとゆきそゆ  
一 ちとそゆ  
一 わつとそゆ  
一 ちやさんあり  
一 げんしあり  
一 げんしあり  
一 ちかみそゆ  
一 ちかみそゆ  
一 ちかみそゆ

一さへそゆ

一、

一 考之乃其

一 丁巳

一  
是  
其  
中

一、  
有  
三  
子  
也

一をりこる

一 加せんぞ

一花かゝる

在江何中自中  
市在江何中自中

市春風雨夜

○右系

ちんまゐ  
 悵臨意  
 大

所事も地ふもそのまゝ

畏如佛不心

一休

佛心之空

うねもろくそ併高  
うねもろくそ併高

佛ふくにとつぬのほてり

何に依りて  
 ありては

蓮生法師

長乃澤小部り海ふか  
風の射る矢し海ふり  
揺る小割のよあはゆきん  
西う向ひく後を縁ぞ

○淡地所安産所  
全地所年

一江列

淡地所安産所

同 因果和産所

一上列七浦

七屋伝馬ち反抱

産所 昌永産所

一羽列在何

酒井屋あ厨反抱

淡地所小部産所

高野 小糸澤を  
全野

石あがき長廿高  
きす分と根竹筒  
根元

法地所 市村全活

一信列佐久経

高野

要四

在り法地所法地所

惣心八節分書野高年

乙亥月

○ 高野おくとん  
根元

右本がふい木下な  
はる根所やまて  
高野高年のけりふ



ちんちんちんちんちん  
 城下二葉の本先を  
 とやうじちんちん  
 ちんちんちんちん  
 ちんちんちんちん  
 ちんちんちんちん

○書物と名

一周園

孟子文王の園ハギ  
 孟子文王の園ハギ  
 孟子文王の園ハギ

一柱下淵

史記史記史記  
 史記史記史記  
 史記史記史記

一海の夢

海人の夢  
 海人の夢  
 海人の夢

一夢の夢

夢の夢  
 夢の夢  
 夢の夢

一懷意雜談

懷意雜談  
 懷意雜談  
 懷意雜談

一舊智冊子

キウチキサワ

舊知巴キウチキ古キ友達トモダチと云ふ  
古実古事と云ふもの  
多キ友達と云ふもの  
冊シ子シいふなりト云フて

智チ冊サ子ワ

またやういふもの  
冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

冊シ子シいふなりト云フて

○翁之服

一 衣良衣 白麻ヲ用ユ

但 春日若宮ノ神奉ハ

二月三日一ヶ年ノ佳来ヲ

云佳来トハタ上ハ正月ハ何

二月ハ何ト云月ツノ事

云ノ佳来ト云之ヲ新ク

結ル内三日月三月ノ佳

来

一金春流ノ翁ハ云ノ事

組世流ノ翁ハ蜀紅ヲ用ユ

公卿ノ儀ハ内一金春流ハ

ズルノ事ナリ

組世流ハズルノ事ナリ

ノ事ナリ

ノ事ナリ

ノ事ナリ

ノ事ナリ

ノ事ナリ

ノ事ナリ

ノ事ナリ

ノ事ナリ

ノ事ナリ

○三老女ノ事

○千が関寺小町ニかき  
ニかき

大小教のちんをニテ  
んところて花やふら  
飯と老女とて身は  
するろいりあや  
教しあ

但 大富屋のうに  
お侍の立 大富屋のうに

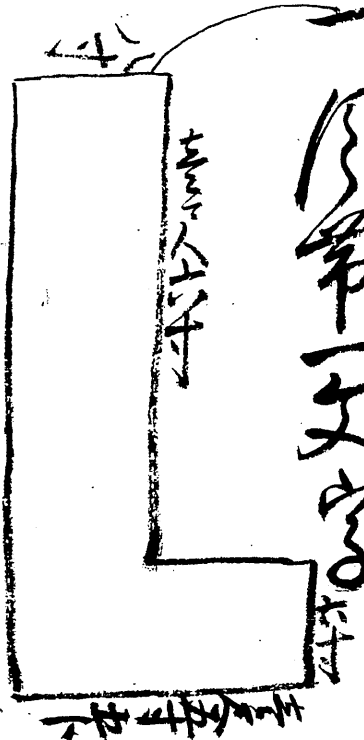
○金教

新にカマ 新にカマ  
方方 方方  
地地 地地  
次出 次出  
ちと ちと  
し何 し何  
云云 云云

○大なる春之恒村  
表具切す法外正法

九尺三寸三幅切

一風箏一文字



九尺三寸三幅切

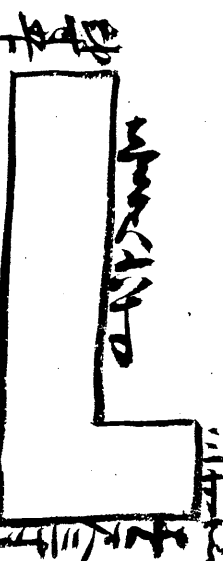
一中之切

中幅八寸  
長廿六尺

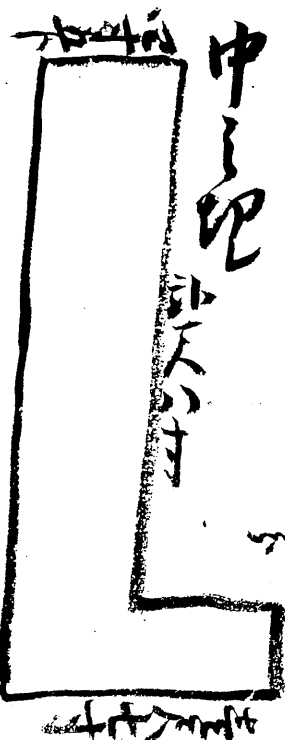
一天地印

中幅八寸  
長廿六尺

一風箏一文字



一中之切



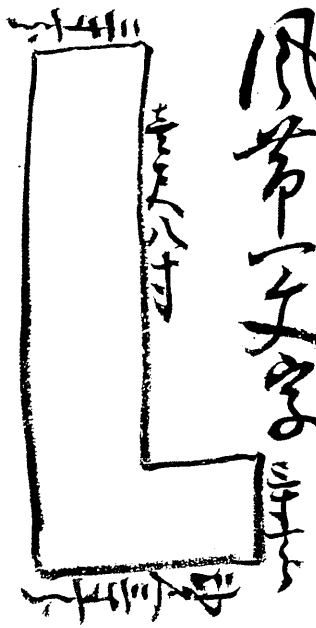
一天地印

中幅八寸  
長廿六尺

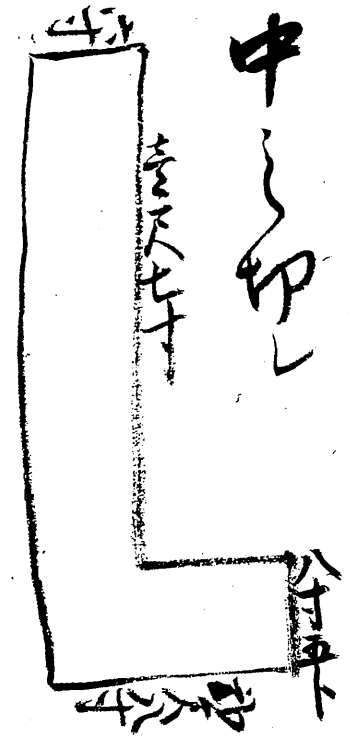
一丈一横切 但七八尺



一 凡第一文字



一 中一印

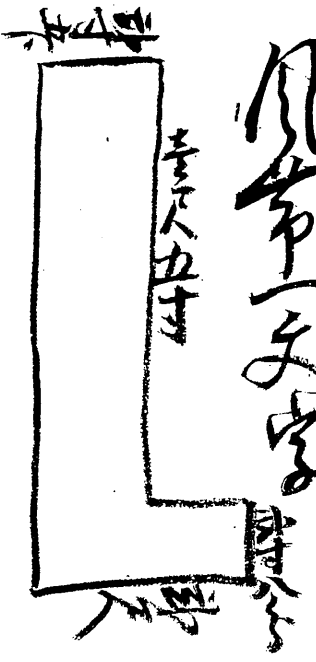


一 天地一印

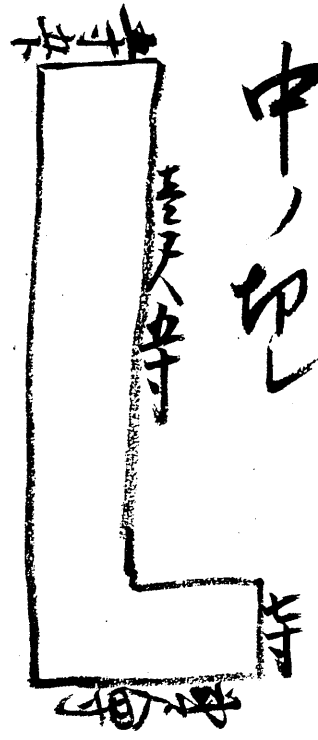
中八寸  
長八寸

一 小横印 但一印

一 凡第一文字



一 中一印



一 天地一印

中八寸  
長八寸

○唐菓子製法

右を其神明前大座  
ト云々菓子座を製法を三時  
ト云下之菓子座子し折有之  
南菓子座流しめふき酒茶モ  
あり

○佃菓子座取し小奥

正月。○こころをいふのよ

二月。○こころをいふのよ

三月。○こころをいふのよ

四月。○こころをいふのよ

五月。○こころをいふのよ

六月。○こころをいふのよ

七月。○こころをいふのよ

八月。○こころをいふのよ

九月。○こころをいふのよ

十月。○こころをいふのよ

十一月。○こころをいふのよ

十二月。○こころをいふのよ

右を佃菓子座取し小奥

○范子曰富トモ貧チ  
忘サルトキハ能其富  
保ツ貴ケシハ賤コトヲ  
忘サルトキハ能其富  
保ツ富デ其貧コ  
トヲ忘ル貴フニテ  
其賤更チ忘ルハ

○垂仁帝は野見宿禰  
失言臣熟コシテ意  
殉死ノ禮ハ殊ニ是  
仁惠ノ政ニアラス國ヲ  
益人チ利スルノ道ニ  
乖リ假ニ人ノ形ヲ造  
コシテ用ヒニハ如シト  
則ト土師ニ二百餘人

率ヒテ自ラ主領シ  
垣ヲ取テ人形及諸  
物ノ象ヲ造テ進獻  
目下人形ヲ帝敎覽ア  
送ルルナリ  
ソテ是レ悦ビ玉ヒコシマ  
用テ殉死ノ人ヲ代玉フ  
号シテ垣輪ト云

右前々為事記六巻に出

は鮎ト云ハ時辰ノ初モの程  
年魚ト書又鮎ト書  
和名抄年魚ト云

年魚ト云ハ春生して  
冬死スルものニケ年の  
魚ト云ハ冬生スルものニケ年の  
魚ト云ハ冬生スルものニケ年の

神武天皇ヨリ四十三代

聖武天皇御宇  
安世天皇ニテ曰ク凡ソ  
耕種ノ利水田ヲ

乃<sup>ハ</sup>テ本<sup>モト</sup>トス去<sup>サレ</sup>リモ  
水<sup>スイ</sup>田<sup>テン</sup>成<sup>ナリ</sup>ガタキ事<sup>コト</sup>多<sup>オホシ</sup>ク  
早<sup>ハヤ</sup>損<sup>ソム</sup>ニテリ傳<sup>ツタ</sup>ヘ聞<sup>キク</sup>  
廣<sup>ヒロ</sup>國<sup>クニ</sup>ニ渠<sup>ミヅ</sup>ヲ堰<sup>セキ</sup>派<sup>ハ</sup>  
分<sup>ワ</sup>ルニ便<sup>タマフ</sup>アルガ<sup>ニ</sup>ル<sup>ル</sup>処<sup>トコロ</sup>  
ハタタク水<sup>スイ</sup>車<sup>クルマ</sup>ヲ作<sup>ツク</sup>リ  
水<sup>ミヅ</sup>ヲ繰<sup>クル</sup>上<sup>ノボ</sup>水<sup>ミヅ</sup>ナキ地<sup>チ</sup>  
水<sup>ミヅ</sup>ヲ派<sup>ハ</sup>シ是<sup>コレ</sup>ヲ以<sup>モツ</sup>テ其<sup>ソノ</sup>

利<sup>リ</sup>ヲ失<sup>シ</sup>ハス本<sup>モト</sup>朝<sup>チヨウ</sup>ニハ  
素<sup>ソ</sup>ヨリ此<sup>コノ</sup>備<sup>ホウ</sup>ナシ故<sup>ユヘ</sup>ニ  
農<sup>ノウ</sup>民<sup>ミン</sup>早<sup>ハヤ</sup>魁<sup>ケイ</sup>ノ歳<sup>サイ</sup>ミヌ  
ハ必<sup>カナラ</sup>ス焦<sup>ヒヤウ</sup>損<sup>ソム</sup>ニ苦<sup>クル</sup>メリ  
今<sup>イマ</sup>ヨリ宜<sup>ヨシ</sup>ク民<sup>ミン</sup>間<sup>カン</sup>ニ仰<sup>オホセ</sup>  
付<sup>ツ</sup>ケテ水<sup>スイ</sup>車<sup>クルマ</sup>ヲ作<sup>ツク</sup>テ  
農<sup>ノウ</sup>業<sup>ギョウ</sup>ノ資<sup>スツ</sup>トナシタ  
マフベシト也<sup>ナリ</sup>天<sup>テン</sup>皇<sup>ワウ</sup>即<sup>スナハ</sup>チ  
勅<sup>チヨク</sup>人<sup>ニン</sup>ミテ觸<sup>フ</sup>下<sup>カ</sup>サシ



天下ニ傳ヘテ悉ク  
水車ヲ作セケル是ヨリ  
耕種大ニ其用ヲ得ニ  
庶民悦コトカガリ  
是日本ニ水車アル也  
水車ハ今世龍骨車ト  
云者ナリ或龍骨車トモ  
云リ俗ニリ源ニ随ヒ  
桶ヲ懸テ水ヲ引ク  
其器ハ古車或ハ同  
輪ト云リ龍骨車ハ

神武天皇ノ御代  
仁明天皇ノ天長十年  
十月朔テ檢非使廳  
置テ多議文屋ノ秋葉  
乃テ別當トシ玉フ此  
職ハ非常ニ戒メ政法  
背ル族ヲ穿鑿ス要  
從ナリ異朝ニ在ル是

重職シラシタトスムカ首ハカ之ノ廣ヒロ廣ヒロ

代ヨニカウ皇ミコ陶ヨウ士シ理リ官カン父フリ

周シウノタ大ダイ司シ寇コウ即キツチコ此コノ王ミ

ナリシ秦シンノセニコシチ廷テイ尉エイ

云クモ漢カンニタイ大ダイ理リトアラタ更マシ公コウ階カイニ

始ハジメテタ大ダイ理リ寺ジトス唐トウノタ王ミ

因ユヰ其ソノ職シヨク事ジ皆ミナ檢ケン非ヒ

○遣イ使シ相アイ同トウニコノ年トシ

唐トウ朝テウノタ例レイニナラフ准シュンテハシメテ

右ミデニテ系ケイ前ゼン々々太平タイヘイ記キ三サン卷クワン

出デ

○柳リウ天テン照ショ白ハク皇スエ大ダイ神シンヲカミ今イマ

勢セ列リョク度タク會エ郡クン五イ十ジウ

銓セン川セン上カミニタテマツ祭サイリセ祓ハヒニハ

人ヒト皇ミコ十ジュウ代ダイ垂スエ仁ニ天テン皇スエ

二十五年ノ天二月皇

倭ヤマト姫ヒメ命ミコトヲカミ以モツ始ハジメテタテマツ祭サイニハ

玉タマニカミ此コノ命ミコト則スナハチニタテマツ齋サイ宮ミヤト

シテ彼カノ宮ミヤニタテマツ事ジヘタテマツタ

セムル

内外七言忌詞

延喜式第六  
取意

内ノ七言

佛ホトケ中子ナカゴ

經キヤウ漆紙ソメカミ

塔タウアウラキ

寺テウ瓦カ膏フキ

僧ソウ髮カミ長ナガ

尼アミ女メ髮カミ長ナガ

齋タイ片勝カタジキ

勝カチ猪イノ食クハ

外ノ七言

死シナホレ

病ヤマヒヤスミ

哭ナク塩シホ垂タレ

血チ汗アセ

打ウツ撫ナゲル

肉ニク菌クサビ

墓ハカ壤ツツミ

又外マタソト

堂ドウ香カウ燃モク

優ウ婆ハ塞ソク

角ツノ箸ハシ

右前々太平記十三巻出

の<sup>マシ</sup>攝政ト攝メ統<sup>ス</sup>ル  
義ナレ故<sup>ス</sup>帝<sup>ミカド</sup>幼主<sup>コウシュ</sup>  
女帝<sup>メノミカド</sup>カ若ハ頃<sup>ヨロ</sup>年<sup>トシ</sup>  
先帝<sup>センテイ</sup>ノゴトキ<sup>トキ</sup>睿心<sup>エイシン</sup>  
石<sup>イシ</sup>正<sup>セイ</sup>ノ君<sup>ミコ</sup>スレカ<sup>カ</sup>威<sup>イ</sup>ハ  
御<sup>ミ</sup>病<sup>ヤマト</sup>身<sup>ミ</sup>ニシテ

政務<sup>セイム</sup>ニ怠<sup>タラシ</sup>アル時<sup>トキ</sup>  
用<sup>ヨウ</sup>シラレノ官<sup>クワン</sup>職<sup>シヨク</sup>也<sup>ナリ</sup>  
関白<sup>クワンハク</sup>ト申<sup>マウ</sup>後漢<sup>コウカン</sup>大臣<sup>ダイシン</sup>  
雷<sup>ライ</sup>公<sup>コウ</sup>ト云<sup>イハ</sup>人<sup>ヒト</sup>帝<sup>ミカド</sup>ニ朝<sup>チヤウ</sup>  
儀<sup>ギ</sup>ヲ預<sup>アザカ</sup>リ玉<sup>タマ</sup>ニシヨリ  
起<sup>キ</sup>リアツカリ申<sup>マウ</sup>スト  
書<sup>カク</sup>文字<sup>モジ</sup>也<sup>ナリ</sup>

右前々太平記十六巻出

神武天皇自玉より玉孫成

一宇々々天白玉ノ御宇

天地四方ヲ稱ニ玉フ

事始ハ正月元ニ

但其形勢南庭ノ

中興ニ七ノ戸風

中ニ立ニテ其道

布出御アリ

唯獨戸風ノ中ニ

入テ灯ヲ挑ゲ雪

焼御膝突モ用テ

御深アリ但し其

イカサニテ人ノ目

事ニ事更ニナシ

天地四方ノ初

畢テ諸陵山



廟中モ年アリカ  
則テ玉體安  
寧ニ國家モ大  
平ナルヘケル備  
此多例ト成テ代  
帝是ヲ廢シ玉  
々毎年執  
玉フナリ

一字多天皇御宇人  
日ヲテ十日ノ日ハ七種  
御強ク獻ズル事  
但是ハ五穀ニ行  
ナ加メん美ナリト  
備コフ七種御  
云民ハ國ノ本食  
民ノ命民ノ命  
是則ハ乱ス

茲ニ國ヲ廢止スルハ  
社稷ヲ失フテ穀  
ノ豊饒ナラズ  
王者第一ノ勤ト  
スルハ民ヲシテ  
サラシムル也民  
皇ナレバ國安  
國豊ナレバ王  
位テ保ルカ  
タカキ

リハベキヤト本  
粹ヘテ世ヲ治ム  
七種ノ御  
民ノ食スル五穀  
菜羹ヲ嘗テ天  
子トイヘドモ民  
苦ヲ知リ世  
期ス誠ニ有  
敵モ思フゾリ  
將

天子相續テニミツキツキテスス  
廢ス々々イハス今イマ末スエノ  
世ヨニイタマデコ此コノ際サリ  
貴タ人トニテ五コ穀コハミ民タミ  
命イナハ頭カミイタシシ  
思オモヒサナシ之コノク食クハス  
菜サイ草サウノミミミミミミミミミ  
負カカス調トウヘテ同ドウク  
七月シチゲツニユシチ用モトヒ

源ゲンノミ源ゲンノミ源ゲンノミ  
能ニ朝テ儀キヲシ相アイ會カウス  
奉ホウ心シンヲシ相アイ會カウス  
五ゴ種シュノミ最サイニミ五ゴ行コウト  
五ゴ草サウヲシ用モトフルハ天テン  
地チノミ間カンニミ化カ成セイスル  
木モ火カノミ五ゴ行コウト  
外ガイノミ五ゴ行コウト  
素ソ高コウニミ三サンテミ糲リョウハ

木 菽ハ火 粟ハ土  
稷ハ金 稗ハ水  
配ス其能ハ五  
具スニ方ラヌ  
靈草ナレバトテ  
是ヲ昔ヨリ行  
云 偕コソ五種  
好ミ置テ次ニ藥  
藝佛ノ坐 鑑業

鑑代四種ナリ  
七種ノ藥ハ名  
タリ此藥草  
能ハム事ナ  
邪氣ヲ除ク  
疫癘ヲ消ス  
趣キ典藥家  
考ヘ出シテ民  
スノ藥草ナリ

嗚呼我朝ノ風俗  
神ノ典供ニ人ト  
イハレ其ノ氣ヲ恐  
テ大宰ノ滋味モ  
庶幾セザル有難  
カリケル風俗ナリト  
情ヲ人ニ是ヲ  
樂ム

○宇多天皇御宇

是ヲ授フルニ古賢ノ  
行迹ヲ如ハシテ  
南殿ノ庇ノ降子ノ毒  
漢朝ノ唐土ノ名賢  
形像ヲ畫テ公卿  
百官且父兄見  
己ガ心ヲイマシメ  
力ハリシ使ニテ巨  
金園ヲ命ゼラレテ  
書ニ



右三葉前美禰十七

卷五出

河内淡川郡竹園村

庄屋塩川津屋右者

龍澤極内氏河内

知行し前家由屋忍

今に雖有言云毎年

耕種一俵の大田蔵屋

其後家改申院

親如氏台位古

今寛政十年

春麦

是十年

金百足

張年

十年

お

大春麦 江户名物  
松屋寺

龍溪標即足初年  
為傳中一筆

富士山大明神  
少師

商形部尚書年

三月五日

年之邦後志定矣

大龍度依所成之功德

年納公名是也

よりお姫の金糸万疋

平形歌

父祖之忠孝

石鼓度極即月也

你走

①古今集之大事

其名曰八

中力  
是  
裸  
ツ  
下

樹馬道

挽  
化

カハナクサ河骨  
河名草 又三鳥

ヨブコハリ イササセトリ  
喚子鳥 稻東鳥

コノツケトリ  
木綿鳥ナリ

但木綿鳥ナリ  
右ニテ余前々太平記巻出

可人関曰シ子イカナシ  
賤キ方吏ノ官ミシボツ

悦色マエマヤ孔子言

曰シ今世職ニシテト  
貴レ思テ悦ニ悦ス

ニ在者ハ昔ヨリ信者

予信スル風常ナシハ

色有リ然ラ門人又問

子ハ信ニシテ先

玉ヘン信人ナリト

殺<sup>サツ</sup>害<sup>ガイ</sup>ヲ用<sup>ヨウ</sup>タ<sup>タ</sup>フベキ  
何<sup>ナニ</sup>ゾ能<sup>ヨシ</sup>是<sup>コト</sup>ヲ教<sup>カウ</sup>喻<sup>ユ</sup>  
ニテ<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>通<sup>ツウ</sup>ニ<sup>ニ</sup>達<sup>ダツ</sup>スル<sup>ル</sup>ニ  
ハサ<sup>ハ</sup>レ<sup>レ</sup>ル<sup>ル</sup>子<sup>コ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>テ<sup>テ</sup>同<sup>ドウ</sup>教<sup>カウ</sup>  
諭<sup>ユ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>受<sup>ウケ</sup>ル<sup>ル</sup>機<sup>キ</sup>アリ<sup>リ</sup>是<sup>コト</sup>ヲ  
信<sup>シン</sup>者<sup>シャ</sup>ト<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>ヅ<sup>ヅ</sup>ル<sup>ル</sup>ベ<sup>ベ</sup>カラ<sup>ス</sup>ズ  
正<sup>セイ</sup>獲<sup>カツ</sup>強<sup>キヤウ</sup>自<sup>ジ</sup>ノ<sup>ノ</sup>而<sup>ニ</sup>入<sup>ニ</sup>ス<sup>ル</sup>ハ  
名<sup>ナ</sup>ニ<sup>ニ</sup>明<sup>メイ</sup>ツ<sup>ツ</sup>コ<sup>コ</sup>ト<sup>ト</sup>モ<sup>モ</sup>シ<sup>シ</sup>ク<sup>ク</sup>  
論<sup>ロン</sup>儀<sup>ギ</sup>ハ<sup>ハ</sup>色<sup>シキ</sup>ノ<sup>ノ</sup>少<sup>シウ</sup>ナ<sup>ナ</sup>イ<sup>イ</sup>説<sup>セツ</sup>

サ<sup>サ</sup>レ<sup>レ</sup>ル<sup>ル</sup>道<sup>ドウ</sup>ハ<sup>ハ</sup>悔<sup>クワイ</sup>ジ<sup>ジ</sup>得<sup>トク</sup>  
ヲ<sup>ヲ</sup>モ<sup>モ</sup>要<sup>ヤウ</sup>モ<sup>モ</sup>已<sup>イ</sup>ニ<sup>ニ</sup>亦<sup>オク</sup>ハ  
モ<sup>モ</sup>知<sup>チ</sup>キ<sup>キ</sup>マ<sup>マ</sup>ハ<sup>ハ</sup>捲<sup>ケツ</sup>ヒ<sup>ヒ</sup>而<sup>ニ</sup>入<sup>ニ</sup>ス<sup>ル</sup>  
モ<sup>モ</sup>知<sup>チ</sup>キ<sup>キ</sup>マ<sup>マ</sup>ハ<sup>ハ</sup>捲<sup>ケツ</sup>ヒ<sup>ヒ</sup>而<sup>ニ</sup>入<sup>ニ</sup>ス<sup>ル</sup>  
走<sup>ソウ</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>云<sup>クニ</sup>に<sup>ニ</sup>此<sup>コノ</sup>賊<sup>タク</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>  
治<sup>チ</sup>メ<sup>メ</sup>静<sup>セイ</sup>ム<sup>ム</sup>ル<sup>ル</sup>コ<sup>コ</sup>ト<sup>ト</sup>能<sup>ノリ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ス  
唯<sup>タリ</sup>速<sup>スウ</sup>ニ<sup>ニ</sup>シ<sup>シ</sup>テ<sup>テ</sup>得<sup>トク</sup>ス<sup>ル</sup>ニ<sup>ニ</sup>耳<sup>ニ</sup>  
言<sup>ゲン</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>達<sup>ダツ</sup>ス<sup>ル</sup>コ<sup>コ</sup>ト<sup>ト</sup>思<sup>オモ</sup>フ<sup>フ</sup>人<sup>ジン</sup>  
亦<sup>オク</sup>問<sup>モン</sup>件<sup>ケン</sup>ノ<sup>ノ</sup>位<sup>イ</sup>者<sup>シャ</sup>何<sup>ナニ</sup>カ

故方石氏す害る  
孔子云テ曰其科  
其ハタツ貝と述ベ  
カウズトイハ民其  
大既チアグハオツ  
アリウミ偽テ君  
ヨリ事ヘ其裁ヲ  
下ト及ス下其  
アキンキチ憤レリモ

君ヲ羅差成スル故  
チツレテ是ヲ得フナ  
是ハ偽モ君ヨク  
仕フント云節ヲ教  
若シハ神ハ保  
信者ノ如ク在マ  
浮雲ノ天ニ在  
雲チ天ヨリ舞  
カサレハ如クハ  
怒リトイハ其同



老<sup>サキ</sup>少<sup>コ</sup> 石<sup>イシ</sup> 慶<sup>ケイ</sup> 事<sup>コト</sup>  
万<sup>マン</sup> 氏<sup>シ</sup> ノ 災<sup>サイ</sup> ト イ ハ テ 時<sup>トキ</sup> ハ  
サ<sup>サ</sup> ン ナリ 但<sup>タ</sup> ン カ モ 其<sup>ソノ</sup>  
災<sup>サイ</sup> ヲ コ<sup>コ</sup> ニ 續<sup>ツ</sup> 連<sup>ズ</sup> ナ  
ラ ン ナリ ナ<sup>ナ</sup> ン ナリ ナ<sup>ナ</sup> ン  
月<sup>ツキ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 超<sup>コエ</sup> 年<sup>ネン</sup> 中<sup>ナカ</sup> 渡<sup>ワタ</sup> ン  
ホ<sup>ホ</sup> リ<sup>リ</sup> ヲ 立<sup>ツ</sup> 氣<sup>キ</sup> ノ 安<sup>ヤス</sup> 重<sup>オモシ</sup> 重<sup>オモシ</sup>  
其<sup>ソノ</sup> カ<sup>カ</sup> シ 佐<sup>サ</sup> 臣<sup>シ</sup> ノ ナ<sup>ナ</sup> ス  
禍<sup>ワ</sup> モ 多<sup>タ</sup> 事<sup>コト</sup> ナ<sup>ナ</sup> ン ナ<sup>ナ</sup> ン

至<sup>シ</sup> 極<sup>キョク</sup> シ テ 拂<sup>ハク</sup> 渡<sup>ワタ</sup> ン ナ<sup>ナ</sup> ン  
下<sup>シタ</sup> ナリ 終<sup>ハシ</sup> ヲ 大<sup>オホ</sup> 亡<sup>ナシ</sup> ナ<sup>ナ</sup> ン  
乃<sup>ソレ</sup> ヲ ナリ ニ ツ ニ ハ ナ<sup>ナ</sup> ン  
懐<sup>ハツ</sup> ク ル ニ 利<sup>リ</sup> 欲<sup>ヨク</sup> ナ<sup>ナ</sup> ス ナ<sup>ナ</sup> ン  
賄<sup>ウ</sup> 賂<sup>ロ</sup> ナ<sup>ナ</sup> ン 其<sup>ソノ</sup> 遠<sup>トウ</sup> ナ<sup>ナ</sup> ン  
ナ<sup>ナ</sup> 成<sup>ナリ</sup> 成<sup>ナリ</sup> ナ<sup>ナ</sup> ン ナ<sup>ナ</sup> ン  
カ<sup>カ</sup> ノ 上<sup>ウヘ</sup> ニ 潤<sup>ツク</sup> 物<sup>モノ</sup> ナ<sup>ナ</sup> ン  
民<sup>タタ</sup> ノ 小<sup>コ</sup> 村<sup>ムラ</sup> ト イ ハ 民<sup>タタ</sup> 撫<sup>フ</sup> ナ<sup>ナ</sup> ン  
勉<sup>ツメ</sup> ナ<sup>ナ</sup> ン テ ク ル ナ<sup>ナ</sup> ン ナ<sup>ナ</sup> ン

邦<sup>カウ</sup>テ其利<sup>スウチ</sup>少キヲ  
怒<sup>ウラ</sup>ム民<sup>タタ</sup>ノ私<sup>ワタシ</sup>有<sup>ア</sup>んて  
以<sup>モ</sup>冬<sup>フユ</sup>シ<sup>シ</sup>モ元<sup>ハ</sup>信<sup>シン</sup>臣<sup>チン</sup>  
計<sup>ケイ</sup>ナリ<sup>ナリ</sup>ゆゑ漢<sup>カン</sup>王<sup>ワウ</sup>  
韓<sup>カン</sup>信<sup>シン</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>齊<sup>サイ</sup>ニ<sup>ニ</sup>殺<sup>コロ</sup>せし  
齊<sup>サイ</sup>大<sup>ダイ</sup>困<sup>コン</sup>ニ<sup>ニ</sup>大<sup>ダイ</sup>軍<sup>グン</sup>  
ヲ<sup>ヲ</sup>率<sup>ソツ</sup>ニ<sup>ニ</sup>赴<sup>シュ</sup>ク<sup>ク</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>ウ<sup>ウ</sup>メ<sup>メ</sup>シ  
勢<sup>セイ</sup>可<sup>カ</sup>ノ<sup>ノ</sup>計<sup>ケイ</sup>果<sup>カ</sup>セ<sup>セ</sup>ル  
韓<sup>カン</sup>信<sup>シン</sup>ハ<sup>ハ</sup>亦<sup>モ</sup>卒<sup>ソツ</sup>ニ<sup>ニ</sup>死<sup>シ</sup>ス

ヨリテ大<sup>ダイ</sup>國<sup>コク</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>勝<sup>カチ</sup>リ  
悦<sup>エツ</sup>フ<sup>フ</sup>也<sup>ヤ</sup>セ<sup>セ</sup>ン<sup>ン</sup>心<sup>シン</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>  
サ<sup>サ</sup>シ<sup>シ</sup>バ<sup>バ</sup>其<sup>ソノ</sup>亡<sup>マウ</sup>ニ<sup>ニ</sup>至<sup>いた</sup>ル  
改<sup>カヘ</sup>メ<sup>メ</sup>齊<sup>サイ</sup>王<sup>ワウ</sup>ノ<sup>ノ</sup>印<sup>イン</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>  
奪<sup>ウバ</sup>フ<sup>フ</sup>シ<sup>シ</sup>ニ<sup>ニ</sup>付<sup>ツキ</sup>サ<sup>サ</sup>シ<sup>シ</sup>モ<sup>モ</sup>其<sup>ソノ</sup>志<sup>シ</sup>  
釋<sup>シヤク</sup>信<sup>シン</sup>モ<sup>モ</sup>忽<sup>トウ</sup>チ<sup>チ</sup>心<sup>シン</sup>愛<sup>アイ</sup>シ  
ニ<sup>ニ</sup>ゲ<sup>ゲ</sup>リ<sup>リ</sup>利<sup>リ</sup>益<sup>イキ</sup>ノ<sup>ノ</sup>多<sup>タ</sup>キ  
カ<sup>カ</sup>モ<sup>モ</sup>齊<sup>サイ</sup>王<sup>ワウ</sup>ニ<sup>ニ</sup>返<sup>ヘン</sup>サ<sup>サ</sup>ス  
リ<sup>リ</sup>ニ<sup>ニ</sup>繼<sup>ケイ</sup>テ<sup>テ</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>信<sup>シン</sup>  
又<sup>マタ</sup>レ<sup>レ</sup>齊<sup>サイ</sup>王<sup>ワウ</sup>ノ<sup>ノ</sup>信<sup>シン</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>乞<sup>ヒ</sup>フ

方其罪深ト定カ  
ゴロシニハ内妻ノ  
奸計ナリ和漢西朝  
代々明主モ色欲ニ  
溺易シテ人ヲ  
撥テ君ニ捧ケ其  
恩ヲ寵フ程ヲ伺ヒテ  
上ヲ探メ下ヲヤシ  
テ

己ヲ高リ人ヲ貶  
積弱ヲいテ  
湊リ傾國ノ乱ヲ  
楊氏ガ懦弱山カ  
一々計ルニ違  
近代和朝ニモ平  
策子ヲ愛シテ乱  
人名傳人聞亦ナリ

四に非ヤ文リヨヤニチ  
キツノハ<sup>ハ</sup>忍<sup>ハ</sup>言<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ニチ  
十<sup>ハ</sup>こ<sup>ハ</sup>造<sup>ハ</sup>リ<sup>ハ</sup>夫<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>刺<sup>ハ</sup>テ  
火<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>ス<sup>ハ</sup>レ<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>ゴ<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>キ<sup>ハ</sup>家<sup>ハ</sup>  
信<sup>ハ</sup>書<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>信<sup>ハ</sup>メ<sup>ハ</sup>テ<sup>ハ</sup>其<sup>ハ</sup>家<sup>ハ</sup>  
由<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>ナ<sup>ハ</sup>シ<sup>ハ</sup>忘<sup>ハ</sup>レ<sup>ハ</sup>テ<sup>ハ</sup>白<sup>ハ</sup>魚<sup>ハ</sup>  
体<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>見<sup>ハ</sup>セ<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>ド  
ハ<sup>ハ</sup>ス<sup>ハ</sup>策<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>リ<sup>ハ</sup>ヨ<sup>ハ</sup>シ<sup>ハ</sup>タ<sup>ハ</sup>ミ  
叶<sup>ハ</sup>ヘ<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>ラ<sup>ハ</sup>ス<sup>ハ</sup>数<sup>ハ</sup>由<sup>ハ</sup>ニ

タイテカヤリノ<sup>ハ</sup>信<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>  
イ<sup>ハ</sup>ク<sup>ハ</sup>ウ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>ク<sup>ハ</sup>行<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>レ<sup>ハ</sup>テ  
一<sup>ハ</sup>旦<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>大<sup>ハ</sup>ス<sup>ハ</sup>レ<sup>ハ</sup>氏<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>  
ウ<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>イ<sup>ハ</sup>保<sup>ハ</sup>得<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>元<sup>ハ</sup>  
信<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>道<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>レ<sup>ハ</sup>ユ<sup>ハ</sup>ヘ<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>リ  
其<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>怪<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>切<sup>ハ</sup>断<sup>ハ</sup>ナ<sup>ハ</sup>リ  
と<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>セ<sup>ハ</sup>社<sup>ハ</sup>仙<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>道<sup>ハ</sup>修<sup>ハ</sup>ス  
ア<sup>ハ</sup>ラ<sup>ハ</sup>ス<sup>ハ</sup>似<sup>ハ</sup>テ<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>チ<sup>ハ</sup>キ<sup>ハ</sup>ハ  
隣<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>老<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>ミ<sup>ハ</sup>ヒ<sup>ハ</sup>シ<sup>ハ</sup>キ<sup>ハ</sup>

コトクナリ<sup>あふ</sup>ぬ<sup>あふ</sup>は<sup>あふ</sup>た<sup>あふ</sup>す  
フクロミ<sup>あふ</sup>入<sup>あふ</sup>改<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
リ<sup>あふ</sup>テ<sup>あふ</sup>多<sup>あふ</sup>多<sup>あふ</sup>多<sup>あふ</sup>テ<sup>あふ</sup>テ<sup>あふ</sup>  
改<sup>あふ</sup>筆<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
至<sup>あふ</sup>層<sup>あふ</sup>ニ<sup>あふ</sup>ツ<sup>あふ</sup>ケ<sup>あふ</sup>テ<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
中<sup>あふ</sup>ニ<sup>あふ</sup>カ<sup>あふ</sup>良<sup>あふ</sup>フ<sup>あふ</sup>驪<sup>あふ</sup>山<sup>あふ</sup>  
温<sup>あふ</sup>泉<sup>あふ</sup>ニ<sup>あふ</sup>月<sup>あふ</sup>ニ<sup>あふ</sup>所<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
近<sup>あふ</sup>メ<sup>あふ</sup>作<sup>あふ</sup>田<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>

松<sup>あふ</sup>江<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
此<sup>あふ</sup>ノ<sup>あふ</sup>如<sup>あふ</sup>キ<sup>あふ</sup>ハ<sup>あふ</sup>人<sup>あふ</sup>比<sup>あふ</sup>自<sup>あふ</sup>  
月<sup>あふ</sup>カ<sup>あふ</sup>ミ<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
い<sup>あふ</sup>ウ<sup>あふ</sup>サ<sup>あふ</sup>ン<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
改<sup>あふ</sup>少<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
一<sup>あふ</sup>代<sup>あふ</sup>一<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
永<sup>あふ</sup>ク<sup>あふ</sup>天<sup>あふ</sup>下<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
ツ<sup>あふ</sup>と<sup>あふ</sup>あ<sup>あふ</sup>ド<sup>あふ</sup>ニ<sup>あふ</sup>コ<sup>あふ</sup>リ<sup>あふ</sup>有<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>  
ケ<sup>あふ</sup>ハ<sup>あふ</sup>ヤ<sup>あふ</sup>ク<sup>あふ</sup>サ<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>子<sup>あふ</sup>



ナゲメラシニ最ヤ  
スカルへ中よ又ナゲメ  
預人樂テ眉ヲ  
懸ム

右あまを重化セシメ我  
額頭御子執手帝ノ尊ニ天下ヲ  
堯ノ百姓ヲ撫育  
シむクヤ其仁天ノ

如ク西渡ハサレ所ナリ  
其智神ノ如ク  
變化測レズ目ノ  
照臨カ如ク人感ク  
コレニ依ユレテ望ム  
雲ノ密ニシテ布ル  
如ク富テ驕ス

形車白馬ニメ

行茅中乃屋

覆し雨月敷

取不土階三尺

茅茨削ら

蒲州の席

縁の飾

奇怪異物

玩好の器

惟心中天下

志中客民

恐らくハ一毫

うかん處

一民の飢

ル中見テハ我コレ  
害マズガ如ク一  
民ノ罪アハ見テ  
我コレヲ陷ムハ如ク  
百姓ノコレヲイテ  
日月ノ如クコト  
親ム丁父母ノ如ク

仁服カニメ義  
徳博フメ化厚シ  
貴セズメ民勸  
四討セズメ民治  
天下ノ民歡心セ  
ザレドナシ

右十二朝軍記七巻

一キヤウ堯ニ以テ二女ヲ嫁ニ舜ニ

嫁カス之ヲ但カ娥皇ニ是

舜以ヨリ曾祖ノ姑ノ

爲ス妻メ已ニ若可

疑ウタカ又禹リ王與ニ堯

亦モ四世ノ從兄ノ弟

帝モ亦禹ハ四世

從孫ニ乃先キ授サツ堯

之天下ヲ而後授ル之

禹ハ又舜ニ五世ノ從

孫ニ乃モ五世ノ從

祖ニ於ニ羽山ニ有ニ是

理也哉ハ日ハ第ハ鯀

爲ス國ノ急ニ政ヲ

一 鶴

出甲別伝別語何事  
中より玉座を重なる  
北より土月止るを重なる

後身代三文字の文位

一 鴨

赤上保旬四重を重なる  
赤上保旬四重を重なる  
中より玉座を重なる

○ 青羽代八文字の文位

一 寒雀

赤上保旬四重を重なる  
赤上保旬四重を重なる  
中より玉座を重なる

後身代青羽代八文字の文位

一 月

赤上保旬四重を重なる  
赤上保旬四重を重なる  
中より玉座を重なる

後身代月一文字の文位

右山名所を商賈人車園を

伊吾山名所を商賈人車園を

○ 昏迷ノ雲掩ハハ月

己ノ明月光リ

炎フカヤ

右ハ十二朝象ハ十二  
夏ノ鎌玉ハ履



諫詞

履一ハ也

一 湯王伊尹が容身

守り見玉フコ

飄りしにテ仙骨

涅こしにテ縋フス

泥中ノ蓮花水

上ニ出んが如ク威

儀揚々をテ見テ

覚へズ大ニ感慨

閔テ曰人言水ヲ視テ

形ヲ見民ヲ視テ

治ヲ知ト如何伊尹

曰明ハ能道ヲ

聽<sup>キキ</sup>テ<sup>スナハテ</sup>力<sup>リキ</sup>進<sup>ス</sup>ム言<sup>コト</sup>

國<sup>クニ</sup>ニ君<sup>ミコ</sup>トミ民<sup>タミ</sup>ヲ子<sup>コ</sup>

シテ善<sup>ヨシ</sup>ナ爲<sup>ス</sup>ル者<sup>モノ</sup>

皆<sup>ミナ</sup>王<sup>オウ</sup>官<sup>カン</sup>ニ在<sup>アル</sup>勉<sup>ツマ</sup>

ヨヤ勉<sup>ツマ</sup>ヨヤ

有<sup>アル</sup>湯<sup>トウ</sup>王<sup>オウ</sup>ニ伊<sup>イ</sup>尹<sup>イン</sup>ヲ

對<sup>タイ</sup>シタニ時<sup>トキ</sup>ノ詞<sup>コト</sup>

十三戰<sup>サントウセン</sup>軍<sup>イクサ</sup>後<sup>ノチ</sup>土<sup>ツチ</sup>ノ者<sup>モノ</sup>出<sup>デ</sup>ル

湯<sup>トウ</sup>王<sup>オウ</sup>ハ伊<sup>イ</sup>尹<sup>イン</sup>ヲ

古<sup>コ</sup>者<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>公<sup>コウ</sup>九<sup>ク</sup>卿<sup>ケイ</sup>

大<sup>ダイ</sup>吏<sup>リ</sup>列<sup>リツ</sup>士<sup>シ</sup>者<sup>ノ</sup>何<sup>ナニ</sup>也<sup>ヤ</sup>

伊<sup>イ</sup>尹<sup>イン</sup>曰<sup>イフ</sup>ク之<sup>ノ</sup>公<sup>コウ</sup>ハ天<sup>テン</sup>

道<sup>ダウ</sup>ニ通<sup>ツウ</sup>ズル者<sup>ノ</sup>也<sup>ヤ</sup>

九郷ハ地通ニ通  
ズンモノ也大吏父  
事ニ通ニ通也  
列ハ法度ニ明  
すん者也三公ハ  
事ニ事ニ事ニ所  
九郷ハ以ニ以ニ  
矣所大吏ハ以テ  
九郷ニ事所ハ  
以テ大吏ニ以テ  
是ヲ宗ニ事ル  
云宗ニ事ル内  
矢ハザレド  
是ヲ大順ト云

右、十三朝軍記十二巻  
出、む、こ、九、御、臺  
列、上、付、何、事、始、に

○伊豆、南、名、老、松、集、家、の

一村、雲、を、名、乗、り

大、も、南、河、分、後、云、里、水、  
高、く、修、治、せ、し、り、村、の、か、ん

一、主、能、忍、み、成

大、も、修、治、せ、し、り、隣、村、出、し、  
年、数、多、く、出、産、せ、り

一、世、に、成

大、も、南、河、近、き、か、ら、  
め、ゆ、き、一、世、を、名、乗、り、  
風、津、十、月、の、か、り、に、  
風、津、十、月、の、か、り、に、

○孫、子、曰、水、地、に

陣、中、安、ニ、ス、ル、ト、キ、

其<sup>ツ</sup>兵<sup>ツ</sup>火<sup>ツ</sup>ヲ<sup>ツ</sup>怖<sup>ツ</sup>レ

陸<sup>ロク</sup>地<sup>ヂ</sup>ニ陣<sup>ジン</sup>ヲ安

ニスレトキニハ其

兵<sup>ツ</sup>風<sup>フ</sup>ヲ<sup>ツ</sup>怖<sup>ツ</sup>レ固<sup>コ</sup>ニ

上<sup>ウ</sup>レ者<sup>シャ</sup>ハ其<sup>カ</sup>固<sup>コ</sup>ヲ

受<sup>ウケ</sup>コトヲ<sup>ツ</sup>恐<sup>コソ</sup>レ險<sup>ケン</sup>

キニ下<sup>シタ</sup>レ者<sup>シャ</sup>ハ其<sup>カ</sup>陷<sup>コト</sup>

解<sup>ツ</sup>ヲ被<sup>カ</sup>レコトヲ

恐<sup>コソ</sup>レ

右元明軍談十卷  
出<sup>デ</sup>ル

一<sup>カク</sup>角<sup>カク</sup>端<sup>タン</sup>ト云<sup>ス</sup>ハ即<sup>ス</sup>チ

一<sup>ツ</sup>ツノ獸<sup>クモ</sup>ニシテ其<sup>キ</sup>



麟ノ属ヒナリ

此類カウヤリツ

曰從孤其身射

ハ皆青色ニシテ

三角アリ口ニ青

煙ヲ噴光リ

藍緑ノ東方

甲乙ニ属ニテ木

司トシコノ像ヲ

ラハルトキハ國家

草木ノ妖アリ

タハ東ノ極ニ

琉球名采等ノ

地ニ生スニツニ白ク

駒其身鱗比白

赤色ニミテ頂ニ

魚鱗アリ光リ

赤鱗ノ如ク南名

丙丁ニ属ニテ

火ヲ司ルコノ炎

駒見ルトモハ國家

毒火ノ災アリタハ

南ノ極東南台城

暹羅等ノ地ニ

生スニツ曰素冥

其身<sup>ニ</sup>射<sup>タイ</sup>皆<sup>ニ</sup>白<sup>ハク</sup>  
色<sup>イロ</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>色<sup>イロ</sup>其<sup>ソノ</sup>父<sup>ハハ</sup>  
尖<sup>スミ</sup>之<sup>ノ</sup>光<sup>ヒカ</sup>り<sup>リ</sup>瑩<sup>エイ</sup>玉<sup>マキ</sup>  
如<sup>ゴ</sup>之<sup>ノ</sup>西<sup>セ</sup>方<sup>ホウ</sup>庚<sup>カン</sup>辛<sup>シン</sup>ニ  
属<sup>ゾク</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>金<sup>キン</sup>子<sup>シ</sup>司<sup>ツ</sup>司<sup>ツ</sup>  
コノ素<sup>ソ</sup>冥<sup>メイ</sup>具<sup>メ</sup>見<sup>ミ</sup>之<sup>ノ</sup>  
ト<sup>ト</sup>中<sup>ナカ</sup>ニ<sup>ニ</sup>ハ<sup>ハ</sup>國<sup>クニ</sup>家<sup>カ</sup>ノ

主<sup>ミ</sup>刀<sup>タウ</sup>兵<sup>ヘイ</sup>ノ悽<sup>サイ</sup>ア<sup>リ</sup>  
夕<sup>セキ</sup>夕<sup>セキ</sup>ハ<sup>ハ</sup>西<sup>セ</sup>極<sup>キョク</sup>羅<sup>ラ</sup>思<sup>シ</sup>  
烈<sup>レツ</sup>思<sup>シ</sup>乃<sup>ナ</sup>竹<sup>チク</sup>果<sup>カ</sup>田<sup>テン</sup>  
亦<sup>オ</sup>ノ地<sup>チ</sup>生<sup>シヤウ</sup>ス<sup>ス</sup>回<sup>クワイ</sup>ツ<sup>ツ</sup>言<sup>ゴン</sup>  
南<sup>ナン</sup>端<sup>タン</sup>其<sup>ソノ</sup>身<sup>ミ</sup>射<sup>タイ</sup>  
皆<sup>ミナ</sup>白<sup>ハク</sup>思<sup>シ</sup>色<sup>イロ</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>  
龍<sup>リウ</sup>足<sup>ソク</sup>龜<sup>キ</sup>甲<sup>コウ</sup>ア<sup>リ</sup>

光り鴉青ノグロ  
北る土突ニ屬シ  
水ヲ司ルコノ角  
跡見ルハトモハ國  
家水濤ノ災アリ  
突ハ北極沙漠  
烏撒汗等ノ  
地ニ生スルコノ麒麟  
麟其身殊皆  
黃碧ニシテ腹赤  
肉臥龍睛アリ  
中央ニ屬シ成已  
土ヲ司ルコノ麒麟  
麟見ルハトモハ

國家豊熟天下  
太平也

右之明軍談十七ノ

巻ニ出

○幕之紋染様事

一、<sup>シ</sup>幕之紋染様事

上、<sup>シ</sup>幕之紋染様事  
上、<sup>シ</sup>幕之紋染様事  
上、<sup>シ</sup>幕之紋染様事  
上、<sup>シ</sup>幕之紋染様事

一、<sup>シ</sup>幕之紋染様事

時、<sup>シ</sup>幕之紋染様事

一、<sup>シ</sup>幕之紋染様事

寛永二年乙丑月



肥前中津藩著  
ヶ山宗福寺ノ  
唐僧逸然ニ多  
銀ノ寄捨ニ大少  
譯匠明ニ其六  
土ノ盤然者ニ  
者ト兄方ノ義  
然ニ街屋ニテゾ  
居たりテん安眠  
素ノ乱中避ク富  
徐福ナリ後也山  
遊君来ナリ者多  
購フニ事アリナニ  
本林思中産ム福

州ノ賈船ノ来ル  
度多トカクノ  
問名ムツカトテ  
平戸留方氏カ宅  
往キ外醫ヲ業ト  
世中渡ルナリ

傳ふ所ノ大砲  
根煙火器ハ父  
クハ己ノ鄭芝龍  
砲子ト得タリトヤ  
云ヘリ  
右國姓爺忠義傳  
カノまじり

○上赤味膏白味膏し事

一上赤味膏 百文分  
二百目

一上白味膏 百文分  
四百目

大澤倉河岸横町

角ト伊丹金管助殿

○長来のし傳

一江村専齋とて長来者

元ハ海老名三ッ石の城に在り

新に家をとりて不仕傳

和音に歌聞者以て各あり

送るゝやみし髪髪は赤

仕傳又赤美作と云ふ

壽百四と云ふ

後水尾上皇仙洞小をて

供養乃伝と 和同ありふ

奏して日本生れたの此の

と持寸食代業し些食飲



[illegible]





○徂来答問書上之因  
仁之事ヲ云

一傳傳不氏之父母と云レ語  
此等々不疎々レ記に解々  
氏々父母と云レ方々  
まの父母と云レ其父母乃  
心乃心成其民力成其  
中々其父母の父母なり  
唯々其父母の父母なり  
此等々うと云レた一々  
此等々うと云レた一々

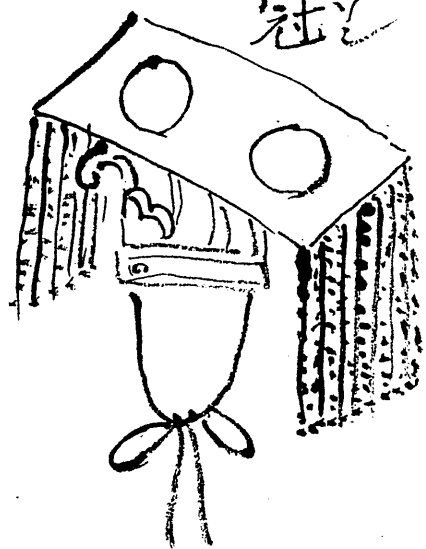
諸策々家々年々用  
た々片片下下  
幼々々々々々々々  
恩にあらうと云レた  
若々々々々々々々  
家々内々理非々々々  
事々々々々々々々  
天々々々々々々々  
逐々々々々々々々  
旦旦々々々々々々

すくすく為る炎天ふと思ふ  
田を耕す事と刈草  
然と勤め人ふ縣より  
恥辱を蒙る家内をば  
見らる年月を送るなり  
けいふなり打撃をいたし  
あてての意悲とまらる家  
又故にんをあらそひ一  
たの者たを苦ふた一  
天性ある心いかにの  
かたききれし戦ひに  
かぬ事にはたふさ  
二百名とて千名とあり  
まゝり國郡主天下を  
あつた人の心を  
事少しをたれん  
送ふ者たふは  
るるるるるるるるる  
大小り起るるるるる  
れ氏とてらるるるるる

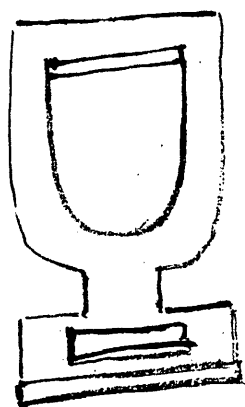


○人物之画用品之名所

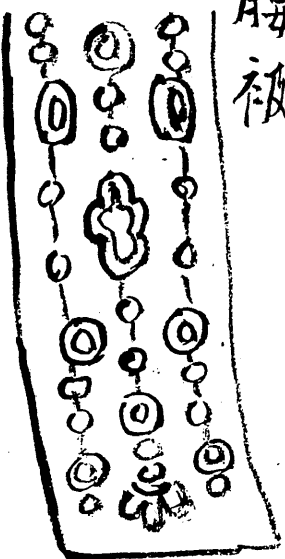
冕冠<sup>ミョウカン</sup>



曲領<sup>キョクネイ</sup>



腰襖<sup>ヨウウ</sup>



紳<sup>シン</sup>



天衣<sup>テンイ</sup>

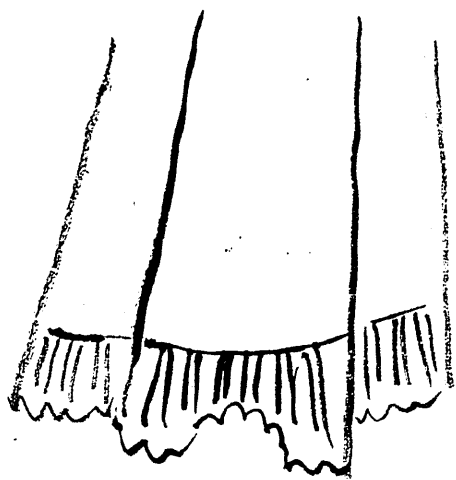




天<sup>テ</sup>子<sup>コ</sup> 繡<sup>ヌイ</sup>之<sup>ノ</sup> 角<sup>ツノ</sup>  
 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup>  
 質<sup>シツ</sup> トス 白<sup>シロ</sup> 黒<sup>クロ</sup> ツ 文<sup>モン</sup> トス 薨<sup>フ</sup> ハ  
 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup> 薨<sup>フ</sup>

天<sup>テ</sup>子<sup>コ</sup> 繡<sup>ヌイ</sup>之<sup>ノ</sup> 角<sup>ツノ</sup>

薨<sup>フ</sup>



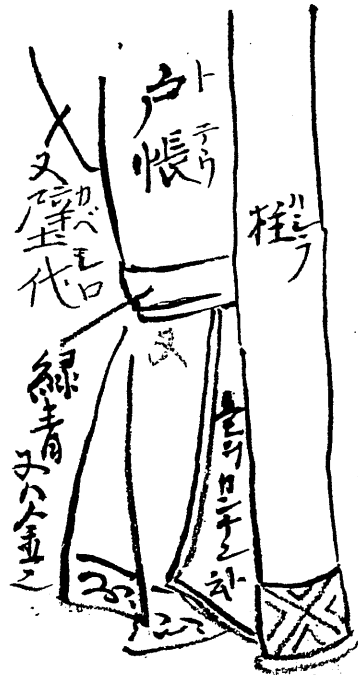
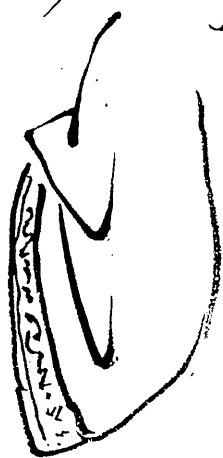
襖<sup>フタヘ</sup>



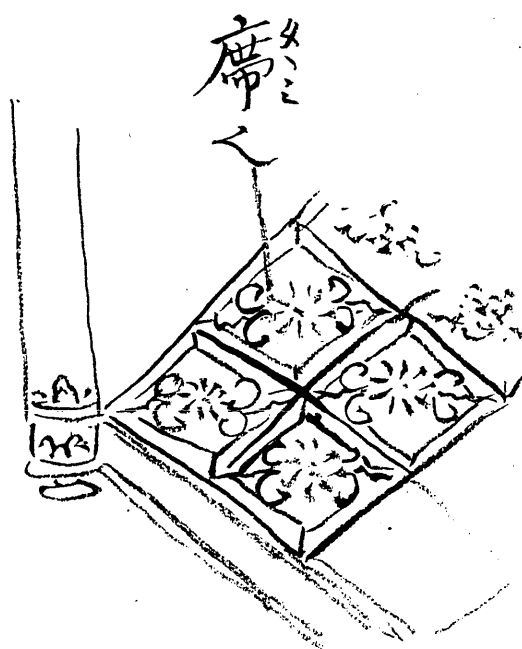
襖<sup>フタヘ</sup>



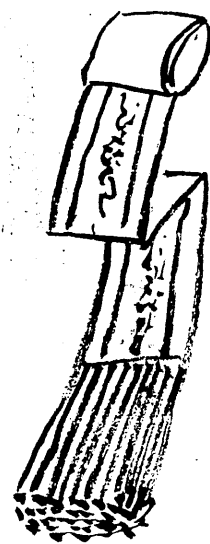
襖<sup>フタヘ</sup>



黒ト青ト相次ノ文ナリ



日本ノ  
クミナヒ  
條帶



僧周文

号春云洞  
住相國寺

松榮直信

右  
永徳州信

其入号名云部

○山水之名所

イタハキ  
山頂

ミヤ  
山



ガケ  
崖



イソ  
山



ササ  
山



ササ  
山





○書画名認様之事

從四位下侍從兼美因幡守藤原朝臣忠實畫

從四位下侍從藤原朝臣忠實畫

中大夫拾遺藤原朝臣忠實畫

中大夫拾遺因州刺史藤原忠實畫

右八段石不致分初書張

○硯石之立所之事

一甲列雨畑石

五寸

六寸

一丹別岩王寺石

五寸（十寸）

京都三小石寺  
丹波中  
石之為寺首

六寸（九寸）

一江別之石

五寸（十寸）

六寸（十寸）

一長別赤間之関

五寸（十寸）

○小教之明作

古下石

一古下石次下石

古下石

但外之古下石亡自入下石下  
不詳右下石何定安

三件

道也又石之毛書

四件

道本明作

五件

道中明作

六件

古下石

七件

定永三年

八件

明作

金十部

金十部

伊勢 神鏡裏銘

天地清明 四海靜謐

玉體安穩 寶祚長久

國家平安 武運長盛

風雨順時 五穀豐饒

家内安全 息災延壽

子孫榮久 如意滿足

靈運加護 意願成就

右伊勢神宮奉書  
減額奉書

一、皇親國戚  
左大臣等

檢

一、明使等

一、おと等

一 割

長井式寸  
三寸五分

一 楊

寸  
二寸五分

一 息

長井式寸  
七八分

風爐

一 細

細炭を焼くおのり

一 抄

長井式寸  
三寸五分

一 割

長井式寸  
七八分

一 楊

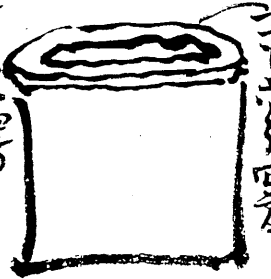
寸  
二寸五分

一 息

長井式寸  
三寸五分

石印寸  
長井式寸  
三寸五分

一 寸  
長井式寸  
三寸五分



めいどがき  
下は下  
金三寸五分



一五年のふれ

一と称せん愚い

○たも西久保ハ情義ヲ堪  
長島房方と有る金屋は  
音子と交文と云ふ事

○諫大形と云事 伊藤先生

一諫大形と云事 伊藤先生

此ハ厚らうと云事ハ元々  
中政ハ言はれて人と云ふと  
此ハ大形ハ云ふ事ハ大形

先ハ合點なるものハ只口が  
心より云ふと云事ハ大形  
此ハ大形ハ云ふ事ハ大形

人とは上と云事ハ大形

○此ハ大形ハ云ふ事ハ大形

○此ハ大形ハ云ふ事ハ大形

○此ハ大形ハ云ふ事ハ大形

○此ハ大形ハ云ふ事ハ大形

○此ハ大形ハ云ふ事ハ大形

○德合天地曰帝

但來答問書  
卷三十五終

徳の徳大いなり天地と  
ひ天地日月の恩を  
人あふふふふと

○武彦時の子

武彦時の子  
武彦時の子  
武彦時の子

西行法師

よふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ

ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ

一丸きふふふ  
一丸きふふふ

○右も石所平目大極所  
教は金吉ふふふ

○子曰知者樂水仁者樂山  
知者動仁者靜知者樂  
仁者壽

論語ニ出ル  
動而不括故樂靜而  
有常故ニ壽

敢<sup>ハ</sup>問<sup>テ</sup>夫子<sup>イッシカ</sup>惡<sup>ス</sup>乎長曰我

知<sup>レ</sup>言<sup>コトヲ</sup>我<sup>レ</sup>善<sup>ク</sup>美<sup>ク</sup>食<sup>ヲ</sup>吾<sup>カ</sup>浩<sup>コウ</sup>然<sup>ゼン</sup>之

氣<sup>キ</sup>孟子之三公孫丑ノ問也

浩然盛天流行之貌氣

○玉川<sup>ニ</sup>ら年中取<sup>ル</sup>魚<sup>ノ</sup>旬<sup>ニ</sup>書<sup>キ</sup>分<sup>ケ</sup>

一玉川初鮓

希<sup>ニ</sup>合<sup>フ</sup>より三十<sup>ニ</sup>日<sup>ノ</sup>経

る年約略云々

一うぐい<sup>イ</sup>す<sup>イ</sup>ち<sup>イ</sup>ち<sup>イ</sup>云

其<sup>レ</sup>彼<sup>レ</sup>な<sup>ニ</sup>より<sup>ニ</sup>ち<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>始<sup>メ</sup>時<sup>ニ</sup>ふ<sup>ニ</sup>近<sup>ニ</sup>取<sup>ル</sup>し<sup>ニ</sup>云

一くきむや

右<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>云

一ます

其<sup>レ</sup>去<sup>リ</sup>用<sup>フ</sup>より<sup>ニ</sup>ち<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>常<sup>ニ</sup>前<sup>ニ</sup>取<sup>ル</sup>し<sup>ニ</sup>云

一やゆゑん

十月より一月<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>近<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>云

一な

斗より秋の娘よ止む

一うあき

夏去用より石藏と

つと取らん

一鈴ハ七月上旬渠上り

秋は彼方なる下り

子と母とまがらうと

結い思くさひやん

右に武少多麻呂郡

布田村百姓宗八は事

ふ秋々下る水

今も素く事

一玉川上水今も素

後別其久保

一堀井今も素

後別其久保

一戸文

大生駒町七丁目

久平卷三 節方有

一 三日月掛蠟燭 ロウソク

十六  
挺力曰五  
但五百十有月之

在  
陶  
町  
七  
丁  
目  
素  
毫

茂大居士有之生輝

流し事

遠列流

○運向切い煥は議ぎ院いん合ごう

天

八寸板

炭子きあ

Q

吃

煖  
之  
五  
前

14



之方  
柔入血

水、白く、  
白く、  
白く、

一、是方所不煖縁内  
 四、系入系統并  
 五、系入系統并  
 六、水こ割て塩  
 七、扱易く通す  
 八、水こりし砂より係  
 九、少くむん  
 一〇、系入系統中のみき  
 一一、三月四系系登



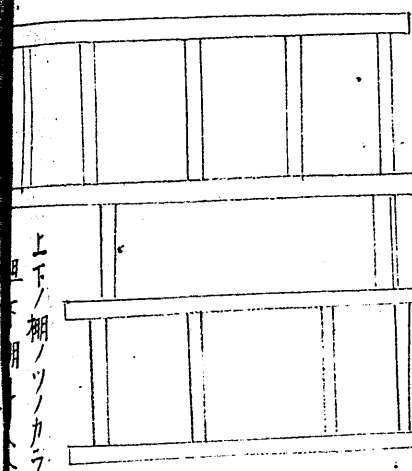


室列儀  
刀掛同端石塵穴角  
九寸

上ノ棚 長サ三尺四寸五分外ノリ  
幅一尺二分半外ノリ

右ノ棚ノ両方ノカマナニ本共 幅九分  
厚六分

棚ノ横サニ五本 幅六分  
厚五分半  
上下ノ棚ノ間七寸四分



上ノ棚ノツノカラニ寸二分

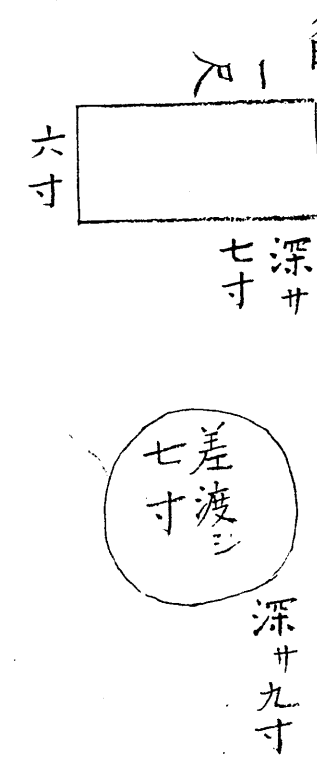
下ノ棚 長サ二尺七寸二分 但幅八上下凡同前  
幅一尺二分半

棚ノカマナニ二本共 幅九分 但カマナハ  
厚六分 厚六分七共前

棚ノ横サニ四本 幅六分  
厚五分半

釣木 幅五分半 但釣ル時ツノカラ  
厚四分半 三分半スル

塵穴 同九ナラバ



一中括ノ石ハ高サ六寸ニ居ル  
内外同様ナル石ハアシ、振リカハ  
リタルヨシ余リ大キ過タルハ

アシ、客ノ踏候テ煩ニナラヌ様  
スル事肝要ナリ但第一見立事  
一隣リ上リノ石モ高サ五六寸位  
草履一足半程モアルツラノ随分  
フミヨキ石ヲ見立居ル余リ景  
過タルヲ嫌フミカシヌルツテモ  
不宜是又見立肝要ナリ

右友喜ヨリ傳授之上旨申上候  
都而大庭共數寄屋庭共石六ヶ  
鋪御坐候石之儀都而飛石タリ  
トモ傳授ニテ御坐候事

但丸山友閑ヨリ申越之

金剛院乃屋飾(傳授上  
小堀家常乃屋飾(傳授上  
乃屋飾(傳授上

一水屋飾(傳授上  
乃屋飾(傳授上  
金剛院乃屋飾(傳授上  
乃屋飾(傳授上  
乃屋飾(傳授上  
乃屋飾(傳授上  
乃屋飾(傳授上  
乃屋飾(傳授上  
乃屋飾(傳授上  
乃屋飾(傳授上



論語二 公治長篇

子張問曰令尹子文三仕  
爲令尹無喜色三已之無  
愠色舊令尹之政必以  
告新令尹何如子曰忠矣  
曰仁矣乎曰未知焉得  
仁  
令尹官名楚上卿執政者也夫子但許其忠而未許其仁也

大學 十章目

是故言悖而出者亦悖而入貨悖而入者亦悖而出  
悖ハ逆也

書物箱之銘

外典庫  
外典ハ儒書ト云ヘ  
大山窟  
大山ハ不讓

河海洞カカイドウ 文選河海不樵

國策コクサク 日本ノ國ノ書ト云フ

編冊子ヘンサンシ 六帖書格ヲ作り編テ

雜套ザットウ 新ハキクト云義ニ套ハ

文禁ブンキン 讀書又草稿ノ書類

舊知已室キウチキシツ 舊傳古実又古事

犯土籍ハントセキ 東鑑犯土ノ地形

入ルヲ云 入テオミテノ地形ニスルノ


南京豆腐ナニキンドウ 代後四洞

右々麴町五丁目柏屋

伊其備方有

芒天根カフ イモカシラ

出互場イモカシラ

一 菱 カブ 根 根 代七 松 文 

大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に

一 大 根 根 代百 松 文 但上方ノ山に  
上ノ方ノ山に  
上ノ方ノ山に



論語一 八佾篇

祭知在祭神知  
神在

程子曰祭祭先祖也  
但祭神祭外神也祭先  
主於孝祭神主於敬

一孔子曰攻其惡

無攻人之惡

但二十七箇條出  
初學知要

一初瀬と泊瀬と書

仍も日本紀第十四卷

雄略天皇六年春月

乙卯日天皇遊泊瀬

山野トキ山野ノ體勢

感玉ヒテ詠玉歌

ニヨリて泊瀬の山トノ

御製ニマリ今世に初願トモ

長谷トモ書又前文トモ

擬テ泊瀬トモ書又文泊ハ

通音トモ書又長ハノ割トモ

谷ニセリ割トモ書又トモ擬テ割

ナルニハ擬割ニテ字義増

一晉祿川王ノ臣顧栄トモ

水ヲ飲テ以テ餘生ヲ樂ト

思但世ササタルノ語也

右通俗續後三國志卷之一出

隱居後署名之式

散位從四位下藤原朝臣忠實畫

又略シテハ

散位從四位下藤原朝臣忠實畫

又至テハ怪ク書時ハ

散中大夫藤原忠實畫

但中大夫從四位下藤原朝臣忠實畫

一散位トモ侍從ノ官モ因書

ト官モ省キ隱居トモ散位トモ

官ヲ散位トモ云々位ハ叙セシテ

生涯身ヲ離レ又モノ是其身ヲ捨テ

官ハ役儀ノ侍從ハ天子ノ側近ノ役儀

因書ハ因書ハ司ル位ハ世ハ因書ハ

月ハ元ノトモ多キ後ハ之役儀ハ先書

ハ先書ハ天子ノ側近ノ役儀ハ先書

ハ先書ハ天子ノ側近ノ役儀ハ先書

ハ先書ハ天子ノ側近ノ役儀ハ先書

ハ先書ハ天子ノ側近ノ役儀ハ先書

右散<sup>サン</sup>之<sup>シ</sup>字<sup>ハ</sup>敗散<sup>ハ</sup>トテナリ也<sup>ニ</sup>  
ノ<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>散<sup>ハ</sup>官位<sup>ハ</sup>斗<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>集<sup>ハ</sup>ト云<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>  
元<sup>ハ</sup>未<sup>ハ</sup>官<sup>ハ</sup>ハ役<sup>ハ</sup>義<sup>ハ</sup>ニ<sup>ハ</sup>勤<sup>ハ</sup>メ<sup>ハ</sup>ザル<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>  
其<sup>ハ</sup>官<sup>ハ</sup>号<sup>ハ</sup>ハ返<sup>ハ</sup>上<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>心<sup>ハ</sup>リ<sup>ハ</sup>位<sup>ハ</sup>ト云<sup>ハ</sup>フ<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>ハ  
一<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>タ<sup>ハ</sup>ビ<sup>ハ</sup>賜<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>リ<sup>ハ</sup>タ<sup>ハ</sup>ル<sup>ハ</sup>位<sup>ハ</sup>階<sup>ハ</sup>ハ生<sup>ハ</sup>涯<sup>ハ</sup>ス<sup>ハ</sup>  
ツキテ返<sup>ハ</sup>上<sup>ハ</sup>及<sup>ハ</sup>ザル<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>ニ<sup>ハ</sup>ナリ

唐<sup>カラ</sup>ト日本<sup>ニ</sup>トノ人数<sup>ハ</sup>且

石<sup>ハ</sup>高<sup>ハ</sup>川<sup>ハ</sup>合<sup>ハ</sup>大<sup>ハ</sup>概<sup>ハ</sup>但<sup>ハ</sup>日本<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>三<sup>ハ</sup>

一<sup>ハ</sup>漢<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>世<sup>ハ</sup>文<sup>ハ</sup>帝<sup>ハ</sup>日<sup>ハ</sup>景<sup>ハ</sup>帝<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>

玉<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>富<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>数<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>多<sup>ハ</sup>キ<sup>ハ</sup>竹<sup>ハ</sup>苗<sup>ハ</sup>

石<sup>ハ</sup>高<sup>ハ</sup>二<sup>ハ</sup>千<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>頃<sup>ハ</sup>

但<sup>ハ</sup>由<sup>ハ</sup>百<sup>ハ</sup>步<sup>ハ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>頃<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>頃<sup>ハ</sup>

日本<sup>ハ</sup>三<sup>ハ</sup>河<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>長<sup>ハ</sup>最<sup>ハ</sup>長<sup>ハ</sup>河<sup>ハ</sup>

百<sup>ハ</sup>步<sup>ハ</sup>日<sup>ハ</sup>歌<sup>ハ</sup>百<sup>ハ</sup>歌<sup>ハ</sup>

日<sup>ハ</sup>頃<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>頃<sup>ハ</sup>者<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>步<sup>ハ</sup>

四<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>步<sup>ハ</sup>四<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>二<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>

日本

人数

日本

石<sup>ハ</sup>高<sup>ハ</sup>二<sup>ハ</sup>千<sup>ハ</sup>八<sup>ハ</sup>百<sup>ハ</sup>十<sup>ハ</sup>九<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>石

一<sup>ハ</sup>唐<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>唐<sup>ハ</sup>大<sup>ハ</sup>宗<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup> 千<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>也

唐<sup>ハ</sup>德<sup>ハ</sup>宗<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup> 三<sup>ハ</sup>百<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>也

一夏殷周三代の時

二千五百家ヲ割ト云

一万二千五百家ヲ割ト云

七五家ヲ割ト云

五百家ヲ割ト云

一唐一頃ハ唐ノ拾町迄

日本ノ三町ニ及ニ以ニ安

貴ル日本ノ地面上田

石壹ト及ニ石壹

一頃ハ拾九石九斗六升

石壹ト及ニ石壹

太谷ノ石九斗六升

限み及ニ方

美茶製法書 辻善徳

一茶摘取

八十八年より十一年迄の茶摘

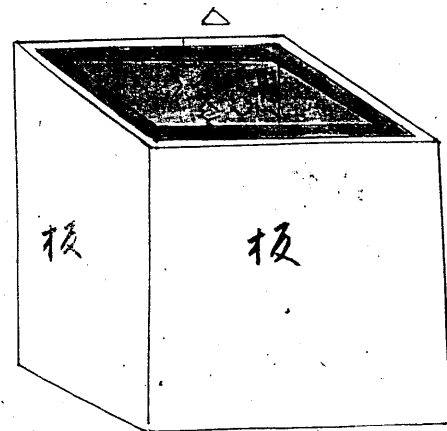
一茶摘





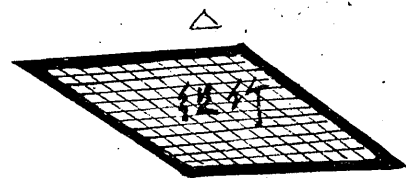
細くまじりて焼煙を金に切替ふ  
 之中へ金をまじりて焼煙を金に  
 切替ふ式並に茶掛等とて金に  
 替ふ人少くして金に切替ふ  
 人も又金に替ふ人も少く

焼煙の金



但焼煙は金に替ふ人も少く

焼煙の金



但金に替ふ焼煙の人も少く



久しき、信乃如く

おちむと休あゝいゝ  
おのへ入ておとそと  
すし祈らするつねし  
そのもいふあふる三々  
けりもかきそとあつて  
すねぐさいんまの  
おはとつととくすう  
おつねしとつと

めヶ六ツ時と東の方なり  
あすすいあづあて  
祈りあを竹の屋あて  
たすねくさいけり  
お出かめくろりてあ  
お一ふとそとねきハニ  
けり

日月星全事

本七曜  
水火木金土星日月  
七曜星  
二天サ地サト云々

俗云天の七曜  
天の七曜は外星より遠く出て出星

巨文 貪老 天世 廉貞

武極 禄存 破軍

但 七曜は七星と云ふ

但 七曜は七星と云ふ

一 大白星は金星

一 分野ト云ハ天ノ土地ノ刻分

齊ハ冬ノ星ニ中リ呉ハ夏ノ星ニ

中ニナドノ刻分テ元ノ刻分

齊國ノ分ニ中リ星ノ分

分ハ分境ノ分

一 日月ハ四方ヲ照シ日ニ

光ヲナツサレドモ天地ノ精氣

陽ノ精ハ日ト成リ陰ノ精ハ

月ト成リテ日ノ光ヲ減ズルハ

若クハテ不足スルナリ

万古死滅スルナリ

但天行一日ニ先月ニ夜先月

土星有奇日ノ先月土星

有奇地ニ三百五十四

天下に計全日一年ト三十日  
而天下計全日一月ト  
一人生常出入而一

但是ハ内經素問醫書  
に諸人ハ氣ヲ出  
心ヲ精ヲセテ十分  
おナバニシテ其一ヲ  
入レ入レ飲食の養ニ  
け敷ニ日ニ二分の換立  
然ニ百年ニ命ト云レ

一節リつとある痛ニ  
入湯に余す一やうを  
之よりこもつて湯を  
其湯の方 若林を方

一 商政 あり  
一 川草 日  
一 芍薬 日  
一 艾葉 日  
一 桂枝 日

只紛紜ト利心ヲ生レ少シモ

悔レ反シテ思フニ至ラズ起リ

タル吝嗇ノ一念ヨリ心ヲ以テ

心ト問フニ何ノ悪キ害ヲカ

見出サシ思フ善ニ落著シセ

斯カガリノ大事又ニテモ心上

季子決スル莫能ハシ

右北魏南梁軍談八卷出ル  
紫ノ梁武帝ノ武帝ノ武帝ノ武帝ノ

一狡免死テ走拘亨ニラル

飛鳥盡テ良弓藏ル

一禮記曰ク奢リハ長

ズベカラス欲ハホシイ

マニスベカラス志ニハ

ミツベカラス樂シミハ

キムベカラスト此四ツ

ヨクワキマヘ守レバ



春は日の光り  
花は雨の香  
あまのこころ

栗り寸かん雪ろ路  
東名酒

右主神田新之守三丁目  
序卷十五兵部方有

[illegible]



へりぬくまをせられも半ふ  
 なるは、西のふりたるひま  
 へりぬくまをせられも半ふ  
 なるは、西のふりたるひま  
 へりぬくまをせられも半ふ  
 なるは、西のふりたるひま

[illegible]

いづれやぬふちのうらさ  
わくく月あふくせう  
しほほとてはるかに  
まて今秋はうらさ  
そのうらさうらさ  
みゆはるをうらさ  
しほほとてはるかに  
なうらさうらさ  
もあふくくうらさ  
もあふくくうらさ  
ふくくくくくく  
一向ふくくく  
いふくくく

いづれやぬふちのうらさ  
わくく月あふくせう  
しほほとてはるかに  
まて今秋はうらさ  
そのうらさうらさ  
みゆはるをうらさ  
しほほとてはるかに  
なうらさうらさ  
もあふくくうらさ  
もあふくくうらさ  
ふくくくくくく  
一向ふくくく  
いふくくく



その二つは、  
まづ、  
二つの、  
と、  
まづ、  
勇ま、  
う、  
と、  
ま、  
里、  
く、  
物、  
勇、  
中、  
尾、  
それ、  
の、  
ら、  
勇、  
か、  
あ、  
り、  
と、  
な、  
な、  
一、  
は、  
さ







短冊

一

色紙



又情紙時

郭公初

正之

信然

五

多紙種冊に常法ありと  
あはれとの書

一色紙短冊  
 書中  
 小  
 新  
 の  
 歌  
 と  
 押  
 入  
 何  
 故  
 一  
 考  
 隆  
 考  
 と  
 云  
 う  
 少  
 や  
 と  
 云  
 作  
 り  
 込  
 ん  
 だ  
 一  
 色  
 紙  
 短  
 冊  
 の  
 押  
 入  
 男  
 性  
 短  
 冊  
 の  
 押  
 入  
 男  
 性  
 短  
 冊  
 の  
 押  
 入



あやめふたふた  
しる梅ふたふた  
庭ふたふた  
下ふたふた  
作歌  
後歌

寛政五年  
是例  
供  
正親  
中家

正親  
但  
丹

平  
足  
白  
あ  
あ

ひけいしと末

ある人

一自家ジカの身ミハ

二條家

果院カエン宮ミヤ内侍ナシ成ナリをシ三教サンキョウ所ショ

日ヒ親シンくク内侍ナシ成ナリをシ三教サンキョウ所ショ

孝コウ行コウ家カの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

西教セイキョウ所ショの身ミハ

是小人の才用なり  
人徳を守る事  
是人徳の才用なり

右自書太閤記八篇の檢表  
目小出

現死せしむるなり

一徹時 以字と書て

床の下へ一夜宿く

川口流し

但し

一解

禁裏より

常

は

そ

短人色紙す法

懐紙

一解書綴方ハ

但 題号もく方々もあ

寸法三ツ割して二ツ割

六ツ割リツ旦 物外外外外

一月横 物外外外外

但 なく 懐 物外外外外

付

一短尺 雲上 中寸

一月 地下 中一寸五分

一色紙 地下 中一寸五分

寸法

中一寸五分

歌書の法

四季の友 歌書の法

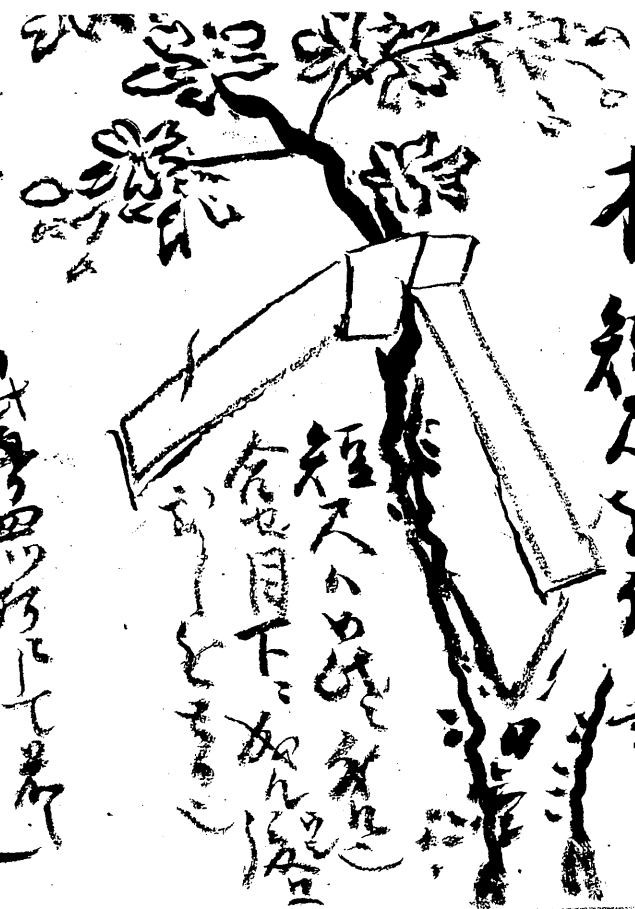
正木 中一寸五分

かしら 中一寸五分

用る



木下種人と云ふ事



短人

「けしき四つ折にしてあつた  
おとまりのゆきやう」

わーんわーんわーんわーんわーん

サシアリ  
曝栗麩

右に神田鍋丁伊勢屋

九八方と有 其外進物箱

たぬぬ

ニミミしめん

一 あとらん

一 かいしめん

一 らんらん

一 清湯そめん

一 百部めん

一 ちやめん



るさうり  
らんらうり 班の振八  
おれものうれさう  
おれものうれさう  
おれものうれさう  
おれものうれさう  
おれものうれさう

蓮飯杯ハスノメシタキなり

一蓮ハスノメシタキ美但ミタ松坂

太師タイシ神カミより水入  
まんのりマノリ水入

左水サミが減ヘゆーユ地を  
お焚カキ中を米を中焚ナカカキ  
神カミが減ヘゆーユ地を

肥ヒ系  
長チカ白シロ菜ナ作りナリ仕事

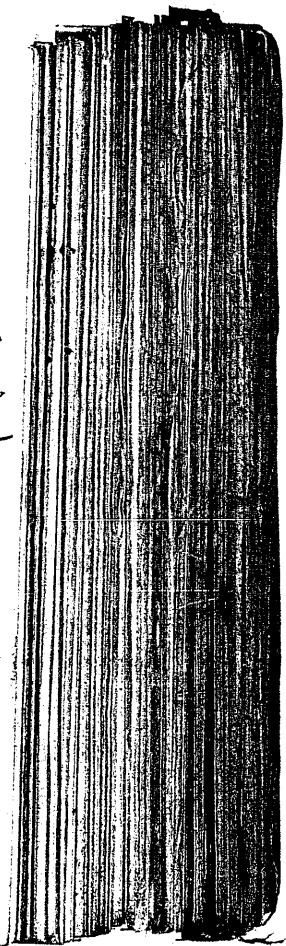
一作りイチナリ知チ線センより  
花ハナさんの花ハナより  
天テンの天テンより  
天テンの天テンより

そはまたいふに  
さうけむに  
いふに  
の肉をそは二合  
そは二合  
入るに  
三合  
五合  
七合  
九合  
十一合  
十三合  
十五合  
十七合  
十九合  
二十一合  
二十三合  
二十五合  
二十七合  
二十九合  
三十一合  
三十三合  
三十五合  
三十七合  
三十九合  
四十一合  
四十三合  
四十五合  
四十七合  
四十九合  
五十一合  
五十三合  
五十五合  
五十七合  
五十九合  
六十一合  
六十三合  
六十五合  
六十七合  
六十九合  
七十一合  
七十三合  
七十五合  
七十七合  
七十九合  
八十一合  
八十三合  
八十五合  
八十七合  
八十九合  
九十一合  
九十三合  
九十五合  
九十七合  
九十九合  
一百合

ふはまたいふに  
さうけむに  
いふに  
の肉をそは二合  
そは二合  
入るに  
三合  
五合  
七合  
九合  
十一合  
十三合  
十五合  
十七合  
十九合  
二十一合  
二十三合  
二十五合  
二十七合  
二十九合  
三十一合  
三十三合  
三十五合  
三十七合  
三十九合  
四十一合  
四十三合  
四十五合  
四十七合  
四十九合  
五十一合  
五十三合  
五十五合  
五十七合  
五十九合  
六十一合  
六十三合  
六十五合  
六十七合  
六十九合  
七十一合  
七十三合  
七十五合  
七十七合  
七十九合  
八十一合  
八十三合  
八十五合  
八十七合  
八十九合  
九十一合  
九十三合  
九十五合  
九十七合  
九十九合  
一百合

ふはまたいふに  
さうけむに  
いふに  
の肉をそは二合  
そは二合  
入るに  
三合  
五合  
七合  
九合  
十一合  
十三合  
十五合  
十七合  
十九合  
二十一合  
二十三合  
二十五合  
二十七合  
二十九合  
三十一合  
三十三合  
三十五合  
三十七合  
三十九合  
四十一合  
四十三合  
四十五合  
四十七合  
四十九合  
五十一合  
五十三合  
五十五合  
五十七合  
五十九合  
六十一合  
六十三合  
六十五合  
六十七合  
六十九合  
七十一合  
七十三合  
七十五合  
七十七合  
七十九合  
八十一合  
八十三合  
八十五合  
八十七合  
八十九合  
九十一合  
九十三合  
九十五合  
九十七合  
九十九合  
一百合





秘く教ふべし  
海士の経典と云ふ  
千巻乃に一巻あり  
なり

平安 金峯世古景雷撰

東山夙夜書  
多福菴製

瑞和訓

一塙ト云ハ和訓ニ云フ

ミハ又ハナハトモ訓ス  
ニトナトモ云フ。ミハミハ  
ミハミハミハミハミハ  
ミハミハミハミハミハ  
ミハミハミハミハミハ  
假令ミハミハミハミハ

土又埴 各つちの訓

野田宿稱  
初子殿  
土師ト云  
ト日本記  
アリ  
ミハミハミハミハミハ  
ミハミハミハミハミハ  
ミハミハミハミハミハ  
ミハミハミハミハミハ  
ミハミハミハミハミハ



人皇千代

人形と坊主の白紙の印

善人なりて是れ死

とすらくは

姓と云ふと

地味な小説

改定

(ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ)  
 (ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ)  
 (ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ)  
 (ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ)  
 (ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ) (ハニ)

(ハ) <sup>ハ</sup>ト <sup>ハ</sup>モ <sup>ハ</sup>ニ <sup>ハ</sup>ニ  
 (ニ) <sup>ニ</sup>ト <sup>ニ</sup>モ <sup>ニ</sup>ニ <sup>ニ</sup>ニ  
 (ハ) <sup>ハ</sup>ト <sup>ハ</sup>モ <sup>ハ</sup>ニ <sup>ハ</sup>ニ  
 (ニ) <sup>ニ</sup>ト <sup>ニ</sup>モ <sup>ニ</sup>ニ <sup>ニ</sup>ニ

大正  
十  
年  
版  
林  
氏  
之  
事

卷之六

一  
米

幸

但洗頭時就塗冷水膏

答入換少子

茶版

一  
米

五

但說二事之下藥二時經

於色と介ルざる上の一嬌柔

吾升客入佐之也樊釐

壬戌年文榮部十月六日

上卷

但ニ盡セド素初と素三どん  
セドニ終ル

菜飯

一菜

五升

但此三時経るまで煮る  
三合ほど煮る(焚)中(中)菜細  
切(切)塩(塩)こ(こ)も(も)煮(煮)る(煮)る  
上(上)に(に)少(少)量(量)の(の)菜(菜)葉(葉)を(を)  
又(又)塩(塩)を(を)加(加)え(え)る(る)

湯菜飯

一麦

七合

一菜

七合

合(合)と(と)申(申)す(す)入(入)る(る)煮(煮)る(る)煮(煮)る(る)  
煮(煮)る(る)煮(煮)る(る)煮(煮)る(る)煮(煮)る(る)  
又(又)湯(湯)に(に)入(入)る(る)煮(煮)る(る)  
焚(焚)き(き)煮(煮)る(る)煮(煮)る(る)煮(煮)る(る)  
又(又)湯(湯)に(に)入(入)る(る)煮(煮)る(る)

四合(四合)大(大)中(中)小(小)粒(粒)五(五)升(升)

出(出)立(立)里(里)敷(敷)一(一)斗(斗)

武(武)列(列)多(多)麻(麻)郡(郡)  
年(年)頃(頃)村(村)  
羽(羽)村(村)

右(右)三(三)斗(斗)村(村)大(大)キ(キ)如(如)ク(ク)能(能)出(出)ル(ル)  
伊(伊)豆(豆)代(代)不(不)保(保)老(老)人(人)の(の)伝(伝)言(言)に(に)依(依)る(る)

山手

一能 辰二月十日迄

あつた

一十能

二月

三月迄

一中能

三月迄

三月迄

一大能

八月迄

九月迄

一大能 斗リハタニハタニ

たふす村お金より

相持能たふす村お金より

一能 辰二月十日迄

川上より大関有る村方

山手

寛政十一年

馬場能恩

八月四日

中村

左馬

留伸く実仕

一大能

三月

但ソリハタニハタニ

一大能

三月

但二日能

たふす村お金より

むしへ上へまを分  
粉<sup>コト</sup>換衣<sup>コト</sup>かへし  
粉<sup>コト</sup>花分<sup>コト</sup>二  
目ふす

但花<sup>キイハ</sup>と<sup>コト</sup>粉<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>能<sup>コト</sup>  
黄色<sup>キイハ</sup>と<sup>コト</sup>粉<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>

一塩 二糸

一水 六糸

但二糸<sup>コト</sup>合<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>黄<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>糸<sup>コト</sup>

水<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>粉<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>

日<sup>コト</sup>何<sup>コト</sup>り<sup>コト</sup>何<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>二十<sup>コト</sup>日<sup>コト</sup>

玉<sup>コト</sup>毎<sup>コト</sup>日<sup>コト</sup>二<sup>コト</sup>三<sup>コト</sup>篇<sup>コト</sup>か<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>

か<sup>コト</sup>海<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>一<sup>コト</sup>片<sup>コト</sup>何<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>

多<sup>コト</sup>く<sup>コト</sup>色<sup>コト</sup>白<sup>コト</sup>く<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>

今<sup>コト</sup>上<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>肉<sup>コト</sup>入<sup>コト</sup>四<sup>コト</sup>十<sup>コト</sup>日<sup>コト</sup>

何<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>何<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>何<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>

何<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>何<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>

一<sup>コト</sup>大<sup>コト</sup>根<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>何<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>何<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>

但<sup>コト</sup>日<sup>コト</sup>教<sup>コト</sup>二<sup>コト</sup>十<sup>コト</sup>日<sup>コト</sup>と<sup>コト</sup>

一<sup>コト</sup>粉<sup>コト</sup>粉<sup>コト</sup> 八<sup>コト</sup>糸

一塩

桑春

右へ通へる溪田々事

但し皇統十月以後は世に

塩八升入る田々の事也

おぬるををる事也

ハサツチニシテ  
後溪仕所

一大根

百本

但し五升以下

一粉

斗升

一塩

斗升

右へ通へる溪田々事

シラナスツチ  
塩苗子屋敷

一苗子

子

一塩

斗升

右へ通へる溪田々事

ゆき塩木家より入る

斗升入る苗子屋敷

但し五升以下は入る事也

楊千仕録

一楊 五斗

一塩 四升

一五斗 羅文子

但此等と云ふをりて  
まゐる

右庚辰の楊一ト初日を以

て始と爲りて上と云ふは

右と云ふは何處の庚辰と

一がし余り大なりを

言ふなりと云ふは左

をり候なりと云ふは

右の月日教立日也

月不十と又初は庚辰

楊卯は一夜庚辰の翌日

は日十と云ふは左

右の月日

但二つが左の庚辰の酒と

云ふは始りて上と云ふは

一楊と云ふは言雨水と



一柳破六園（サ）もむらさ  
千余年持（サ）り  
何ぞいふ事（サ）なり

和（サ） 奏（サ） いう仕組

一大いり 十盞（サ）

但はから生（サ）て

一第（サ） 部合

太ききねハあきま

びぐら入（サ）いりときらふ

入（サ）しふ所秘考（サ）なり

おぬれを上（サ）を何（サ）と押

きふ（サ）

蛇（サ） 奏（サ） の方

一大りといひ但（サ）しを色とてう

かしはひ市（サ）口

貝の伝（サ）りやうで

ふていふ（サ）らぬと

みて漏（サ）うすを仕

因我之方見のるべき  
きりぬりしと爲るべき  
五所ねえたるなり  
はつたふとけしむる  
仲う外へ出すなり  
凡味指原五支  
ぬ。路原和  
齒之老十  
押原方人とのなり

石壁阿婆大王頻婆  
初ら竹園精舎作し  
婆羅天歌迎、歌え又日本  
建し初ら、欣明天王  
大和玉向原寺  
但蘇我稱目

悠谷

悠谷のふりて  
悠谷のふりて

[illegible][illegible]

あつたのちからいふと  
まづいふべきは、この  
秋の華のついでに、  
あつた、五、六、七、  
八、九、十、十一、  
十二、十三、十四、  
十五、十六、十七、  
十八、十九、二十、  
二十一、二十二、二十三、  
二十四、二十五、二十六、  
二十七、二十八、二十九、  
三十、三十一、三十二、  
三十三、三十四、三十五、  
三十六、三十七、三十八、  
三十九、四十、四十一、  
四十二、四十三、四十四、  
四十五、四十六、四十七、  
四十八、四十九、五十、  
五十一、五十二、五十三、  
五十四、五十五、五十六、  
五十七、五十八、五十九、  
六十、六十一、六十二、  
六十三、六十四、六十五、  
六十六、六十七、六十八、  
六十九、七十、七十一、  
七十二、七十三、七十四、  
七十五、七十六、七十七、  
七十八、七十九、八十、  
八十一、八十二、八十三、  
八十四、八十五、八十六、  
八十七、八十八、八十九、  
九十、九十一、九十二、  
九十三、九十四、九十五、  
九十六、九十七、九十八、  
九十九、一百、

[illegible]

今更なることありては  
 即ちそのことありては  
 此の事ありては  
 人よりあることありては  
 前よりあることありては  
 意よりあることありては  
 智よりあることありては  
 事よりあることありては  
 方よりあることありては  
 人よりあることありては  
 事よりあることありては  
 方よりあることありては

しる人々を以て義理を  
せん多し中ふれ親を  
平あふれ親を以て  
方の他の親を以て  
今世を以て人々を  
しる人々を以て  
のふれ親を以て  
義理を以て  
しる人々を以て  
今世を以て  
のふれ親を以て  
義理を以て

今我輩の親を以て  
しる人々を以て  
義理を以て  
今世を以て  
のふれ親を以て  
義理を以て  
しる人々を以て  
今世を以て  
のふれ親を以て  
義理を以て



あゝふのふり歌にま  
はらひて平氏の流歌  
やあゝ威とふひふ義經  
あゝ金谷とふひふ目  
歌の極とふひふ新の勢  
一羽とふひふ流のせ  
やゝあゝ新の勢  
あゝ流の勢とふひふ  
りゝあゝ流の勢とふひふ  
うゝあゝ流の勢とふひふ  
なれとふひふ流の勢  
親とふひふ流の勢

あゝふのふり歌にま  
はらひて平氏の流歌  
やあゝ威とふひふ義經  
あゝ金谷とふひふ目  
歌の極とふひふ新の勢  
一羽とふひふ流のせ  
やゝあゝ新の勢  
あゝ流の勢とふひふ  
りゝあゝ流の勢とふひふ  
うゝあゝ流の勢とふひふ  
なれとふひふ流の勢  
親とふひふ流の勢







漢 夏月饒師事

朱<sup>シエ</sup>亥<sup>バイ</sup>辰<sup>シン</sup>ハ夏<sup>ナツ</sup>六月<sup>リク</sup>玉<sup>タマ</sup>家の<sup>ノ</sup>  
守<sup>シユ</sup>獲<sup>ゴ</sup>神<sup>ジン</sup>不<sup>カミ</sup>境<sup>モリ</sup>を<sup>ナリ</sup>天下<sup>テ</sup>  
政<sup>セイ</sup>道<sup>ドウ</sup>の<sup>カ</sup>形<sup>カタ</sup>不<sup>ナ</sup>知<sup>チ</sup>て<sup>ナリ</sup>れ  
事<sup>トモ</sup>小<sup>コ</sup>れ<sup>ヲ</sup>を<sup>セ</sup>施<sup>セ</sup>す<sup>ナリ</sup>外<sup>ソト</sup>老<sup>ロウ</sup>を<sup>ナリ</sup>  
して<sup>カ</sup>世<sup>セ</sup>の<sup>ノ</sup>政<sup>セイ</sup>道<sup>ドウ</sup>を<sup>ナリ</sup>と<sup>ナリ</sup>

右石山軍鑑 前篇 二十五卷目に出

小夜中山<sup>サヨノナカヤマ</sup>鈴<sup>スズ</sup>比<sup>ヒ</sup>鉾<sup>ホ</sup>

右<sup>タ</sup>後<sup>ハチ</sup>草<sup>クサ</sup>田<sup>タ</sup>原<sup>ハラ</sup>町<sup>チヨウ</sup>二<sup>ニ</sup>丁<sup>テウ</sup>目<sup>メ</sup>越<sup>コ</sup>後<sup>ハチ</sup>屋<sup>ヤ</sup>  
定<sup>テイ</sup>八<sup>ハチ</sup>力<sup>リキ</sup>有<sup>アル</sup>但<sup>タ</sup>ま<sup>マ</sup>に<sup>ニ</sup>有<sup>アル</sup>は<sup>ハ</sup>た<sup>タ</sup>に<sup>ニ</sup>有<sup>アル</sup>は<sup>ハ</sup>た<sup>タ</sup>に<sup>ニ</sup>有<sup>アル</sup>

二系<sup>ニ</sup>流<sup>リウ</sup>記<sup>キ</sup>系<sup>ケイ</sup>流<sup>リウ</sup>の<sup>ノ</sup>次<sup>ツギ</sup>

一<sup>一</sup>系<sup>ケイ</sup>古<sup>コ</sup>酒<sup>シュ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>  
二<sup>二</sup>系<sup>ケイ</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>  
三<sup>三</sup>系<sup>ケイ</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>  
四<sup>四</sup>系<sup>ケイ</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>  
五<sup>五</sup>系<sup>ケイ</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>  
六<sup>六</sup>系<sup>ケイ</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>  
七<sup>七</sup>系<sup>ケイ</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>  
八<sup>八</sup>系<sup>ケイ</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>  
九<sup>九</sup>系<sup>ケイ</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>  
十<sup>十</sup>系<sup>ケイ</sup>原<sup>ハラ</sup>の<sup>ノ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>ヲ</sup>飲<sup>ノミ</sup>む<sup>ナリ</sup>

沙歌古題と家

飛多井家

次家

右面歌外古題

今をいふ題

今所て題ふ

昔より市題

いふ方題と

和歌の題部

書方市題

色紙短冊 文書

一色紙の古代より

一短冊の古代より

但古代より

一文書古代より色紙



大正前  
政市 天定教  
事

一 大正市と河内  
仲母ら山城事  
屋敷を接し住みなり  
秀吉親御御事  
これらの名を  
正年辰より  
文禄二年に年名  
屋敷と云ふなり  
大正市と河内  
仲母ら山城事  
屋敷を接し住みなり  
秀吉親御御事  
これらの名を  
正年辰より  
文禄二年に年名  
屋敷と云ふなり

一 大正市と河内  
仲母ら山城事  
屋敷を接し住みなり  
秀吉親御御事  
これらの名を  
正年辰より  
文禄二年に年名  
屋敷と云ふなり

別業ありて老死の如  
母の如く切なきヤヤの  
方と云ふ  
心と云ふ

大政和

老死の如く母の如く  
母の如く切なきヤヤの

政和

老死の如く母の如く  
母の如く切なきヤヤの

定教

老死の如く母の如く  
母の如く切なきヤヤの

### 定家と歌

天のそとにありては  
ありては天のそとにあり

ちとて定家は  
定家はちとて  
定家はちとて  
定家はちとて

孔門の流子独り

一ひ 孔門の流子独り

いひ 孔門の流子独り

他と云ふ 孔門の流子独り

然しある 孔門の流子独り

蓋ふもの 孔門の流子独り

ふれ子回人 孔門の流子独り





二月 北条 十日

三月 日 十日

四月 日 十日

五月 日 十日

六月 日 十日

七月 日 十日

八月 日 十日

九月 日 十日

十月 日 十日

十一月 日 十日

十二月 日 十日

用立ヤリ

自前麦味噌之法

一麦粒沙汁に鹽辛入るる  
所かへ

一大豆の汁に鹽辛入るる  
大釜に入胡瓜汁はより  
煮る所と老若大とる  
用立ヤリと結ぶ所  
是より麦粒と煮る所

入に決して因重なり

後法信傳

まろし匠川伝

一毫の中出まろしを  
やのよくと切匠のよ  
ころをいひて匠白く  
けしをいひて匠白く  
よろり又白く匠の力  
匠匠匠匠匠匠匠匠

をいひて匠の力  
匠匠匠匠匠匠匠匠

匠匠匠匠

匠匠

一匠匠匠匠匠匠匠

一匠匠匠匠匠匠匠

匠匠匠匠匠匠匠匠





手氣法

一 大豆 三升

一 粳 五升 煮令熟

一 鹽 四合 煮

夫人つぎ虫の痛を

治方 若林廣順方

山玉子 鹽煮とる

太砂 煮湯とる 海しち

山玉子を細末とる 煮湯とる

一 桑白皮 煮湯とる 煮湯とる

痰切 美林方

一本玉玉砂 煮湯とる

一 せし 煮湯とる 煮湯とる

一 玉子白身 煮湯とる

太三合煮湯とる 煮湯とる

煮湯とる 煮湯とる

入し煮湯とる 煮湯とる

但 煮湯とる 煮湯とる

煮湯とる 煮湯とる

古き書より長き書なり  
伝次より中より古き

山里はうき世のふしなり  
すまぬ思ふ人なり

但世を待て松風と云ふいふ

またたつ時の事 （三つと難入）

さうづきまうづき  
さうづきまうづき  
さうづきまうづき

あや漢

一太根百々

一太根三々

一太根七々

太根七日午に初をすなり  
太根七日午に初をすなり  
十ラ太根初をすなり  
大根十日余も月法句  
十月初五々

くさくさ漢書

一細太根をすなり  
斗り二非入太根三々  
法句三々

但世を待て松風と云ふいふ

定家公十歳の時、  
名歌といふ出来と、  
後成は、  
信成より

夫のやうな人、  
あゝこゝろ月、  
美内仕方、

一、  
味、  
部合

大制、  
入を、

わゝかへ、  
ホー、  
ち、  
但、

贈耳、

一、  
味、  
但、

一、  
功、  
部、

一、  
也、  
女、

一、  
燈、  
女、

一白砂糖 エロガサトウ 吟 イロモイ

右五只合水のふく源 コモ  
生 ナマ

白用麻入車研 シロガマエイリマエ 仕方 シホ

一白砂糖 エロガサ 三合 ミカ

但 スリ 三合 ミカ 研 ケン

一味 イミ 三合 ミカ 研 ケン

但 スリ 三合 ミカ 研 ケン

一研 イチケン 三合 ミカ

十 ジュ 研 ケン

右五只合水のふく源 コモ  
生 ナマ

福録 フクリク 壽 ス 價 バ

堆 ツキ 研 ケン 上 ウエ 研 ケン

和 ワ 研 ケン 上 ウエ 研 ケン

柚 ユ 餅 モチ 代 ダイ 研 ケン

右五只合水のふく源 コモ  
生 ナマ

京九山くく焼

存き西久保天徳寺前

ながい長岳房方有る

但わらやまの□  
まうちんい常はまうちん

七種

芥 鼠麴草 藤葉

佛座 松 蘿蔔

秋七種 万葉

萩 尾花 葛花 桂子

女郎花 藤袴 朝貌

京都千年鮑

北千年鮑 八全許素奈

く 新石 板 名 某 葉

切花 力 由 日 救 い ろ ゐ ど

まろく 風味 物 市 々 目

あやめ 仕 立 有 る 紅 花 白 砂 花

あやめ 仕 立 有 る

三州小松原観音寺跡美奈

千 子 子 勢 の 観 音 寺 跡



おき分らし古歌

藤急清浦

おき分らし古歌

思ふ子母のたけしきり

京都出雲守入道

一大苗香 氣味をききし肝を痛

一挂枝 気味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

一本 氣味をききし肝を痛

長き髪をぬれ雨をどかしと  
ありなく遠く海へつゝ  
たゞ通ふ刻を待たずなり  
招くふかき招き声なり  
押さへしそは後能なり  
初やし糸をきりきり  
傷すなり

一石をりふかきなり  
金と水と入るを知らぬ  
一歩をりいふなり  
金と石のなり  
と入る能くかきまはる  
様計とこしなり  
おし取あめんなり  
おし取あめんなり  
おし取あめんなり

一石をりふかきなり  
おし取あめんなり  
おし取あめんなり

切はあしざらいたはる  
の所かたきく清く年さ  
かきす

一石はあかさまをばか  
くろと石をばあききり  
あけえ、和をくくあり  
後けたりり、後るなりけ  
はり、あひる、後りのなり  
なり、なり、なり、なり、なり

あき後をきり

一石あし、なり、なり、なり  
さあ、あき、なり、なり、なり  
こし、なり、なり、なり、なり  
和を、こし、なり、なり、なり  
後、なり、なり、なり、なり  
なり、なり、なり、なり、なり  
なり、なり、なり、なり、なり  
なり、なり、なり、なり、なり  
なり、なり、なり、なり、なり

をて存よむけと紙二反  
灰のうふ安存をよま  
たりしあかりとせたり  
むちく安住いゆこのり  
てゆ

石川なる書

石澗亭

安産不動

静居鑑

中樂

山々書

同草書

才昌 晴素幾更 念  
あまふ未群石

懐去 未希  
松中束

戯山 ちん  
道法の新

松 ぬふ松きいむら  
かこしこれふむら  
うる家いりうら  
あま松きいむら

松 じふふふゆりん  
あふ松きいむら  
いん松きいむら

庵 糸柄

うふふて松きいむら  
あふ松きいむら  
あふ松きいむら  
あふ松きいむら

五十年の奇蹟

# 茶葉の奇

松風れも秋の香を

なとててそのふ

いそせうじん

茶を金の湯のまきとる  
かきと松風ふくまふ

## あふ乃山おじ

ち得元ち飯道が橋樋上

安方大和江戸出店神田  
河成道平新代地安方  
平吉方有く

弘法大師いろはは後方

但はいろははるるるるるるるるるる  
聖徳太子の御書

いろはにほへと。

ちりぬるを。

わかよたれそ。

つねならむ。



うゐのたぐやよ。  
けふこゝろて。  
あさきゆめみ。  
あししせず。

あま船草紙

小の屋

甘れいふとあつていふと  
いふとあつていふと

お中屋所製

拈花微笑

いふいふとあつていふと  
いふいふとあつていふと

一ふいふとあつていふと

いふいふとあつていふと

あつていふとあつていふと

魂の魂

魁さめ魂<sup>ミ</sup>伴<sup>ミ</sup>むとつてよ  
ちをそま<sup>チイテマ</sup>長<sup>チヨウ</sup>中<sup>チュウ</sup>外<sup>ガイ</sup>傳<sup>デン</sup>東<sup>トウ</sup>傳<sup>デン</sup>西<sup>セイ</sup>顧<sup>コ</sup>  
十六卷目<sup>十六卷目ニ生</sup>

大學の心と字<sup>タチ</sup>あるの  
よふ<sup>ヨ</sup>身<sup>ミ</sup>を<sup>ヲ</sup>依<sup>ヨサ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>実<sup>ミ</sup>  
り<sup>リ</sup>る<sup>ル</sup>ハ<sup>ハ</sup>む<sup>ム</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>の<sup>ノ</sup>所<sup>所</sup>  
ある<sup>アル</sup>ふ<sup>フ</sup>ず<sup>ズ</sup>り<sup>リ</sup>カ<sup>カ</sup>好<sup>コ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>と  
や<sup>ヤ</sup>も<sup>モ</sup>親<sup>キン</sup>を<sup>ヲ</sup>も<sup>モ</sup>ら<sup>ラ</sup>ふ<sup>フ</sup>に<sup>ニ</sup>意<sup>イ</sup>  
を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>し<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>と

心明

有<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>な<sup>ナ</sup>る<sup>ル</sup>に<sup>ニ</sup>よ<sup>ヨ</sup>り  
心<sup>シン</sup>より<sup>ヨリ</sup>心<sup>シン</sup>を<sup>ヲ</sup>な<sup>ナ</sup>る<sup>ル</sup>と  
う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>な<sup>ナ</sup>る<sup>ル</sup>と

古<sup>コ</sup>傳<sup>デン</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>シン</sup>を<sup>ヲ</sup>威<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>  
とは<sup>トハ</sup>ま<sup>マ</sup>に<sup>ニ</sup>心<sup>シン</sup>を<sup>ヲ</sup>威<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>  
心<sup>シン</sup>を<sup>ヲ</sup>威<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>と<sup>ト</sup>な<sup>ナ</sup>る<sup>ル</sup>  
心<sup>シン</sup>を<sup>ヲ</sup>威<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>と<sup>ト</sup>な<sup>ナ</sup>る<sup>ル</sup>

ともむすなり

不慶長中外傳末位

西顧十九巻目三出

十要のまろひん

そのあふらん

はのき

長流

ゆき

のまろひん

一女子 妙子

一女子の貌を

一女子の貌を

女子の貌を

女子の貌を

女子の貌を

女子の貌を

うゑん粉入る事  
お焼酎の端の肉を食ふ位  
の焼酎をうゑん粉を入  
るゑん粉を焼酎より  
多量に入焼酎を食ふ  
下の火をうゑん粉を食  
ふと焼酎をうゑん粉を  
焼酎をうゑん粉を食  
焼酎をうゑん粉を食  
焼酎をうゑん粉を食  
焼酎をうゑん粉を食

えん粉の焼酎を食ふ

色を仕方

一かやうな焼酎を食ふ  
たれをうゑん粉を食ふ  
色を仕方

このまゝに結くあうと  
おとて御らん

菓子もなるし内外  
おらん仕方

一 坊ふちちのまゝ外より



外より入るゝ外より出る  
但し油をあらうたきりなり

社倉きやうり

漬物と年

一 身は江をながれ今に

道に入れば江をながれ

松田村松田村おこしに

道并海路あらん

一 江戸松田村送りには

那田田町松田村

松田村

江戸松田村

おき遠極るる風体  
及その月記をなす

江東花江田舎庭園

但洛園書下云

花を中庭に月夜を

空たのり及その年

自火をいふ

正月初の七日火入  
所とて川へ流せば

自火をいふ

あそびの

但洛園書下云  
ハナハナト云

花西行上人の家集の

月記をいふ

山とていふのけな

うな

あそびの

り



有徳院様<sup>ありとく</sup>様<sup>さま</sup>は<sup>は</sup>夏<sup>なつ</sup>成<sup>なり</sup>

皆<sup>みな</sup>御<sup>ご</sup>目<sup>め</sup>深<sup>ふか</sup>と入<sup>い</sup>

上<sup>かみ</sup>後<sup>ご</sup>付<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>中<sup>なかつ</sup>歌<sup>か</sup>

う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>一<sup>いつ</sup>玉<sup>たま</sup>の<sup>の</sup>月<sup>つき</sup>れ

う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>知<sup>ち</sup>人<sup>ひと</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>成<sup>なり</sup>

め<sup>め</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>め<sup>め</sup>い

但<sup>ただ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>氏<sup>し</sup>難<sup>がた</sup>有<sup>あ</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>言<sup>い</sup>ふ

中<sup>なかつ</sup>目<sup>め</sup>人<sup>ひと</sup>様<sup>さま</sup>人<sup>ひと</sup>々<sup>々</sup>夜<sup>よ</sup>に

而<sup>しか</sup>後<sup>ご</sup>付<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>を<sup>を</sup>み<sup>み</sup>た<sup>た</sup>く<sup>く</sup>に<sup>に</sup>結<sup>むす</sup>ぶ

下<sup>した</sup>に<sup>に</sup>ふ<sup>ふ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>に<sup>に</sup>思<sup>おも</sup>ふ

中歌

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>中<sup>なかつ</sup>と<sup>と</sup>屋<sup>や</sup>す<sup>す</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>

や<sup>や</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>い

ち<sup>ち</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>

但<sup>ただ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>氏<sup>し</sup>難<sup>がた</sup>有<sup>あ</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>言<sup>い</sup>ふ

皆<sup>みな</sup>御<sup>ご</sup>目<sup>め</sup>深<sup>ふか</sup>と入<sup>い</sup>

上<sup>かみ</sup>後<sup>ご</sup>付<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>中<sup>なかつ</sup>歌<sup>か</sup>

う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>一<sup>いつ</sup>玉<sup>たま</sup>の<sup>の</sup>月<sup>つき</sup>れ

う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>知<sup>ち</sup>人<sup>ひと</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>成<sup>なり</sup>

め<sup>め</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>め<sup>め</sup>い

瘡をいじり思ふ老人の  
怪の状をきくものゝた  
むせぬとよするさす

有徳院藤村の筆

床の間の音るまゝに

一ふいふと行きてあまの  
ふりて

一月の月をみるものゝた

あやしくなるものゝた

但 大名の侍り  
なまらるる道

遠来山

石海歌  
國姓爺谷忠義傳

麻も草も

一草麻と冬毛とふ 色白

一女麻と夏毛とふ 色赤

木々草々えのけむら

田舎の麻のけむら

庭の尾のけむら



閑居夜雨

よもすもふらふら  
独居の宿たいてき  
さむ

閑居水声

去月にくらふぬ山  
ふふらふらふら

閑居友

たふらふらふら

夜にふらふら

あふらふら

閑居夢

林にふらふら

まふらふら

うふらふら

閑居

心むらふら

古寺松風

松のけしき人の音も静かに  
しるすゑのれぬまは静かに

古寺跡

かきこも奥の松の音を  
きこふゑの静かに

古寺跡

法師のしるしに静かに  
しるすゑのれぬまは静かに

山歌

ふしとて静かにしるす  
きこふゑの静かに

山歌松風

山を静かにしるす  
しるすゑのれぬまは静かに

山歌夕望

ふしとて静かにしるす

わがこころをよめる

田家

かりきりなるを

風ふくむこのまはる

水草蘭舟

とほはやうに掉れ

未だてはこころ

る葉舟

竹風ぬる

ふれぬ新得の竹

をふくむゆき

枝の小夜風

放生會

ふくむるを

ねる月夜

かこ

一念不生



本<sup>ほん</sup>来<sup>らい</sup>と云<sup>い</sup>ふ

きりゆく風のさそひ

水<sup>みづ</sup>は波<sup>なみ</sup>もく

那<sup>な</sup>心<sup>しん</sup>那<sup>な</sup>佛<sup>ぶつ</sup>

何<sup>なん</sup>世<sup>せい</sup>かふともしの事<sup>こと</sup>

あふれん

法<sup>ほふ</sup>然<sup>ぜん</sup>とらふ

身<sup>み</sup>心<sup>しん</sup>一<sup>いつ</sup>をば

何<sup>なん</sup>まふと云<sup>い</sup>ふ

心<sup>しん</sup>六<sup>りく</sup>多<sup>た</sup>く

身<sup>み</sup>に

身<sup>み</sup>窮<sup>きゆう</sup>ん甚<sup>しん</sup>泰<sup>たい</sup>

若<sup>わ</sup>し帯<sup>たい</sup>山<sup>さん</sup>の

袖<sup>そで</sup>の

まげぬ

二三<sup>二三</sup>なりと云<sup>い</sup>ふ

た。あゝぬきば二夜も  
たぎけきりてぬき  
又もこのきりたぬき  
あゝとぞきりてぬき  
ぬきあゝとぞきりて  
まきりてぬきあゝと  
一夜もぬきあゝと  
いきりてぬきあゝと

蓋草ノ事

味苦無毒

咳嗽ノ久キヲ治シ

一切ノ惡瘡ヲ洗

疥瘡ヲ治ス

皮膚ノ小虫ヲ殺ス

但蓋草斗一味煎

煎茶有之形狀之病

相用宜候事

櫻の歌

清輔が貞義叔云

紀貫之

櫻よりまふ花をききたるまは

あつたあまをわたりけり

風土記

伊勢

るるふらに山雲のまを

よそのりちし後まほし

多き新館にま

館よりふらふらとわ

ぶくといふいふやうな

一むつふらふと館と

ふ地ふらふ

館に館へ出日々ふらふ

と館にふらふ館に選ま

但路にふらふ館にふらふ

ふ葉に館にふらふ

五字七字之事

五字ハ  
七字ハ

このはととをれ

五字ハ

五字ハ

五字ハ

五字ハ

五字ハ

紀伊治良郡

五字ハ

五字ハ

一休

五字ハ

五字ハ

五字之事

篇<sup>ヘニカイ</sup>海類編云々音錢與

義同俗用云篇海類編第二十卷 但鈔部第五十三 音錢與錢義同俗用

按二九錢一文ノ重サヲ權衡<sup>ハカリ</sup>

ヲ以考究スルニ開元通寶

永樂通寶等又寛永最寶

ノ鑄錢寛文鑄錢<sup>イセニ</sup>文錢<sup>セニ</sup>等々各

各一文目ナリ中華錢ニテモ漢ノ

五銖錢半兩錢等庚熙錢等ハ

八量稍<sup>ヤ</sup>カテ輕ニ開元錢モ數年

ヲ歷タル故ニヤ九分位アリ是ヲ

ヲ以テ證トスヘキナリ去レハ文目

又一錢目ト云モ其義同クハカリノ

分量ニ用ル名目ノ字ナリ一々

書ハ一文目ノ略書ナリ

毒<sup>トク</sup>糸<sup>イト</sup>子<sup>コ</sup>思<sup>シ</sup>方<sup>ハツ</sup>の方

一々<sup>トク</sup>の毒<sup>イト</sup>ハ 毒<sup>イト</sup>糸<sup>イト</sup>子<sup>コ</sup>思<sup>シ</sup>方<sup>ハツ</sup>の方

一々<sup>トク</sup>の毒<sup>イト</sup>ハ 毒<sup>イト</sup>糸<sup>イト</sup>子<sup>コ</sup>思<sup>シ</sup>方<sup>ハツ</sup>の方

但<sup>レ</sup>モ<sup>ト</sup>ハ<sup>イト</sup>糸<sup>イト</sup>子<sup>コ</sup>思<sup>シ</sup>方<sup>ハツ</sup>の方

一ふぐにあらうる すめ者

一竹の子ハ かんき

一のどろげまハ むせいのまき  
あやうきと  
のふしつねの  
さゆに月

一とゆとまきハ むせいのまき  
あやうきと  
のふしつねの  
さゆに月

右ふ色ハま林を以方々

世巻餅

椿餅

玉ノ井餅

右市本村町亀屋

和泉様方有之

まぐち

一牛膝

右細糸

ツワ

福永三葉方



左根ちキク作りは仕方  
河能保得ち度よりせん

一左根仕方

如振方云云切返添く

能うなりん左根度有

以是左根入中迄是左根

左根中云云帯巾中

前対りん但も左根

如生仕方左根と云

下に掲書如左根云云

左根仕方云云

左根仕方云云

左根仕方云云

左根仕方云云

左根仕方云云

仕方

左根仕方云云

仕方

申す月

經奇事

一經奇とは一句宛短く

抑々不意なる結句

を評す

古今文十九種解經奇

經奇 奇事

はまの まくらまの まくら

やまの まくらまの まくら

ちの まくらまの まくら

つきの まくらまの まくら

わきの まくらまの まくら

さきの まくらまの まくら

しの まくらまの まくら

ひきの まくらまの まくら

ふきの まくらまの まくら

くきの まくらまの まくら

すきの まくらまの まくら

たきの まくらまの まくら

なきの まくらまの まくら

はきの まくらまの まくら

まきの まくらまの まくら

よきの まくらまの まくら

あきの まくらまの まくら

なきの まくらまの まくら

はきの まくらまの まくら

まきの まくらまの まくら

よきの まくらまの まくら

あきの まくらまの まくら

なきの まくらまの まくら

はきの まくらまの まくら

まきの まくらまの まくら

よきの まくらまの まくら

あきの まくらまの まくら

なきの まくらまの まくら

はきの まくらまの まくら

まきの まくらまの まくら

よきの まくらまの まくら

あきの まくらまの まくら

なきの まくらまの まくら

せんとう  
持ち手のしるし

一  
提以舟  
二句  
三句  
四句  
五句  
六句  
七句  
八句  
九句  
十句  
十一句  
十二句  
十三句  
十四句  
十五句  
十六句  
十七句  
十八句  
十九句  
二十句  
二十一句  
二十二句  
二十三句  
二十四句  
二十五句  
二十六句  
二十七句  
二十八句  
二十九句  
三十句  
三十一句  
三十二句  
三十三句  
三十四句  
三十五句  
三十六句  
三十七句  
三十八句  
三十九句  
四十句  
四十一句  
四十二句  
四十三句  
四十四句  
四十五句  
四十六句  
四十七句  
四十八句  
四十九句  
五十句  
五十一句  
五十二句  
五十三句  
五十四句  
五十五句  
五十六句  
五十七句  
五十八句  
五十九句  
六十句  
六十一句  
六十二句  
六十三句  
六十四句  
六十五句  
六十六句  
六十七句  
六十八句  
六十九句  
七十句  
七十一句  
七十二句  
七十三句  
七十四句  
七十五句  
七十六句  
七十七句  
七十八句  
七十九句  
八十句  
八十一句  
八十二句  
八十三句  
八十四句  
八十五句  
八十六句  
八十七句  
八十八句  
八十九句  
九十句  
九十一句  
九十二句  
九十三句  
九十四句  
九十五句  
九十六句  
九十七句  
九十八句  
九十九句  
一百句

人々々々

古今才十九

彭亨人

いふは

あまのふね

さへふのやうに

長久保

三  
五  
七  
九  
十一  
十三  
十五  
十七  
十九  
二十一  
二十三  
二十五  
二十七  
二十九  
三十一  
三十三  
三十五  
三十七  
三十九  
四十一  
四十三  
四十五  
四十七  
四十九  
五十一  
五十三  
五十五  
五十七  
五十九  
六十一  
六十三  
六十五  
六十七  
六十九  
七十一  
七十三  
七十五  
七十七  
七十九  
八十一  
八十三  
八十五  
八十七  
八十九  
九十一  
九十三  
九十五  
九十七  
九十九  
一百

うたよつこねア

混在歌中

一 限中予いふ中内一句子之

にうまれタノキミに  
ちやうとての名をい

張冠了

一、方、下、に、張、の、

萬

河津のついで

天

卷之四

七

中  
心  
文  
庫

ちんちん

三

迎文祝

二、下等、中等、高等文学

いづきのふのふを  
しゝるふもふも  
それのふにふらん

わがふ

一ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ

ふふふふふ

一ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ

水雲玉

いづきのふのふを  
あふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ

日くし  
ふふふ

いふしれつろろ  
目ハ蒼色ぬど思ふ山の  
けあそなるる

江列乳母の原

江列杖衝腰の原

積馬場和原

江列乳母の原

江列杖衝腰の原

中ノ原

江列杖衝腰の原

江列杖衝腰の原

江列杖衝腰の原

江列杖衝腰の原

江列杖衝腰の原

江列杖衝腰の原

江列杖衝腰の原

江列杖衝腰の原

江列杖衝腰の原

江列杖衝腰の原

立列分と院  
後馬場御所

從境川より来た石を  
かして山に立て風景を  
いさかひのちをあらう  
十太系中二十丈に後馬  
場底の御所と名を

堀内御所と仕置

只唯のそとへきていさか  
は小のちなるきわとる

園東之八家

千葉 小山 結城 佐竹 那須  
小田 壬生

右重編巻に記す目  
出

孝成より代義  
九代目 義興

わうふとれ  
世とはい  
有



將軍セウケン下知ゲチ氏シ隱カクレつゝ應仁元年

文明五年ビメイゴ比ヒ事コト

但レ氏シ子コ義詮ギセン氏シ所シ人ヒト故コ  
四海シヤウカイ納ナツりテ権ケンハハ河川カヘン義ギ人ヒト  
能ノ人ヒト之シ後ノチ常トシテ久キウ保ホ門カドトス

新田 足利 西家之事

幡ハタ方カタ所シヨ義家ギケ三男サンヌ式部シキブ大吏ダイリ  
義國ギクニ下野ゲノ國クニ下向ゲカウテ足利アシカリ

ノ庄シヤウ居イ任ニ是コトヲ足利家アシカリケ号ナヅケス

四男シヨウヌ方カタ系ケイ延尉エンウ爲ナリ義ギ實シヤクハハ嫡子テクシ對馬守テイマシ  
其コノ子コ左馬頭サマダウ義朝ギチウ其コノ子コ鑑カン兼ケン

右大將ウヘノオホシラ賴朝ライチウ足利アシカリノ祖ソ義國ギクニ

二人ニヒトノ子コ有アル一男イツナン義重ギシユウ上ウヘ列リツ

新田ニッタノ庄シヤウヲ知行チカウチウテ奇尾キビ城シロ

任ニ大炊オホクハ助タケ入イリ道ミチ上ウヘ西ニノ号ナヅケシ

新田家ニッタケノ元祖ゲンソ田山タヤマ名家メイカ祖ソ

義國ギクニ二男ニヌ義康ギヤウト名ナ來キタテ家ケ

督ツクヲ嗣スキ足利アシカリ新判官シンパンカント号ナヅケス

足利家アシカリケノ正統セイトウニシテ征夷セイイ

大將軍ダイシヤウ尊氏ソンジ云イフヲ始ハジメ代トト云イフ方カタ

御先祖ミセンゾ之シ尊氏ソンジ云イフハ義康ギヤウ判官パンカン

ヨリハ代當トクナリル義康ギヤウノ子コ三人

有リ<sup>チキニ</sup>嫡子<sup>ヤタ</sup>久田<sup>ダイ</sup>判官<sup>ダイ</sup>代義<sup>ダイ</sup>彦<sup>ダイ</sup>  
三男<sup>クラニド</sup>義<sup>ナカ</sup>長<sup>ナカ</sup>三男<sup>ナカ</sup>足利<sup>ナカ</sup>上<sup>ナカ</sup>  
三男<sup>ナカ</sup>義<sup>ナカ</sup>兼<sup>ナカ</sup>之<sup>ナカ</sup>嫡子<sup>ナカ</sup>義<sup>ナカ</sup>清<sup>ナカ</sup>子孫<sup>ナカ</sup>  
今<sup>ミツキ</sup>仁<sup>ホリカハ</sup>本<sup>ホリカハ</sup>神<sup>ホリカハ</sup>門<sup>ホリカハ</sup>ノ<sup>ホリカハ</sup>女<sup>ホリカハ</sup>家<sup>ホリカハ</sup>之<sup>ホリカハ</sup>三男<sup>ホリカハ</sup>  
義<sup>ユイ</sup>兼<sup>セキ</sup>遺<sup>リヨウ</sup>跡<sup>リヨウ</sup>ヲ<sup>リヨウ</sup>領<sup>リヨウ</sup>シ<sup>リヨウ</sup>テ<sup>リヨウ</sup>足利<sup>リヨウ</sup>家<sup>リヨウ</sup>  
相<sup>ソウ</sup>續<sup>ソウ</sup>ス<sup>ソウ</sup>是<sup>シ</sup>ヨリ<sup>シ</sup>足利<sup>シ</sup>家<sup>シ</sup>繁<sup>シ</sup>昌<sup>シ</sup>  
シ<sup>シ</sup>テ<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>重<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>子孫<sup>シ</sup>モ<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>清<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>  
子孫<sup>シ</sup>モ<sup>シ</sup>皆<sup>シ</sup>足利<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>麾<sup>シ</sup>下<sup>シ</sup>属<sup>シ</sup>ス<sup>シ</sup>  
義<sup>シ</sup>兼<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>子孫<sup>シ</sup>ヲ<sup>シ</sup>足利<sup>シ</sup>殿<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>孫<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>  
新田<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>重<sup>シ</sup>入<sup>シ</sup>道<sup>シ</sup>上<sup>シ</sup>西<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>子孫<sup>シ</sup>多<sup>シ</sup>  
有<sup>シ</sup>リ<sup>シ</sup>一男<sup>シ</sup>山<sup>シ</sup>名<sup>シ</sup>伊<sup>シ</sup>豆<sup>シ</sup>二男<sup>シ</sup>里<sup>シ</sup>見<sup>シ</sup>  
右<sup>シ</sup>所<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>後<sup>シ</sup>三男<sup>シ</sup>新田<sup>シ</sup>大<sup>シ</sup>次<sup>シ</sup>丹<sup>シ</sup>  
義<sup>シ</sup>兼<sup>シ</sup>四男<sup>シ</sup>待<sup>シ</sup>川<sup>シ</sup>四男<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>兼<sup>シ</sup>季<sup>シ</sup>  
五男<sup>シ</sup>額<sup>シ</sup>戸<sup>シ</sup>五男<sup>シ</sup>隆<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>山<sup>シ</sup>名<sup>シ</sup>  
里<sup>シ</sup>見<sup>シ</sup>家<sup>シ</sup>傳<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>三男<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>兼<sup>シ</sup>  
ト<sup>シ</sup>云<sup>シ</sup>人<sup>シ</sup>上<sup>シ</sup>西<sup>シ</sup>入<sup>シ</sup>道<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>家<sup>シ</sup>ヲ<sup>シ</sup>嗣<sup>シ</sup>是<sup>シ</sup>リ<sup>シ</sup>  
新田<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>嫡<sup>シ</sup>流<sup>シ</sup>ニ<sup>シ</sup>山<sup>シ</sup>名<sup>シ</sup>待<sup>シ</sup>川<sup>シ</sup>里<sup>シ</sup>  
見<sup>シ</sup>額<sup>シ</sup>戸<sup>シ</sup>皆<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>兼<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>子孫<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>云<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>兼<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>  
義<sup>シ</sup>兼<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>義<sup>シ</sup>兼<sup>シ</sup>ヲ<sup>シ</sup>七代<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>嫡<sup>シ</sup>流<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>

木曾由緒之事

八幡古所家系始末  
親實為子左馬頭

賴二男常刀先生為賢子

子約王丸其本為賢仲

美賢ハ兄ノ弟也梅津シテ

源金ヲ案ハント企及弟婦

男海方為平討ト又

ヲ討シヨリ惡原ヲ云約

ヨリ

鎌倉十將軍

賴朝 賴家 賴朝ノ長子 實朝 實朝ノ子 實朝

賴朝ノ次子也賴家ノ子公曉 平政子

北條時政ノ子也賴經 藤原ノ左大臣 賴嗣

賴經ノ子 宗尊親王 後嵯峨院第四子

惟康親王 宗尊親王ノ嫡子 久明親王 後深草

守邦親王 久明親王ノ年高時自後之日 平氏ハ賴朝ニ至ル

百四十九年

氏平

時家子  
遠江守

義時

陸時政  
貞守男

ヤヌ  
恭時

時氏

修泰時亮

經時

時氏嫡子

經時カ嬪子  
相摸守

時宗子  
左時

馬賴頭カニ男

目時

高子タカコ

時  
相負  
摸時

守力嫡子

足利將軍十二代  
順次并年曆

一 等病院 東京市会

在二十一年

二 寶蓮院 染義詮

延文三戌戌  
在十七年

三鹿苑院原義滿公

應安元戌申  
在二十六年

四 勝定院 宗義 持公

應永元申戌  
在二十九年

五  
普  
廣  
定  
源  
義  
教  
公

同三年癸卯  
在十九年

六  
慶雲院源義勝公

嘉慶二十五年  
在七年

七  
慈昭院  
源義政公

寶應元年巳巳  
在十四年

ハ  
常徳院シヤウトク源義尚ヒサナガ公

元祐元年  
在十七年

九 惠林院 義植タケ

延慶二巳酉

十法住院原義證

明應三  
在十四年

土恵栲院源義植云 永正五辰  
在十三年

後考右將軍

十二高栲院源義晴云 大永元年巳  
在廿五年

十三光源院源義隆云 天文十一年  
在十九年

永祿八年己丑五月十九日三好  
義継大將軍義輝公ヲ弒

當公云ヨリ義輝公迄十三代  
延之二戌寅ヨリ天文十五酉迄

同年曆二万七千年也

細川頼之ノ事

一等持院當公也 文三戌四月

大九ノ病犯卿多義隆任任

大將軍一考云サノミ武勇奥

ナクマシ、カドモ云性仁愛深

人ヲ殺ス事ヲ好ム人ノ諫ヲ

ハタマイシカハ世人思付所歟ト

卿者ナシ義隆ヲ祚室龜院ト

卿在世ノ内細川武敏等頼之

ヲ若君ノ所後見天下ノ管領

ハ作付若君于時十歳大樹

富留中継後ハ之様有テ義隆

リヤス鹿苑相國也頼之ハ

武文之道也ト云 政道秘要

セテレシニヨリ<sup>ト</sup>露<sup>ロ</sup>年<sup>ニ</sup>内<sup>ニ</sup>都<sup>ト</sup>都<sup>ト</sup>  
悉<sup>コト</sup>ク<sup>ニ</sup>要<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>貴<sup>キ</sup>賤<sup>ニ</sup>相<sup>ニ</sup>悦<sup>ニ</sup>交<sup>ニ</sup>由<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>  
十七<sup>ニ</sup>口<sup>ニ</sup>和<sup>ニ</sup>月<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>万<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>頼<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>軍<sup>ニ</sup>  
監<sup>カ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>テ<sup>ニ</sup>九<sup>ニ</sup>列<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>進<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>苗<sup>ニ</sup>地<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>  
市<sup>カ</sup>通<sup>ニ</sup>信<sup>ニ</sup>九<sup>ニ</sup>列<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>次<sup>ニ</sup>悉<sup>ニ</sup>ク<sup>ニ</sup>信<sup>ニ</sup>テ<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>  
七<sup>ニ</sup>遠<sup>ニ</sup>オ<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>テ<sup>ニ</sup>皆<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>統<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>  
即<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>九<sup>ニ</sup>同<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>春<sup>ニ</sup>官<sup>ニ</sup>信<sup>ニ</sup>細<sup>ニ</sup>  
川<sup>ニ</sup>頼<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>入<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>常<sup>ニ</sup>久<sup>ニ</sup>病<sup>ニ</sup>死<sup>ニ</sup>久<sup>ニ</sup>鹿<sup>ニ</sup>苑<sup>ニ</sup>死<sup>ニ</sup>  
殿<sup>ニ</sup>解<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>外<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>悲<sup>ニ</sup>歎<sup>ニ</sup>病<sup>ニ</sup>床<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>即<sup>ニ</sup>成<sup>ニ</sup>リ<sup>ニ</sup>  
市<sup>カ</sup>勢<sup>ニ</sup>面<sup>ニ</sup>何<sup>ニ</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>存<sup>ニ</sup>テ<sup>ニ</sup>ラ<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>可<sup>ニ</sup>  
ト<sup>ニ</sup>心<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>懸<sup>ニ</sup>ル<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>傳<sup>ニ</sup>ウ<sup>ニ</sup>ス<sup>ニ</sup>只<sup>ニ</sup>平<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>  
下<sup>ニ</sup>素<sup>ニ</sup>平<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>即<sup>ニ</sup>治<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>願<sup>ニ</sup>ヒ<sup>ニ</sup>思<sup>ニ</sup>フ<sup>ニ</sup>  
計<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>去<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>追<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>山<sup>ニ</sup>名<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>者<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>莫<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>  
太<sup>ニ</sup>國<sup>ニ</sup>郡<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>領<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>限<sup>ニ</sup>リ<sup>ニ</sup>ナ<sup>ニ</sup>キ<sup>ニ</sup>極<sup>ニ</sup>威<sup>ニ</sup>  
ヲ<sup>ニ</sup>ナ<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>ム<sup>ニ</sup>義<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>義<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>憲<sup>ニ</sup>式<sup>ニ</sup>ニ<sup>ニ</sup>背<sup>ニ</sup>目<sup>ニ</sup>キ<sup>ニ</sup>  
公<sup>ニ</sup>方<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>凶<sup>ニ</sup>徒<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>乱<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>ナ<sup>ニ</sup>ス<sup>ニ</sup>ヘ<sup>ニ</sup>キ<sup>ニ</sup>  
者<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>ニ<sup>ニ</sup>氏<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>滿<sup>ニ</sup>幸<sup>ニ</sup>横<sup>ニ</sup>逆<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>錄<sup>ニ</sup>リ<sup>ニ</sup>  
諸<sup>ニ</sup>叛<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>自<sup>ニ</sup>滅<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>即<sup>ニ</sup>歟<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>種<sup>ニ</sup>尽<sup>ニ</sup>果<sup>ニ</sup>  
ク<sup>ニ</sup>レ<sup>ニ</sup>當時<sup>ニ</sup>外<sup>ニ</sup>ヨリ<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>名<sup>ニ</sup>逆<sup>ニ</sup>竟<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>



存スルモノ無ク今天下密々  
平治ニ當久カ悦喜ニ空窮ル  
自今以後管領タラン者其  
器量能ク撰ルヘニ某ガ身ニ於テ  
庶幾スルヲ無クト云テ平云ス

細川元祖

八幡太郎義家河孫足利判官  
義康ニ二人子有リ一人ハ足利  
上総今義康足公方家ノ所  
先祖ト今又ハ矢田判官代義清  
トテ足細川ノ先祖ト世義清元  
末義康ノ嫡男ナレ共本曾義  
仲ノ妹嫁ニテ備中水嶋ノ軍  
討死其子孫代ニ武臣クシ共都  
微ナル故足利江隨順ス

斯波家之幸

一新治家ニ足利氏族中ニモ

嫡流ノ良家ニ元祖義康ノ孫  
足利左馬頭義隆ノ男尾花  
弘氏ト云フ尾花弘家  
ヲ始テ新治ト云フ子尾花  
修理ト云フ尾花守持氏ノ所  
所歟ノ也方將新田左中將義久  
ヲ討死後ニ跡ヲ尾花遠山ノ子  
護職ト云フ任道親禰ト云フ也  
其後室蓮院ノ親ノ職ノ所

此時始に世職ヲ下ノ管領

ト名付ラル道親多ク家系ハ

其別探頭ニ下ナル道朝男子

一男隆興也家長ニ建武ノ乱

討死ス二男左京亮氏種

九別探頭ニ男左衛門佐氏頼

遁世四男左衛門右衛門父家

無相續ニ任官領事ヨリ

代々管領職トナリ仁本

御門島山ニ相並ヘリ新田氏

代々屋法寺ニ任セ三故二名氏

ヲ尾張トモ云又應安年中ヨリ

代々洛中ノ二條武衛門陳ト云

宅地ヲ居ケル故武衛門家ト云

朝倉家車一親父家親セシカニ其被官也

余右衛門左衛門般系親家ノ守護

代セカセ置ケルニ其般系應仁ノ乱

後文明ノ此公方家ノ味方ト

成テ主君刺波家ヲ押解  
城方ノ忠戦ノ切ヲ立ッ日本古  
録ノ大名守護合字文致  
ヲ定メラシメ時陪臣ヲモテ  
此朝倉ヲ教入ラシタリ凡下  
ノ者ナシ共果報ヤ善カリケ  
度ニ忠戦印積テ永正十三年  
夏六月當付ノ管領代大内

少義興ノ吹響ニテ  
孫朝倉深正丸孝景ニ白キ  
袋虎皮鞆覆御免刺後  
以テ經上テ御相伴衆ニ加リ

織田家之事  
一織田上經人信長ト云ハス  
清家ノ家長尾ノ産ノ昔  
康永年中ノ管領新波治部  
大浦原義將威勢有人ニテ

洛陽<sup>ラウヤウ</sup>南<sup>カ</sup>解<sup>ゲ</sup>中<sup>ノ</sup>小<sup>コ</sup>洛<sup>ロ</sup>武<sup>ブ</sup>衛<sup>エイ</sup>陳<sup>チン</sup>  
宅<sup>タク</sup>地<sup>チ</sup>ヲ賜<sup>タタ</sup>ル<sup>タ</sup>依<sup>ヨ</sup>テ<sup>テ</sup>武<sup>ブ</sup>衛<sup>エイ</sup>家<sup>カ</sup>稱<sup>ショウ</sup>号<sup>ゴウ</sup>  
號<sup>ゴウ</sup>市<sup>シ</sup>尾<sup>ビ</sup>法<sup>ホウ</sup>為<sup>タ</sup>玉<sup>ギョク</sup>ノ<sup>ノ</sup>領<sup>リョウ</sup>スル<sup>スル</sup>政<sup>セイ</sup>更<sup>セイ</sup>  
號<sup>ゴウ</sup>三<sup>サン</sup>人<sup>ニ</sup>ノ<sup>ノ</sup>家<sup>カ</sup>長<sup>チヤウ</sup>有<sup>ユウ</sup>リ<sup>リ</sup>所<sup>ショ</sup>謂<sup>ヰ</sup>細<sup>シ</sup>  
川<sup>セン</sup>出<sup>シュツ</sup>羽<sup>フ</sup>寺<sup>ジ</sup>鹿<sup>カ</sup>羊<sup>ヤウ</sup>無<sup>ム</sup>厚<sup>コウ</sup>助<sup>シュ</sup>三<sup>サン</sup>王<sup>ワウ</sup>  
信<sup>シン</sup>院<sup>エン</sup>中<sup>チュウ</sup>射<sup>シャ</sup>人<sup>ニ</sup>名<sup>ナ</sup>多<sup>タ</sup>多<sup>タ</sup>名<sup>ナ</sup>千<sup>セン</sup>福<sup>フク</sup>  
中<sup>チュウ</sup>勢<sup>セイ</sup>之<sup>シ</sup>也<sup>ヤ</sup>増<sup>ゾウ</sup>氏<sup>シ</sup>甲<sup>ケツ</sup>山<sup>サン</sup>多<sup>タ</sup>多<sup>タ</sup>之<sup>シ</sup>其<sup>キ</sup>後<sup>ゴ</sup>  
ノ<sup>ノ</sup>中<sup>チュウ</sup>常<sup>ジョウ</sup>ノ<sup>ノ</sup>世<sup>セ</sup>ニ<sup>ニ</sup>御<sup>ミ</sup>川<sup>セン</sup>出<sup>シュツ</sup>羽<sup>フ</sup>寺<sup>ジ</sup>公<sup>コウ</sup>方<sup>ホウ</sup>  
家<sup>カ</sup>長<sup>チヤウ</sup>能<sup>ネ</sup>進<sup>シン</sup>ト<sup>ト</sup>キ<sup>キ</sup>ン<sup>ン</sup>ノ<sup>ノ</sup>事<sup>ジ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>知<sup>チ</sup>ル<sup>ル</sup>御<sup>ミ</sup>田<sup>テン</sup>ノ<sup>ノ</sup>

東<sup>トウ</sup>小<sup>コ</sup>公<sup>コウ</sup>者<sup>シヤ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>家<sup>カ</sup>長<sup>チヤウ</sup>ト<sup>ト</sup>ス<sup>ス</sup>ニ<sup>ニ</sup>来<sup>キ</sup>来<sup>キ</sup>  
神<sup>シン</sup>前<sup>ゼン</sup>出<sup>シュツ</sup>羽<sup>フ</sup>寺<sup>ジ</sup>ノ<sup>ノ</sup>氏<sup>シ</sup>明<sup>メイ</sup>神<sup>シン</sup>氏<sup>シ</sup>人<sup>ニ</sup>  
ノ<sup>ノ</sup>子<sup>シ</sup>ナ<sup>ナ</sup>シ<sup>シ</sup>其<sup>キ</sup>文<sup>ブン</sup>武<sup>ブ</sup>道<sup>ダウ</sup>勝<sup>ショウ</sup>カ<sup>カ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ガ<sup>ガ</sup>ル<sup>ル</sup>  
故<sup>コ</sup>ニ<sup>ニ</sup>是<sup>シ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>而<sup>ニ</sup>方<sup>ホウ</sup>々<sup>ゾ</sup>家<sup>カ</sup>長<sup>チヤウ</sup>ト<sup>ト</sup>ス<sup>ス</sup>尾<sup>ビ</sup>列<sup>リョク</sup>  
精<sup>セイ</sup>明<sup>メイ</sup>ノ<sup>ノ</sup>城<sup>シヤウ</sup>氏<sup>シ</sup>三<sup>サン</sup>乃<sup>ノ</sup>至<sup>シ</sup>玉<sup>ギョク</sup>怒<sup>ド</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>執<sup>シツ</sup>  
行<sup>コウ</sup>シ<sup>シ</sup>ム<sup>ム</sup>未<sup>ミ</sup>孫<sup>ソン</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>大<sup>ダイ</sup>和<sup>ワ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>敏<sup>ミン</sup>定<sup>テイ</sup>ト<sup>ト</sup>号<sup>ゴウ</sup>ス<sup>ス</sup>  
去<sup>キョ</sup>子<sup>シ</sup>大<sup>ダイ</sup>和<sup>ワ</sup>年<sup>ネン</sup>敏<sup>ミン</sup>信<sup>シン</sup>子<sup>シ</sup>乃<sup>ノ</sup>大<sup>ダイ</sup>和<sup>ワ</sup>入<sup>ニ</sup>道<sup>ダウ</sup>  
常<sup>ジョウ</sup>祐<sup>ユウ</sup>日<sup>ニチ</sup>庶<sup>シヨ</sup>子<sup>シ</sup>乃<sup>ノ</sup>忠<sup>チュウ</sup>信<sup>シン</sup>定<sup>テイ</sup>カ<sup>カ</sup>子<sup>シ</sup>  
ヲ<sup>ヲ</sup>備<sup>ヒ</sup>後<sup>ゴ</sup>寺<sup>ジ</sup>信<sup>シン</sup>秀<sup>シュウ</sup>ト<sup>ト</sup>ス<sup>ス</sup>惣<sup>ソウ</sup>領<sup>リョウ</sup>ノ<sup>ノ</sup>

大和子ニ隨身ニ陣代ヲ勤メルガ  
武功者ニテ其威遠近ヲ振  
テ後大和入道常祐病死  
家督彦五郎微恙故信秀  
等一族三人後光ニテ彦五郎ヲ  
モリ立ル信秀病死ニテ其子  
家督ヲ繼ケル上信外信長是  
信秀死去後或衛家兄ト

織田彦五郎不和ニシテ天文  
廿二年秋彦五郎誘倒ノ故門デ  
彦五郎ハ終ニ主君ニ殺セラ  
れシケリ主君之歎ナレ故惣  
領家トハ信長討之其後  
禮志今川氏之ヲ喝止メ其  
楠氏同ノ一戦ニ討勝其後  
市原右衛門左衛門ヲ追出シ

養濃尾法与國、大守成  
東海東山兩道、管領之濃  
別攻卓、居任、其系緒  
ヲ尋ルニ早賤ノ種類ニアラ  
入故平相國清盛、後流也ト

云々  
淺井家之事  
一江別岩、城主淺井備前守長政  
ハ信長ノ妹嫁ミシテ佐々木  
宗將大將ト是將清ノ家ト

爲ルニ永正十四年、京極寺  
情卒、去シケレハ其子京極  
三公子、岑家督ト副、後若  
不爲置ミシテ能ク後見トシ  
世時、淺井亮政、江小、下野  
村ノ領地ト知シケルカ其後  
京極寺、岑家、合、我、有、  
京極討、負、六角、頼、兩、家、ノ



人教之河井ノ戦フトイヘ  
氏孫ノ討負<sup>アツカイ</sup>暖ヲ入<sup>カホシ</sup>和<sup>カホシ</sup>睦<sup>カホシ</sup>  
主君高岑臣下ノ河井<sup>コウ</sup>降<sup>コウ</sup>  
泰<sup>サイ</sup>ス高岑<sup>コウ</sup>剋<sup>キ</sup>變<sup>ヘン</sup>利<sup>リ</sup>角<sup>カク</sup>示<sup>サイ</sup>  
ト早<sup>コウ</sup>シ山谷ノ<sup>イニ</sup>降<sup>キヨ</sup>長<sup>サ</sup>セ有<sup>モ</sup>ラモ  
無<sup>ナ</sup>リ如<sup>コト</sup>クス京<sup>キョウ</sup>都<sup>ト</sup>ノ舊<sup>キョウ</sup>地<sup>チ</sup>無<sup>ナ</sup>ク  
皆<sup>ミナ</sup>河井<sup>コウ</sup>家<sup>カ</sup>上<sup>ウ</sup>所<sup>所</sup>也<sup>也</sup>セシム其<sup>キ</sup>後<sup>ノチ</sup>  
亮<sup>リョウ</sup>政<sup>セイ</sup>小<sup>コ</sup>谷<sup>コウ</sup>ニテ病<sup>ヤミ</sup>死<sup>シ</sup>ス其<sup>キ</sup>子<sup>コ</sup>久<sup>キウ</sup>  
改<sup>カ</sup>ム<sup>ム</sup>其<sup>キ</sup>名<sup>ナ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>依<sup>ヨ</sup>テ<sup>テ</sup>其<sup>キ</sup>子<sup>コ</sup>

リテ大<sup>ダイ</sup>将<sup>ショウ</sup>黒<sup>コ</sup>十<sup>ジュ</sup>シ依<sup>ヨ</sup>テ<sup>テ</sup>其<sup>キ</sup>子<sup>コ</sup>  
備<sup>ビ</sup>あり長<sup>チヤウ</sup>政<sup>セイ</sup>系<sup>ケイ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>嗣<sup>ス</sup>久<sup>キウ</sup>政<sup>セイ</sup>  
源<sup>ゲン</sup>指<sup>シ</sup>入<sup>ニ</sup>望<sup>ボウ</sup>水<sup>スイ</sup>原<sup>ゲン</sup>三<sup>サン</sup>年<sup>ネン</sup>春<sup>シュン</sup>  
六<sup>ロク</sup>角<sup>カク</sup>入<sup>ニ</sup>道<sup>ドウ</sup>承<sup>ショウ</sup>頼<sup>ライ</sup>父<sup>フ</sup>子<sup>シ</sup>ノ戦<sup>セン</sup>イ<sup>イ</sup>  
戦<sup>セン</sup>ニ市<sup>シ</sup>勝<sup>ショウ</sup>武<sup>ブ</sup>名<sup>ナ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>追<sup>ツイ</sup>迫<sup>パク</sup>  
顯<sup>アキラ</sup>ス

三<sup>サン</sup>好<sup>コウ</sup>家<sup>カ</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ジ</sup>  
一<sup>イチ</sup>三<sup>サン</sup>好<sup>コウ</sup>家<sup>カ</sup>ハ其<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>地<sup>チ</sup>清<sup>セイ</sup>和<sup>ワ</sup>民<sup>ミン</sup>  
橋<sup>ハシ</sup>梁<sup>リョウ</sup>法<sup>ホフ</sup>寺<sup>ジ</sup>府<sup>フ</sup>将<sup>ショウ</sup>軍<sup>クン</sup>義<sup>ギ</sup>仲<sup>チュウ</sup>

福<sup>ヨリ</sup>と<sup>モ</sup>義<sup>ニ</sup>ノ三男刑部丞

義<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>新羅<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>少<sup>ニ</sup>號<sup>ス</sup>

義<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>五<sup>ニ</sup>代<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>流<sup>ス</sup>山<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>

以<sup>テ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>食<sup>ス</sup>太<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>

賴<sup>ニ</sup>新<sup>ニ</sup>治<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>時<sup>ニ</sup>位<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>繼<sup>ス</sup>

長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>ノ子<sup>ニ</sup>少<sup>ニ</sup>治<sup>ニ</sup>太<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>

子<sup>ニ</sup>代<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>食<sup>ス</sup>之<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>繼<sup>ス</sup>

武<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>繼<sup>ス</sup>

河<sup>ニ</sup>波<sup>ニ</sup>玉<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>好<sup>ニ</sup>領<sup>ス</sup>主<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>馬<sup>ニ</sup>頭<sup>ニ</sup>

實<sup>ニ</sup>隆<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>モ<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>急<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>ク

之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>

部<sup>ニ</sup>少<sup>ニ</sup>備<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>房<sup>ニ</sup>討<sup>ス</sup>手<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>繼<sup>ス</sup>

盛<sup>ニ</sup>隆<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>

之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>

阿<sup>ニ</sup>加<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>

河内守長房ト名乗ル是

長房ノ先祖ニ男信濃守

長忠ニ父遺跡ヲ嗣信ハ

長住人少長系ノ氏族是

三好長房カ子ヲ左近將監

長禮長子長二房長景ト

子左近進長直ト子左近將監

長親長子長禮長房長宣其

子河内守長房ト名乗ル是

義永ト子式部長房長

之ノ子三好長房ト名乗ル是

長房ト名乗ル是

希重長房ト名乗ル是

長房ト名乗ル是

好氏ノ事ト等持院御

世ヨリ河内守長房ト名乗ル是

洛ク河波サマキ渡波皆細川

ノ魔下キカ成ル依テ三好モ彼

家ノ被ヒクハシ害ト成ルニ依テ

今陪月ニ類スト云ヘトモ

其先紀不賤他門異イヤシカラスタモシ計

ト云

ア子サハルコ凡上ヨリセウニ品し事

在武州バニウア子サハルコ凡上ヨリセウニ品し事

其因サハルコ春ハル栢カキ松マツ凡上ヨリセウニ品し事

カ一サハルコ馬ウマキキ弟ニ者モノ有アルリリ小コ形カタス

角ツノ燕ツバメより春ハル耳ミミニ依ヨリテ

み大オホ原ハラ能ノリリ子コ凡上ヨリセウニ品し事

右用サハルコ後ノチ生ナマルル栢カキ松マツ凡上ヨリセウニ品し事

方カタ有アルリリ松マツ栢カキ凡上ヨリセウニ品し事

栢カキノ木キニ百ヒャク者モノ有アルリリ見ミタタス

ア子サハルコ凡上ヨリセウニ品し事



此印は龍之門の雲を以て表し、  
印の左側に「双」の字あり、  
何れの日も此印を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、

一 御印は龍之門の雲を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、

一 龍之門の雲を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、  
此印は龍之門の雲を以て表し、

一 美雪園子 （りんぎん）

一 如賀野

一 志の原

大々四合信守町三丁目  
玉川和泉方有



大坂加高津の南

一 寺 妙 寺

一 寺 妙 寺

一 寺 妙 寺

但行寺の寺の寺

鹽は

後より寺の寺

寺の寺

大 寺

寺 妙 寺

但一日一寺の寺

一 寺 妙 寺

但行寺の寺の寺

寺 妙 寺

寺 妙 寺

一 寺 妙 寺

但一寺の寺の寺

一 寺 妙 寺

古風の多様性  
 一、所記の古風  
 二、経典の古風  
 送

一 一  
名 名  
家 家  
家 家

位黃廷之

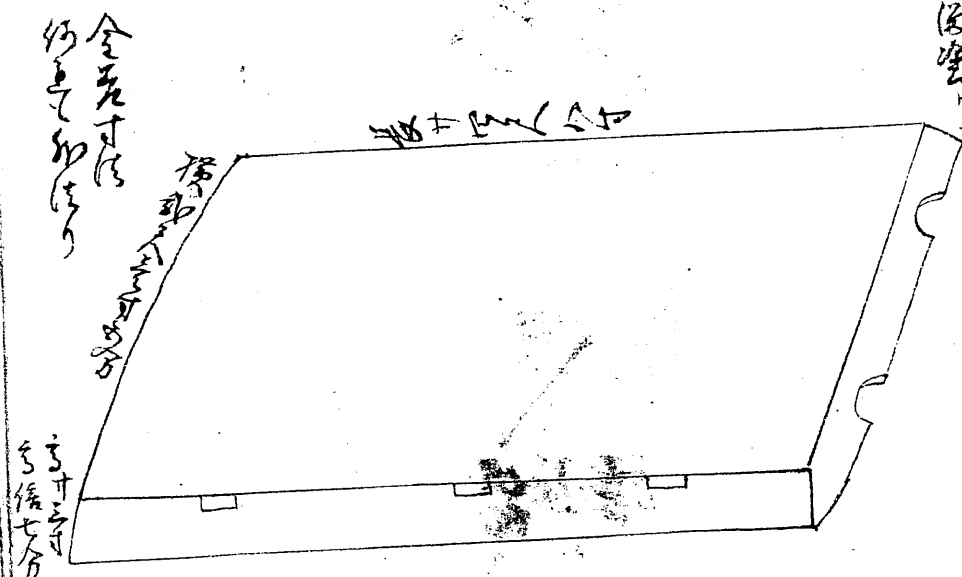
古く来りて  
 今も其の如く  
 其の如く  
 其の如く

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

姓名 江村 与海 与三 与生  
 与山 与好 与白 与花 与雪  
 与金 与木 与土 与水 与火 与风  
 与日 与月 与星 与辰 与巳 与午

師不遠千里以教人

一 裏帳之下入



金虎可居  
何處即何處

権現様  
すゝ甲辰波迄三の

少室山人之書

題名より古きものあり

如く申す愛といふは

物成るは國中のよ

同之

ふたつとていふは

いづれのちより

水々々々はるの茶と

清志通之世

卷之五

人子仕官海內者

10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 8

大正九年

本  
人  
が  
「  
好  
不  
」

卷一

五  
七

文武一途

海人 吳江人

卷之六

如左之字

太史公集補卷之六

[illegible]

ふ成さるるもいふことなる  
事よて女後と云ふ紀  
太布初名河集り云云

野馬臺詩之事

梁ノ寶誌和尚編テ  
東海姫氏國ノ始終  
ヲ知シメ給ヘリ

嵐山之事

至嵯峨天龍寺金山  
ノ棟梁タルニ依テ是ヲ  
木寺ニ用ル也景八  
二龜山客山二嵐ノ峯  
此嵐山ト申ハ吉野ノ花  
ノ種ヲ移シ龍田ノ楓  
苗ヲ取萬株ヲ集メ  
千本ヲ植ル也

但  
龜山院 勅ニテ植ル也



[illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written on a single sheet of paper, with the right edge showing the binding of the book. The script is dense and flowing, characteristic of 18th or 19th-century cursive. The text is written in a single column, with some lines starting with a capital letter. The paper appears aged and slightly discolored.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical passage, written in a cursive style.

Handwritten text in Arabic script, possibly a heading or a specific section marker.

Handwritten text in Arabic script, continuing the passage from the previous page. The text is written in a cursive style and appears to be a continuation of the religious or philosophical discourse.



輕回を以て後を去るを言ふ

一 王女

古に王女といふ王女は用ひ  
出るといふは王女は用ひ  
常例の用ひは王女は用ひ  
人倫會社交合は用ひ

一 動物の理の如くに居る理の  
制を以て理の如くに人理の  
よりなる理の如くに人理の  
よりなる理の如くに人理の

理の如くに人理の如くに人理の  
交合の如くに人理の如くに人理の  
よりなる理の如くに人理の  
よりなる理の如くに人理の  
よりなる理の如くに人理の  
よりなる理の如くに人理の  
よりなる理の如くに人理の  
よりなる理の如くに人理の

今野経基活佛也

武道

活佛と云ふ名を

あつて

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ

梨子栗園の事

一甲別き梨子園の事

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ

ふたつ



永年堂

劉村園主

丁巳

宣統二年九月

右利ふ六甲列書  
六玉川  
利子國イ  
一系人

少く粟大小た、凡味食  
 又小品川を小今相也  
 不より出た粟、大小た  
 宜んる去る川粟笑し  
 亦少く大何じ、さるる  
 水粟小多し、今、雨粟  
 大し、音、今、事

一 玄 芋 若 武 少 後 父 郡  
 服 姓 ト ト ヲ リ 生 余 余 大

そしつて三カ方見事  
其のそしつて江角を  
茅間屋上程を去る  
九月中旬  
一夜の夢  
出回るも同回  
上へ飯粒  
川下り約四  
但上程を去る  
を十月未

